

マンガふるさと
の偉人

支倉常長

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

BIG



いま
今からおよそ
400年前

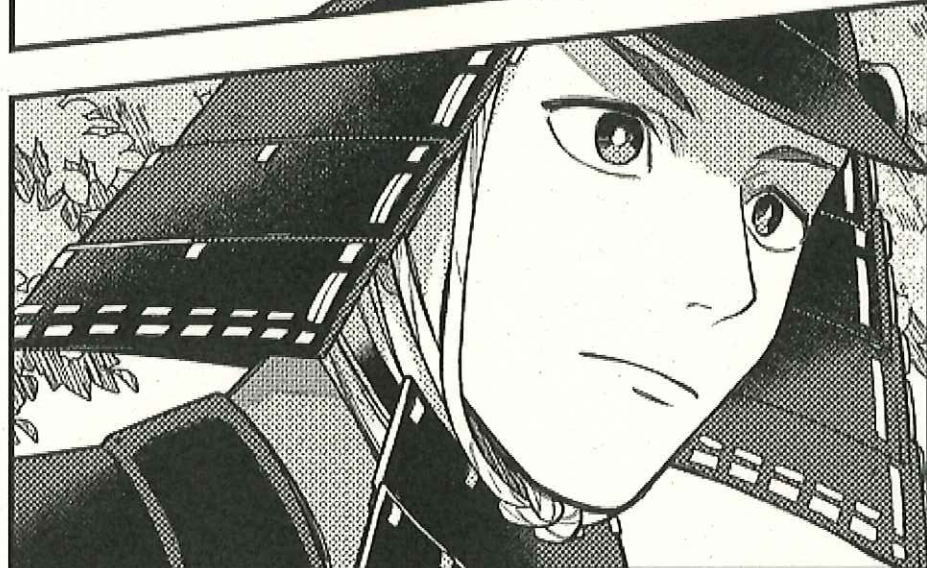
徳川家康が
江戸幕府を
開いてから
間もないころ

ヨーロッパ世界に
目を向けた男と
その世界を
実際に見てきた男が
仙台藩にいた



それが

初代藩主
伊達政宗と



その家臣の
支倉六右衛門常長
である



常長は

世界を股にかけた
サムライであった



政宗は
南蛮文化に
高い関心を示し

※ポルトガルやスペインの文化のこと。
東南アジアや中国、メキシコなどを通じて、日本へもたらされた。



長かった
戦国の世も
終わり

1613
(慶長18)年

日本も
少しずつ
平穏に
なってきた



もつた
いない
お言葉
です

つねなが
常長 44歳

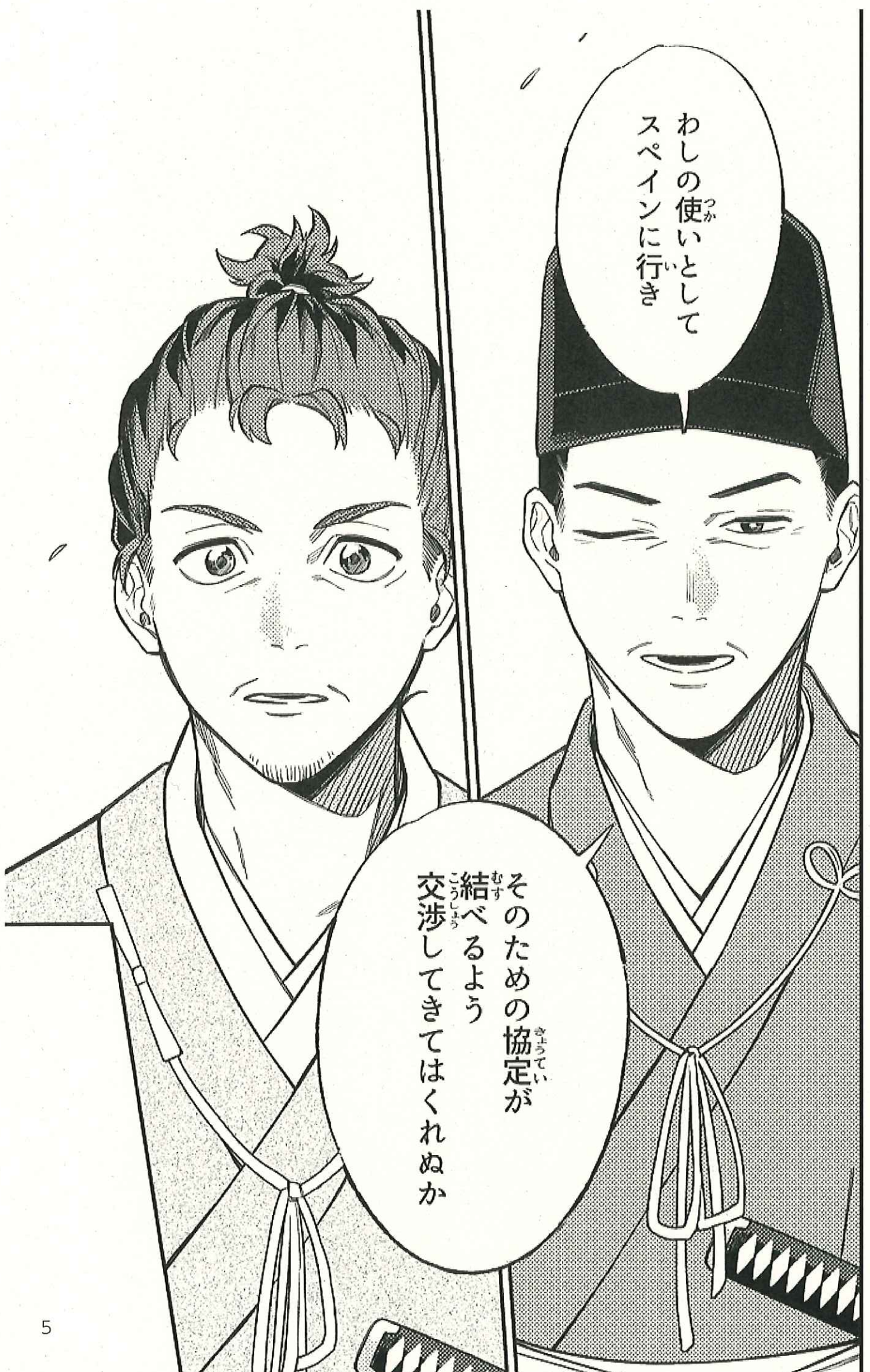


六右衛門

そちが
わしの
近くで
長い間
よく働
いてき
てくれ
たこと
には
礼を言
うぞ

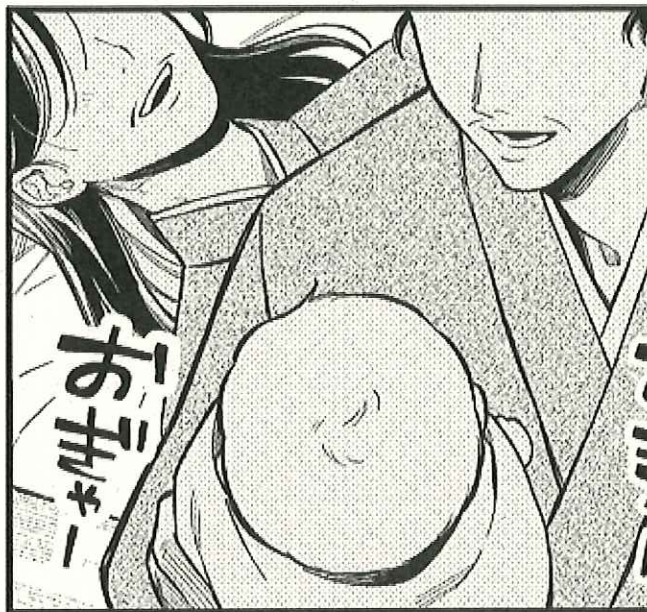
まさむね
政宗 47歳





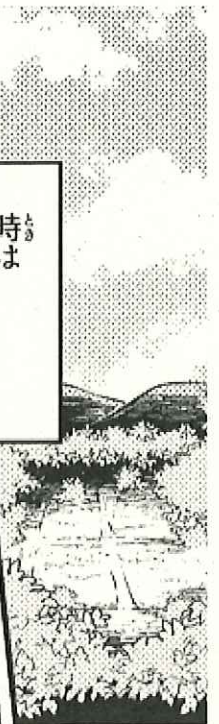
わしの使^{つか}いとして
スペインに行き

そのための協^{きょう}定^{てい}が
結^{むす}べるよう
交^{こう}渉^{じょう}してきてはくれぬか



時は
戦国時代後期

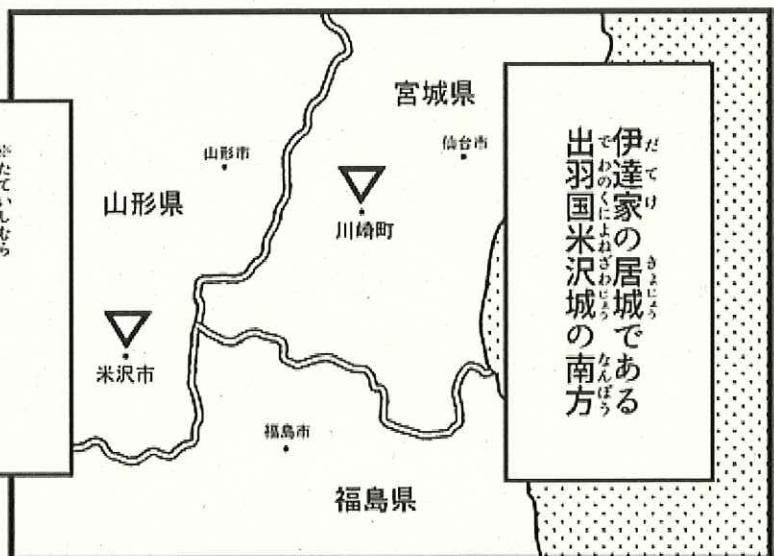
1570
(元亀元)年



伊達家臣
支倉飛騨守常成の
長男として生まれた
常長は



立石村の
豊かな自然の中で
育った



伊達家の居城である
出羽国米沢城の南方

※現在の山形県米沢市立石

じっ ぽ つねなり
実父・常成

くろ えもん
六右衛門

こちらに参れ

はい 父上

つねなが さい
常長 8歳ごろ

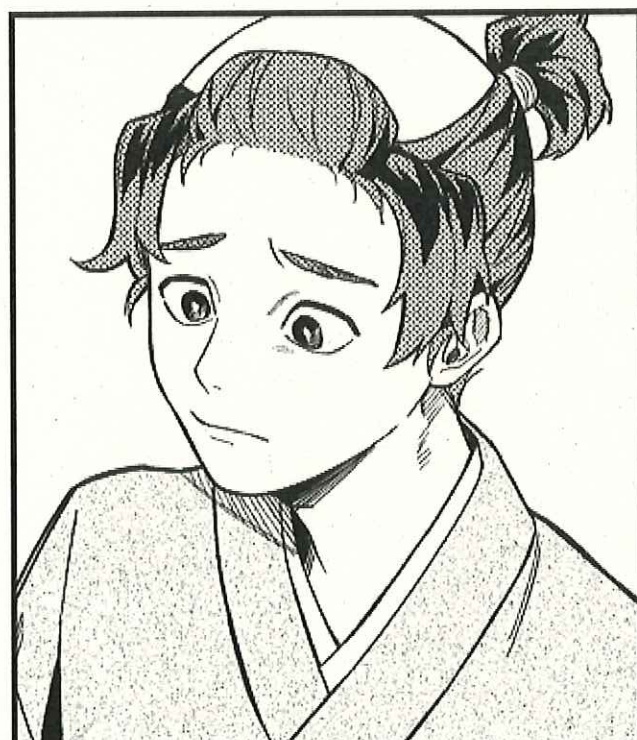
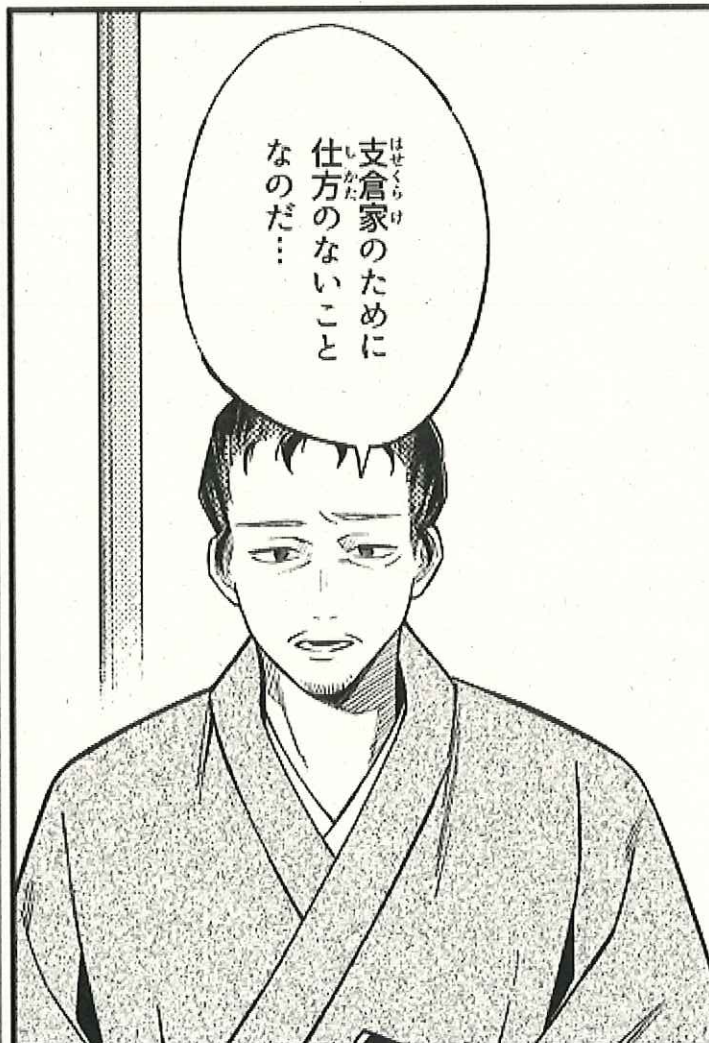
そなたを
養子に出す

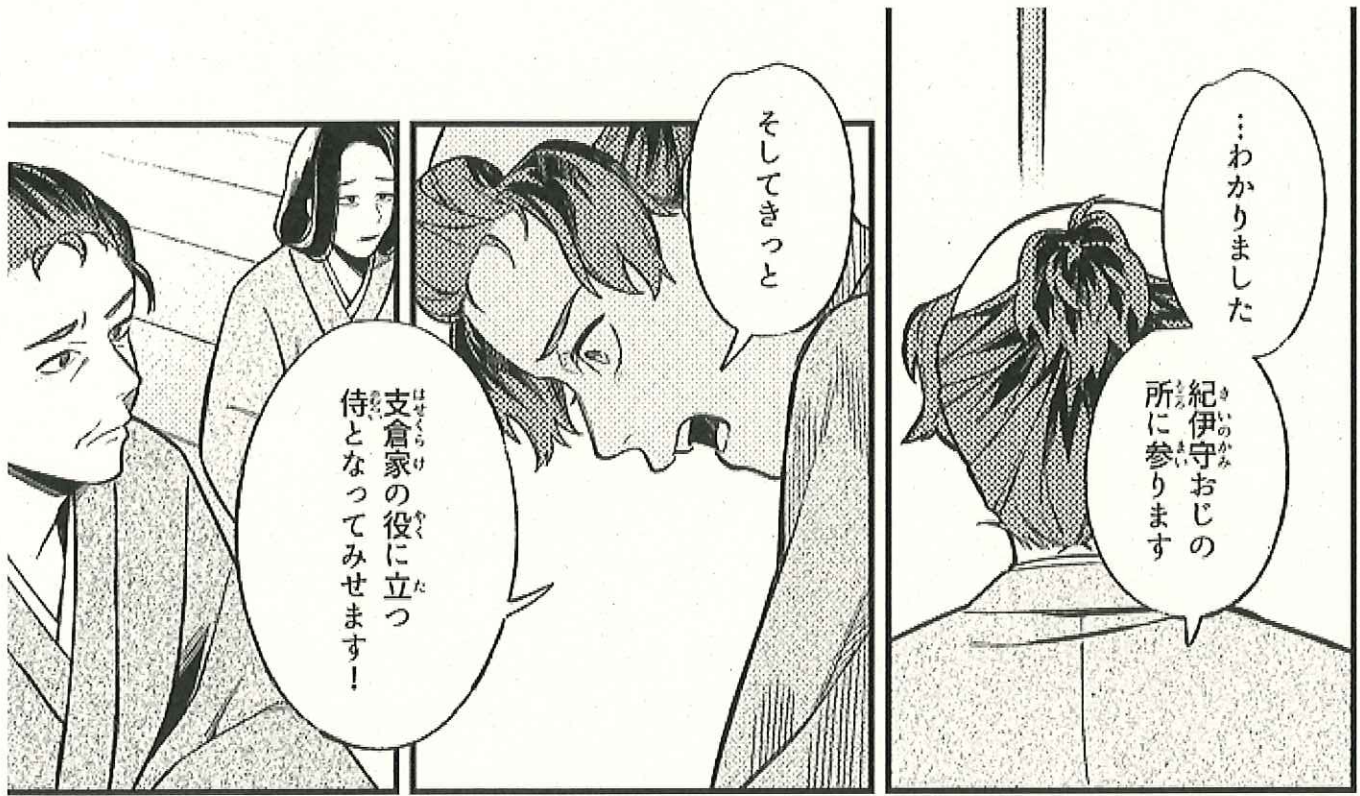
わしの兄

※きのかみ いえ
紀伊守の家の
子供になりなさい

そこに
話さなければ
ならないことがある

※紀伊守=時正





※現在の宮城県柴田郡川崎町支倉



つねなが
常長が元服して
成人となる頃

かみんでじょうか
上楯城下





六右衛門

こちらへ参れ



元服も
済んでおるし

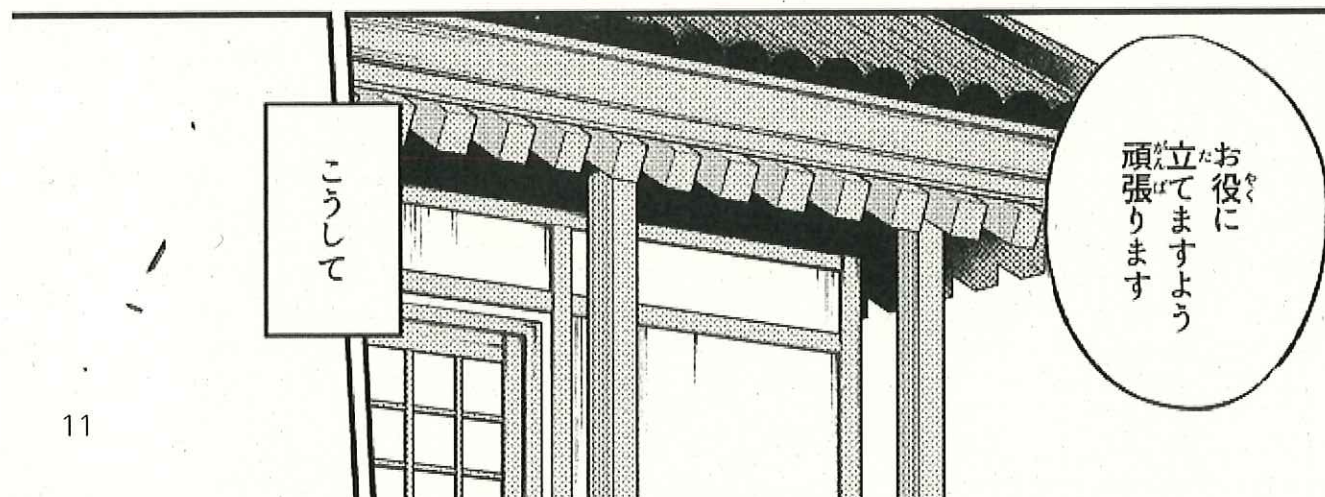
次の戦には
わしと一緒に
出陣するぞ

そちの
初陣じゃ

！
うれしゅう
ございます

つねなが さい
常長 15歳ごろ

伊達家 家臣
上楯城主
はせくらときまさ
支倉 時正



お役に
立てますよう
頑張ります

こうして



その後

てがら
手柄を立てるのじゃ!

引くな!

マイ



1591
(天正19)年

伊達政宗の
初上洛に従い

一緒に
京都に滞在

つねなが 常長 22歳

同年

政宗は秀吉の命によって
岩出山城に居城を移転

※現在の大崎市岩出山



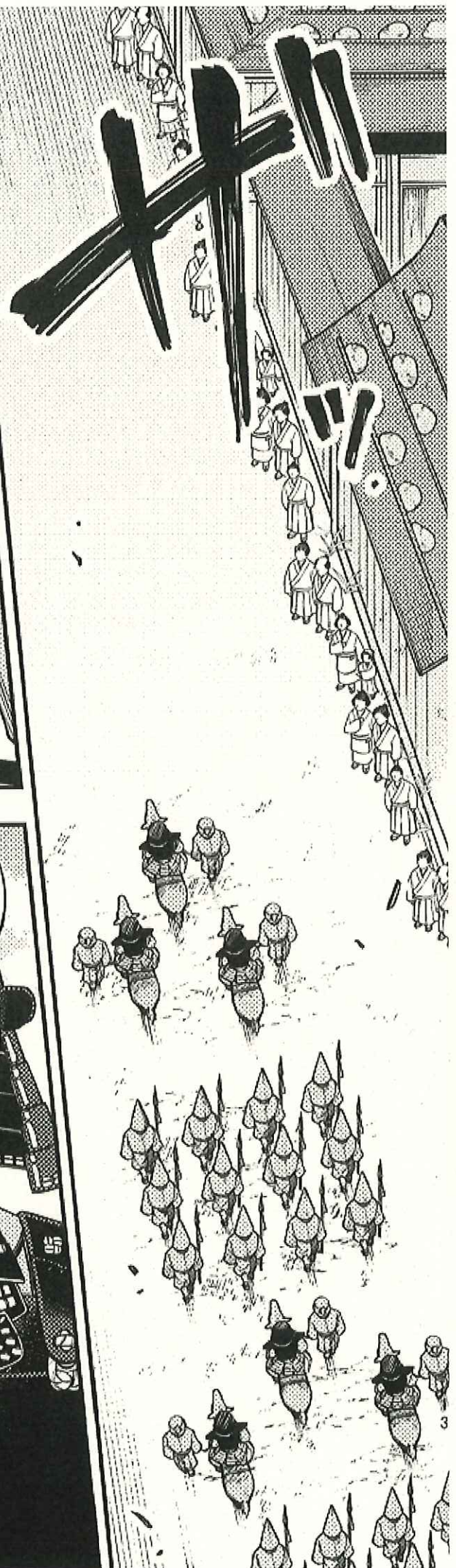
1592
(文禄元年)
年

伊達政宗
朝鮮出兵のため
京都を出陣

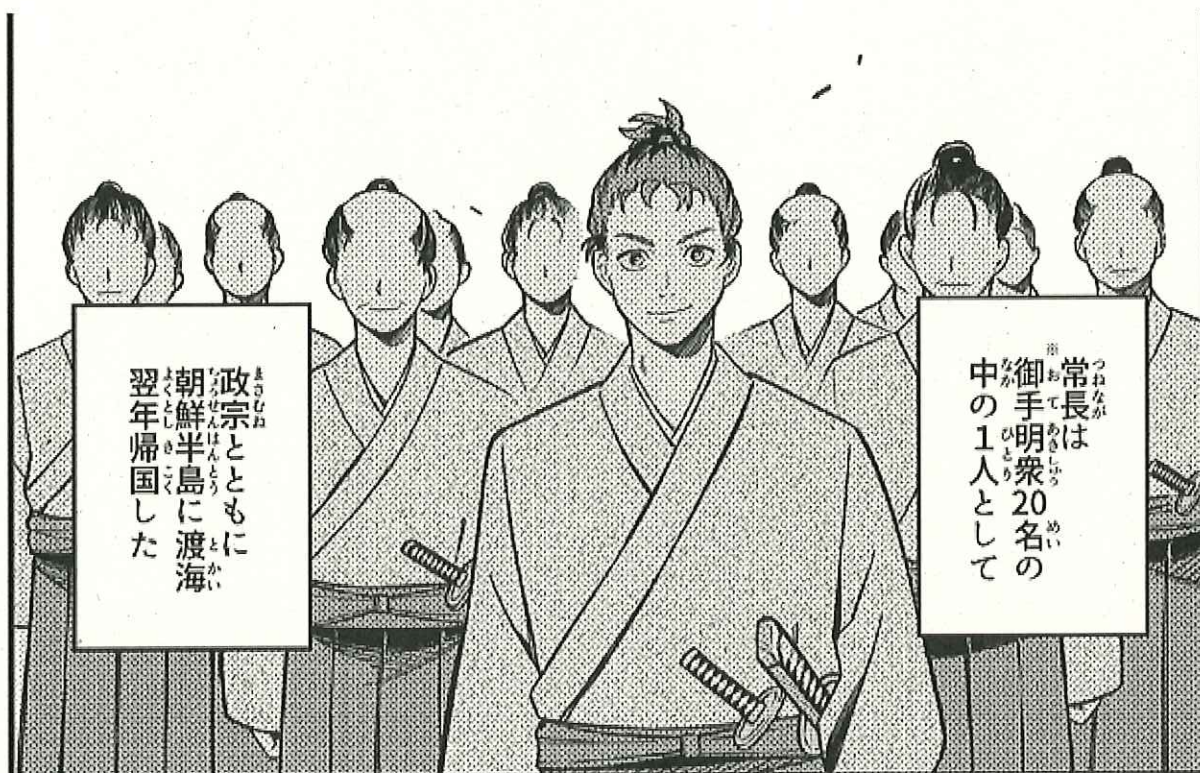


常長も
義父・時正とともに
従軍した

つねなが
常長 23歳



※特定の役割はないが、時と場合に応じて
様々な役割が与えられる者を指すと考えられている。





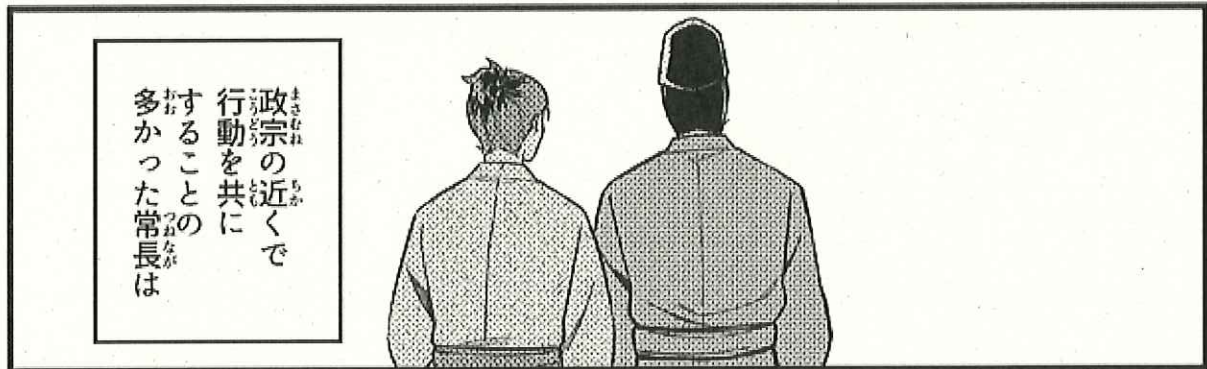
情報伝達や
情報収集などを
役割としていた



常長は
政宗の使番として
そば近くに仕え



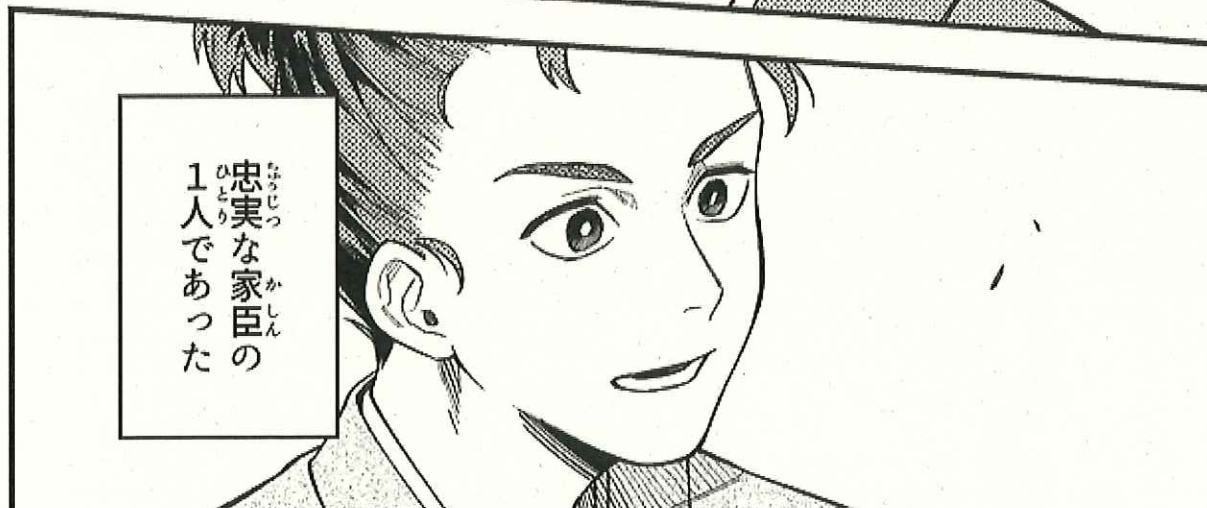
この町での
暮らしはどうじゃ



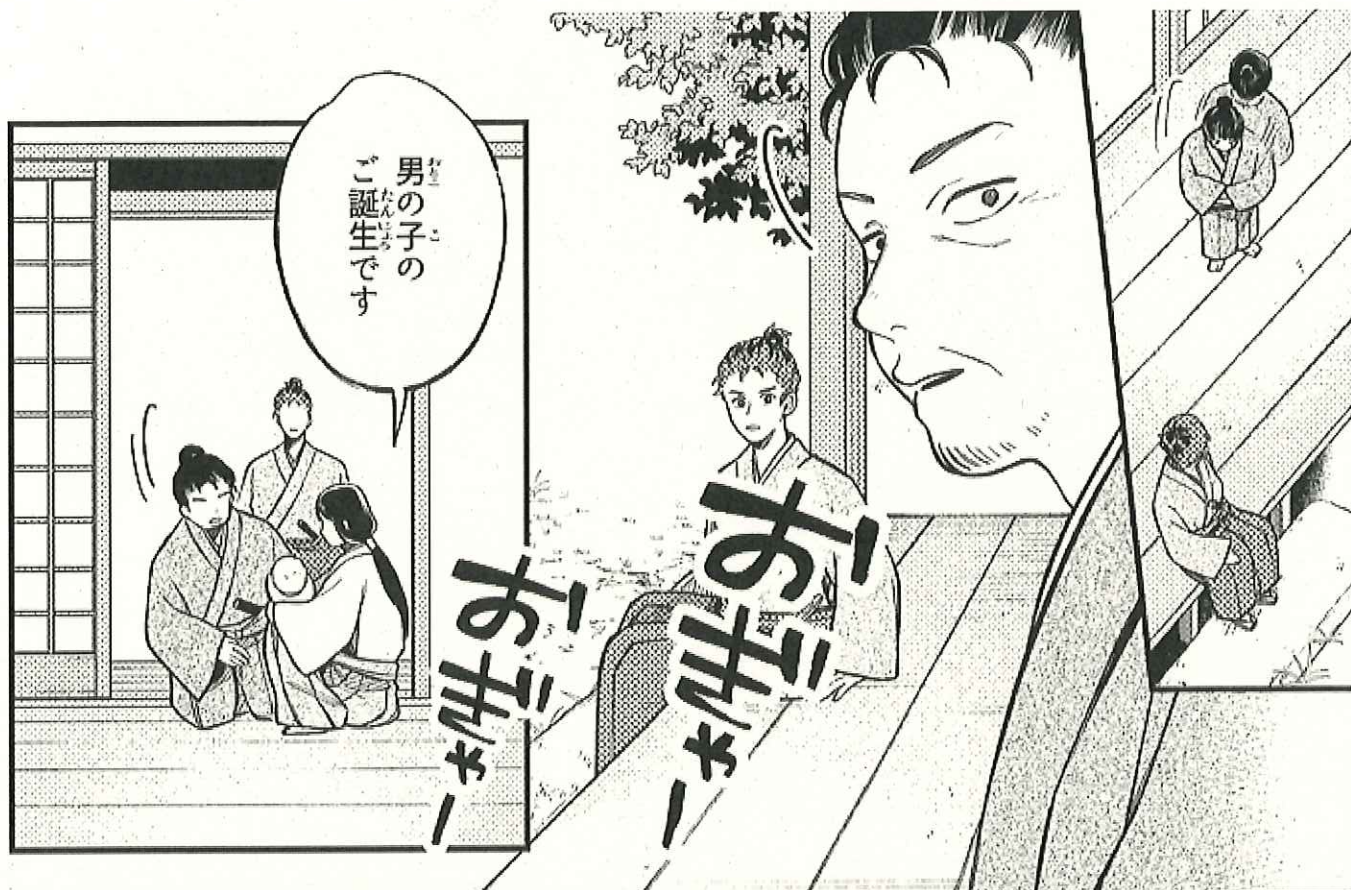
政宗の近くで
行動を共に
することの
多かった常長は

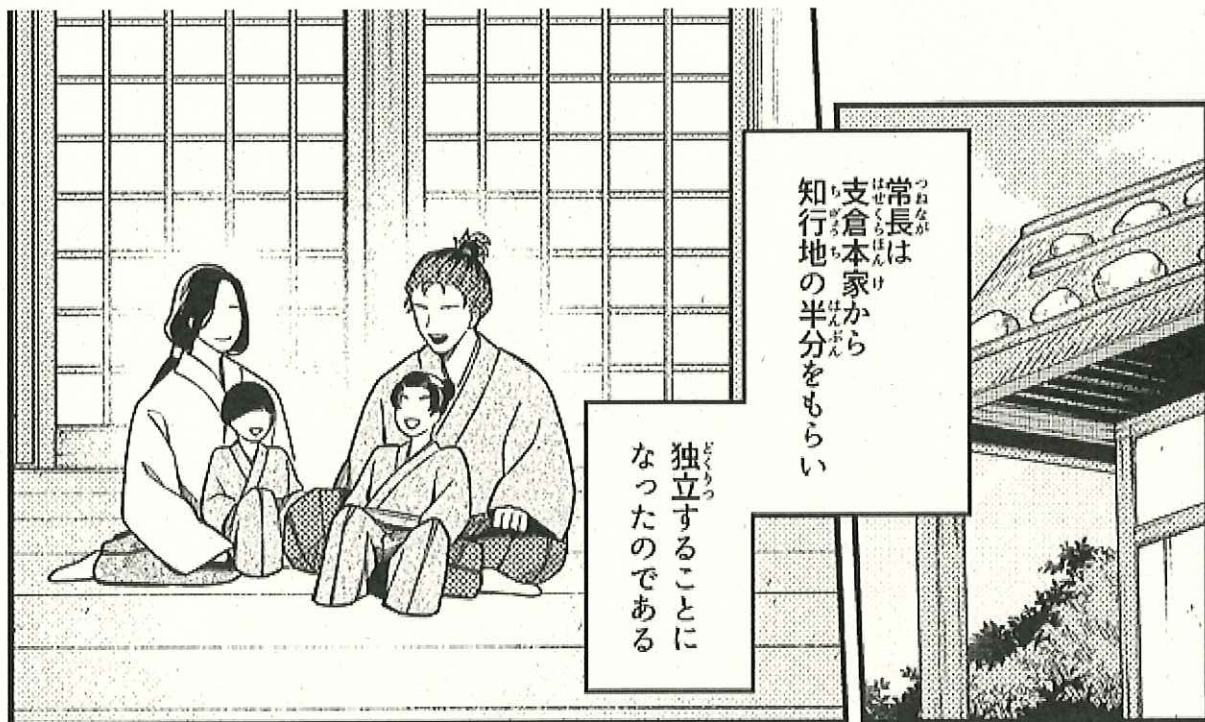


政宗からの
信頼も厚い



忠実な家臣の
1人であった





常長は
支倉本家から
知行地の半分をもらい

独立すること
になったのである

※常長の分家は、支倉家の系図によれば、
1596(慶長元)年とされる。
確証はないが、これに従えば常長が27歳頃となる。



1600
(慶長5)年

時は
関ヶ原の戦い

伊達家の軍勢



東北地方でも
戦いが行われ

政宗は最上氏に
援軍を送り

伊達勢が
中ノ内城付近を
進軍した

※中ノ内城(前川本城)付近＝川崎町



1603
(慶長8)年

徳川家康が
征夷大將軍に
任ぜられ

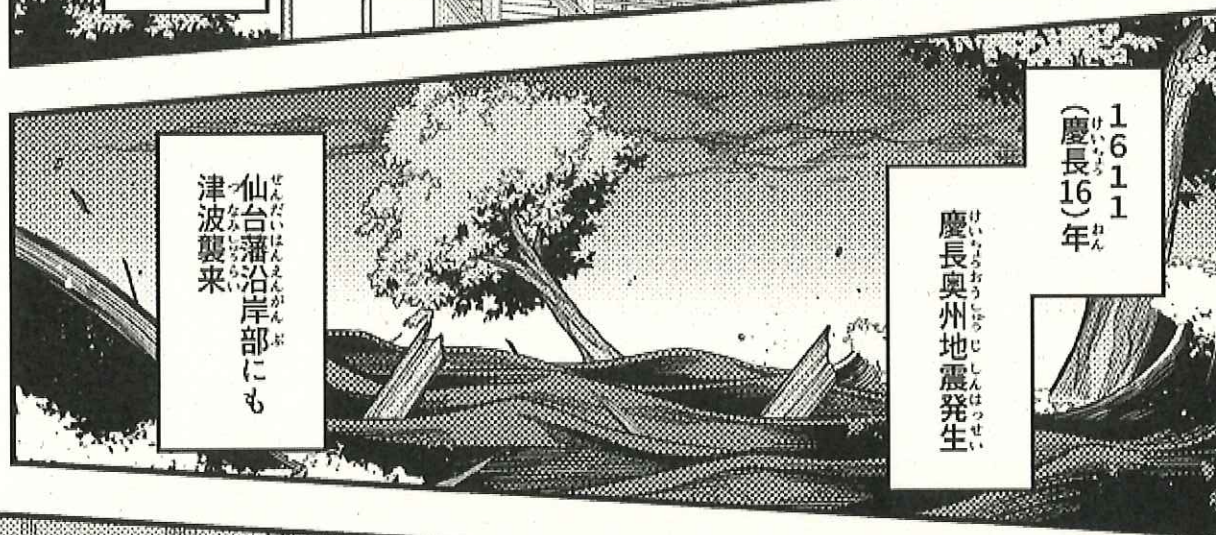
江戸幕府を開き



1610
(慶長15)年

仙台城の
本丸大広間が完成

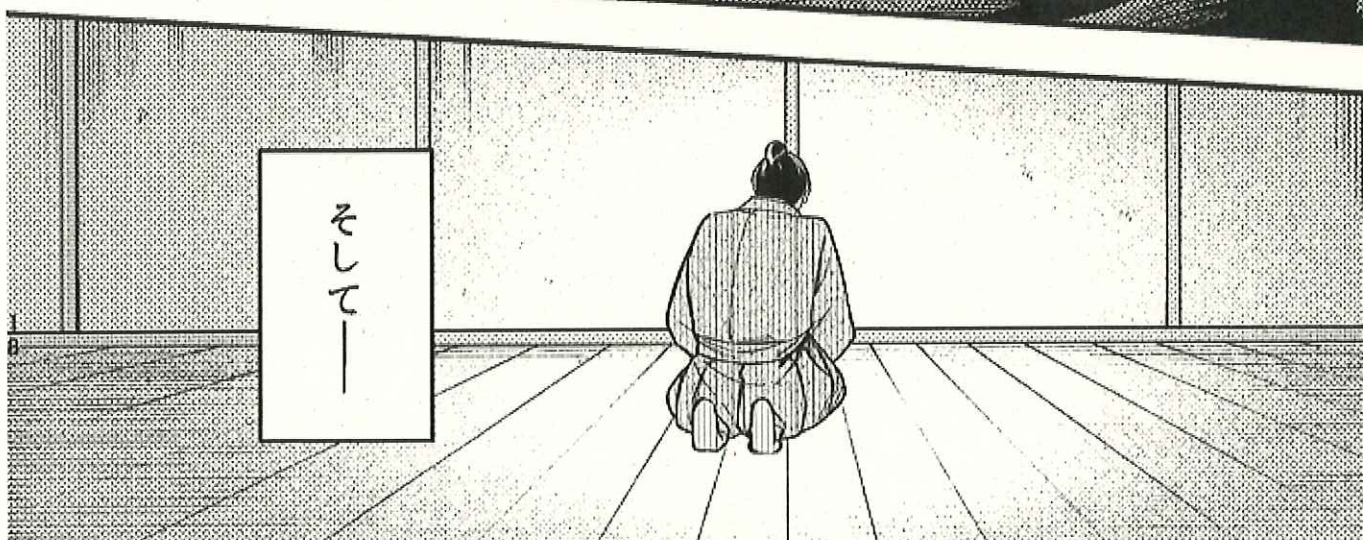
砂金氏が川崎城を
築城したとされる



1611
(慶長16)年

慶長奥州地震発生

仙台藩沿岸部にも
津波襲来



そして――

1612
(慶長17)年

この度もまた
父の不祥事

誠に申し訳
ございませんでした

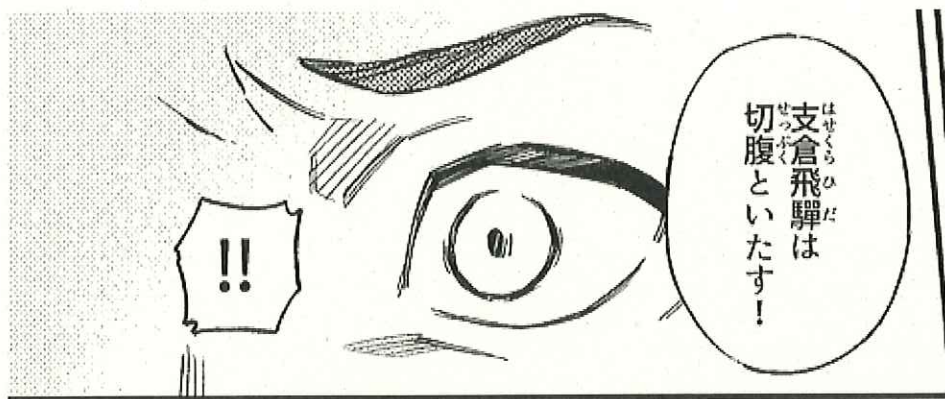
実は…

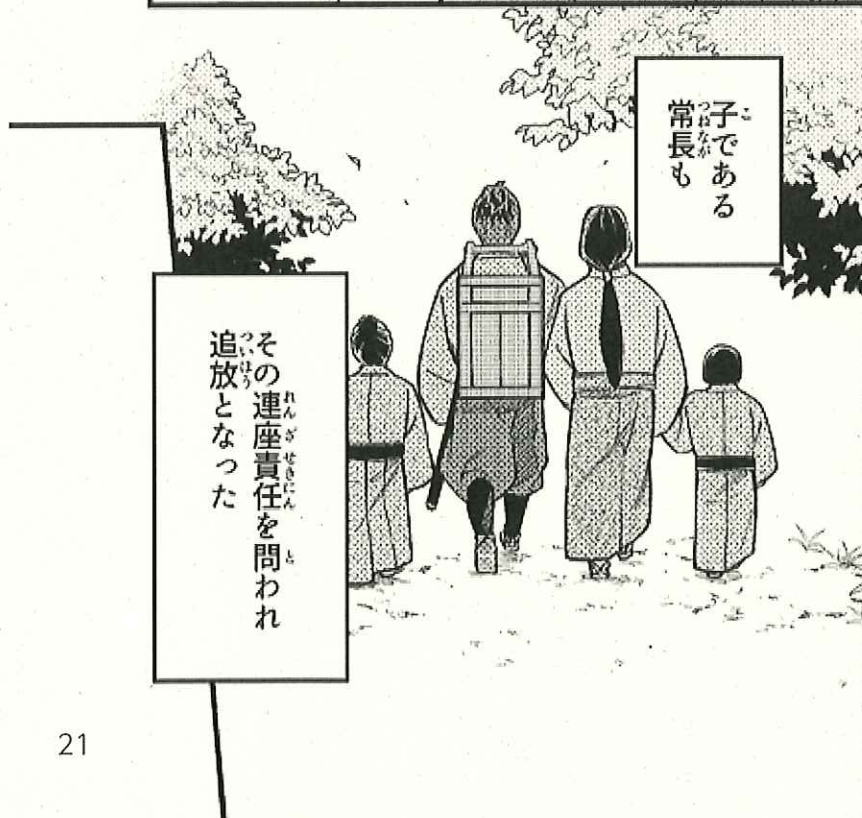
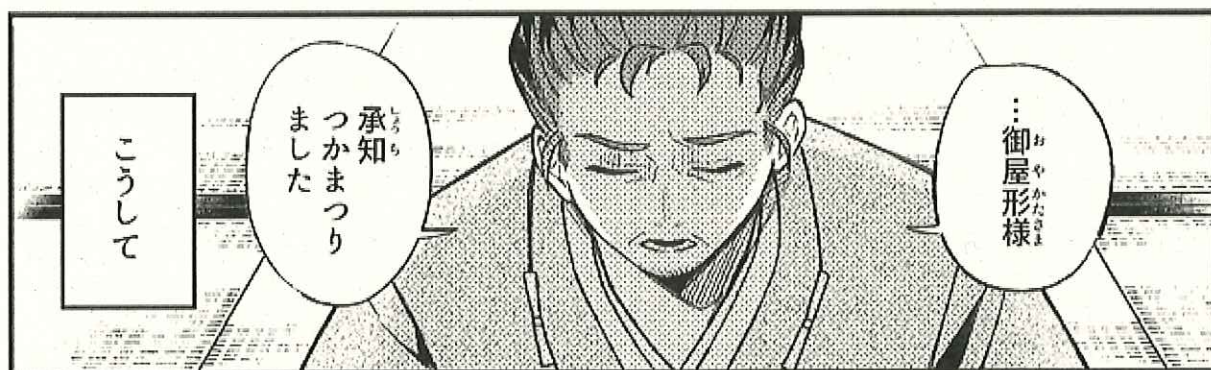
お前の言い訳など
聞きとうない！

昨年さくねんから謹慎中きんしんちゆうの
おぬしの父が
またしてもこのありさま

一体どうなって
おるのだ！

ほ本当に
申し訳ございません







久しぶりじゃのう

つねなが
常長

まさむね
政宗 47歳



おやかたさま
御屋形様…

ひさ
お久しゅう
ございます

つねなが
常長 44歳

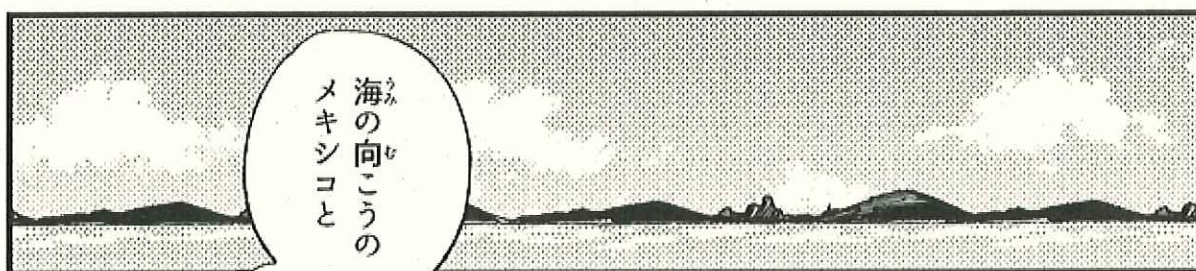
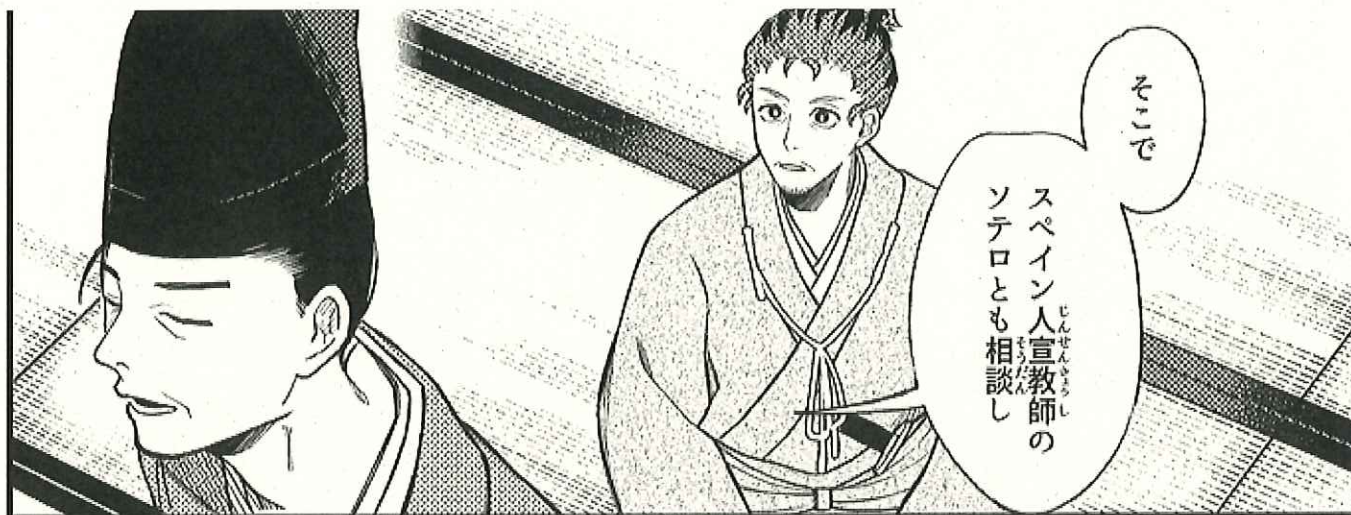


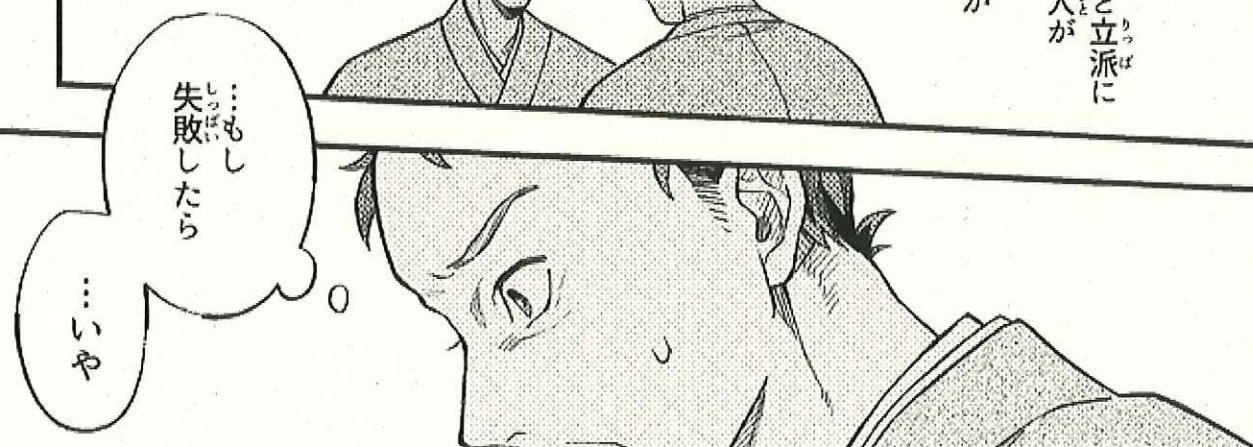
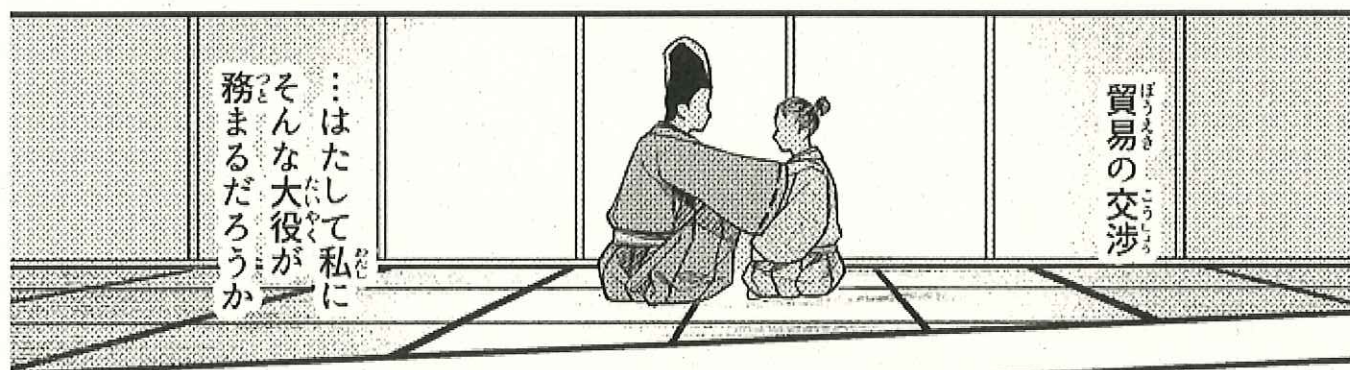
にほん
日本も少しづつ
平穏になってきた

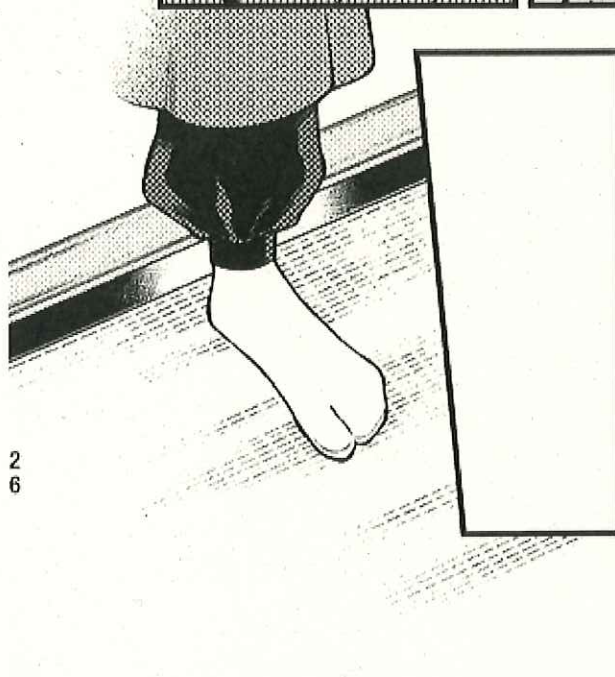
なが
長かった
戦国の世も終わり

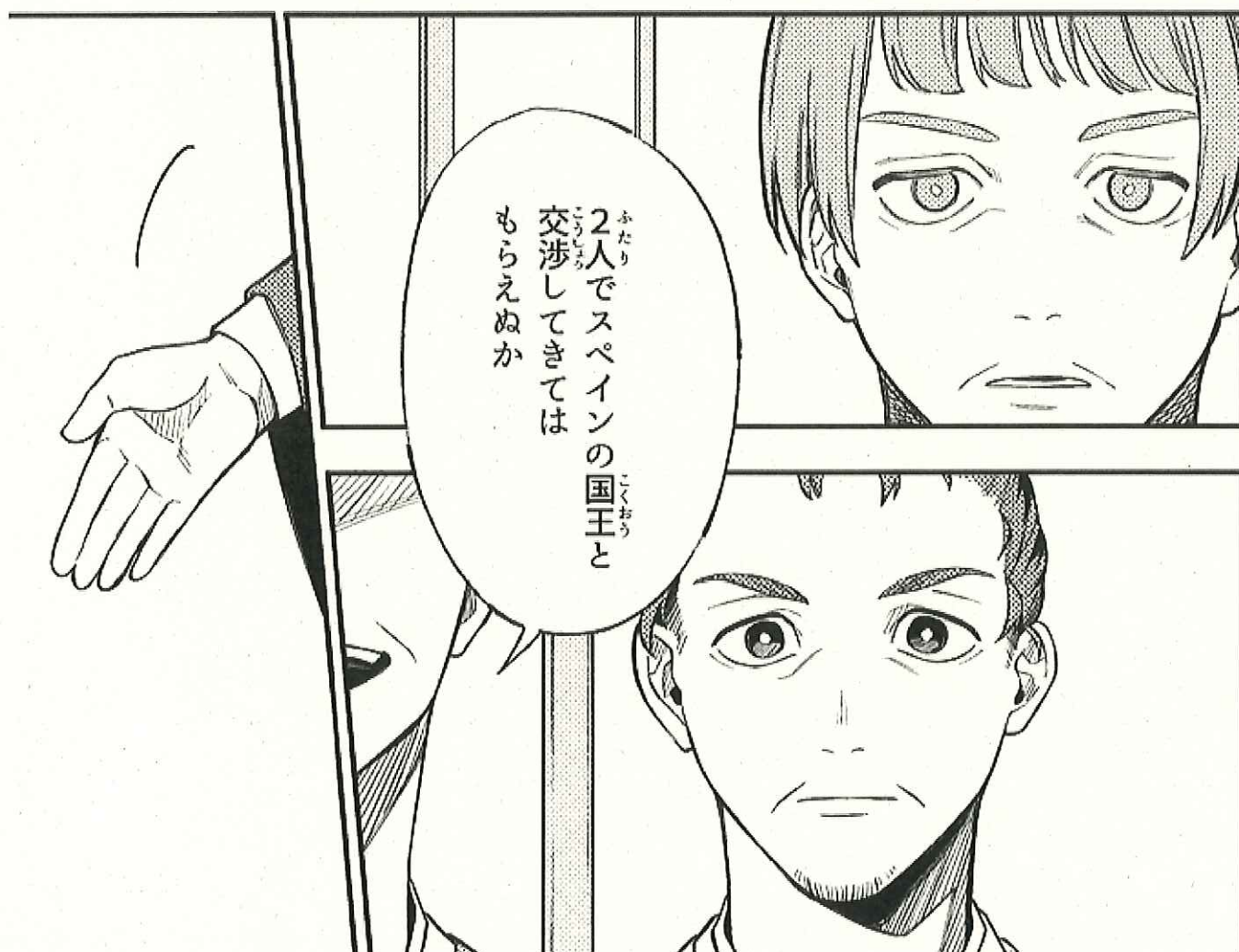
グッ

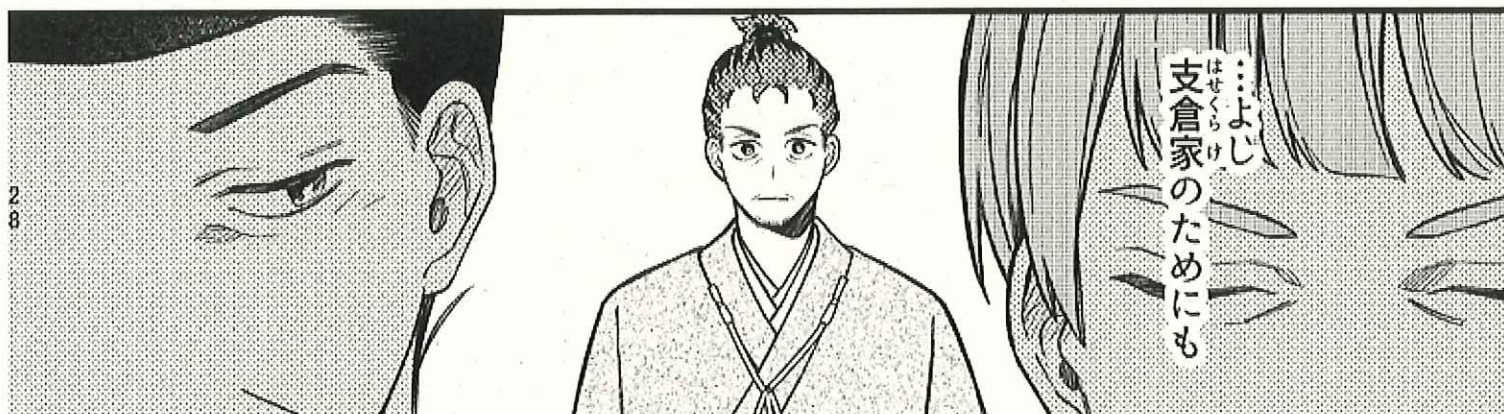
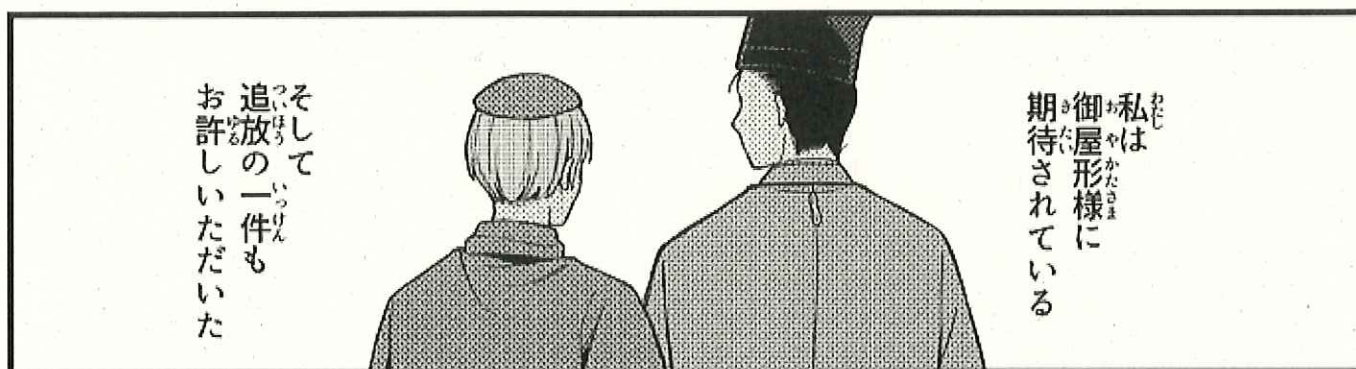


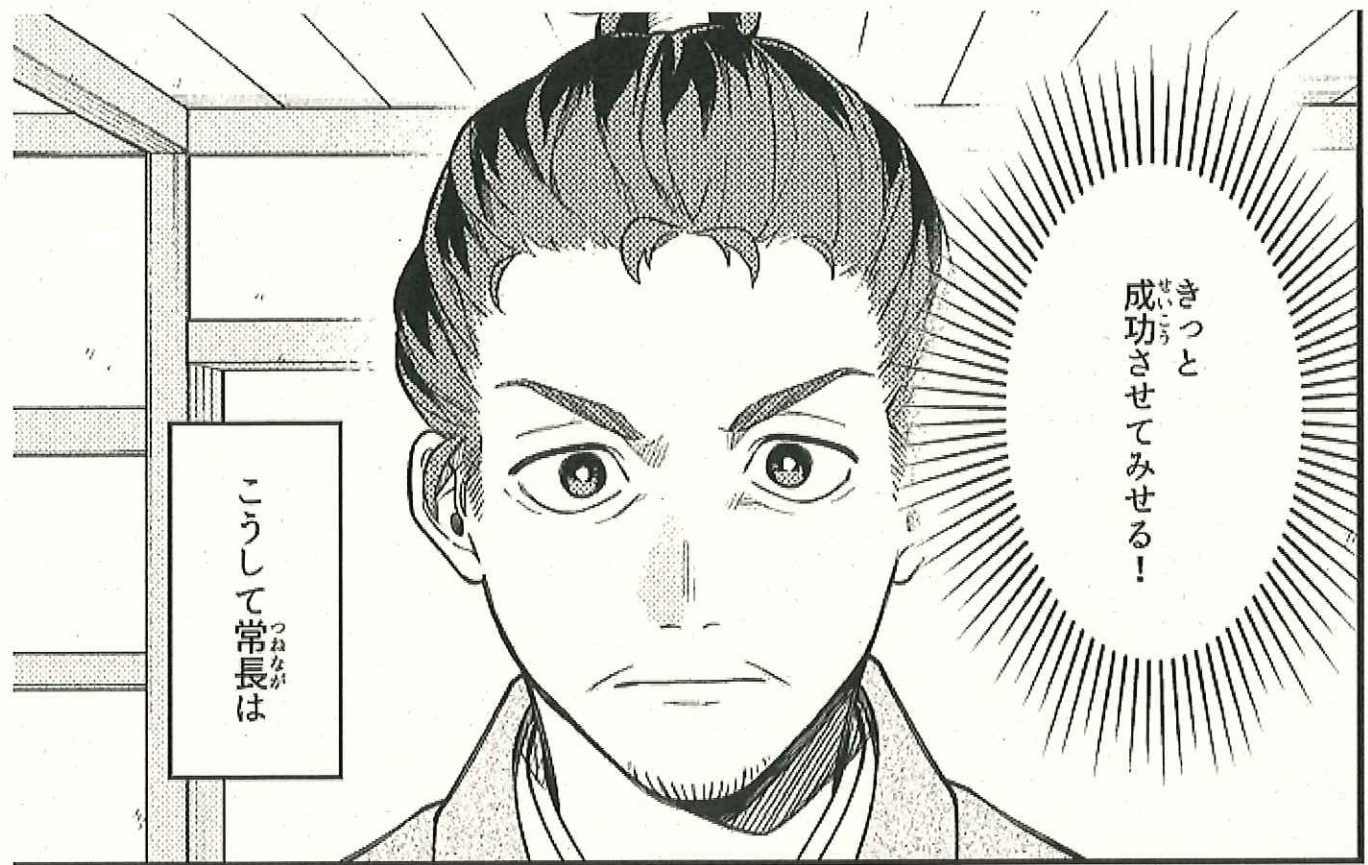






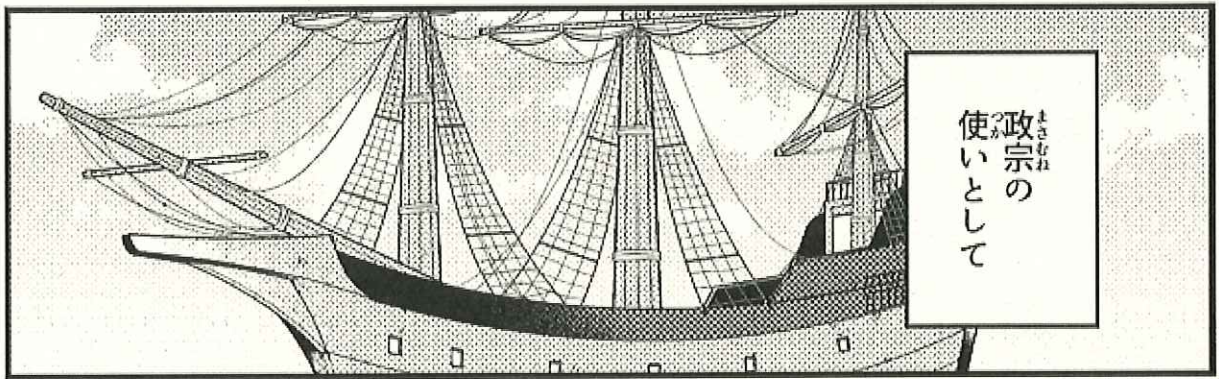




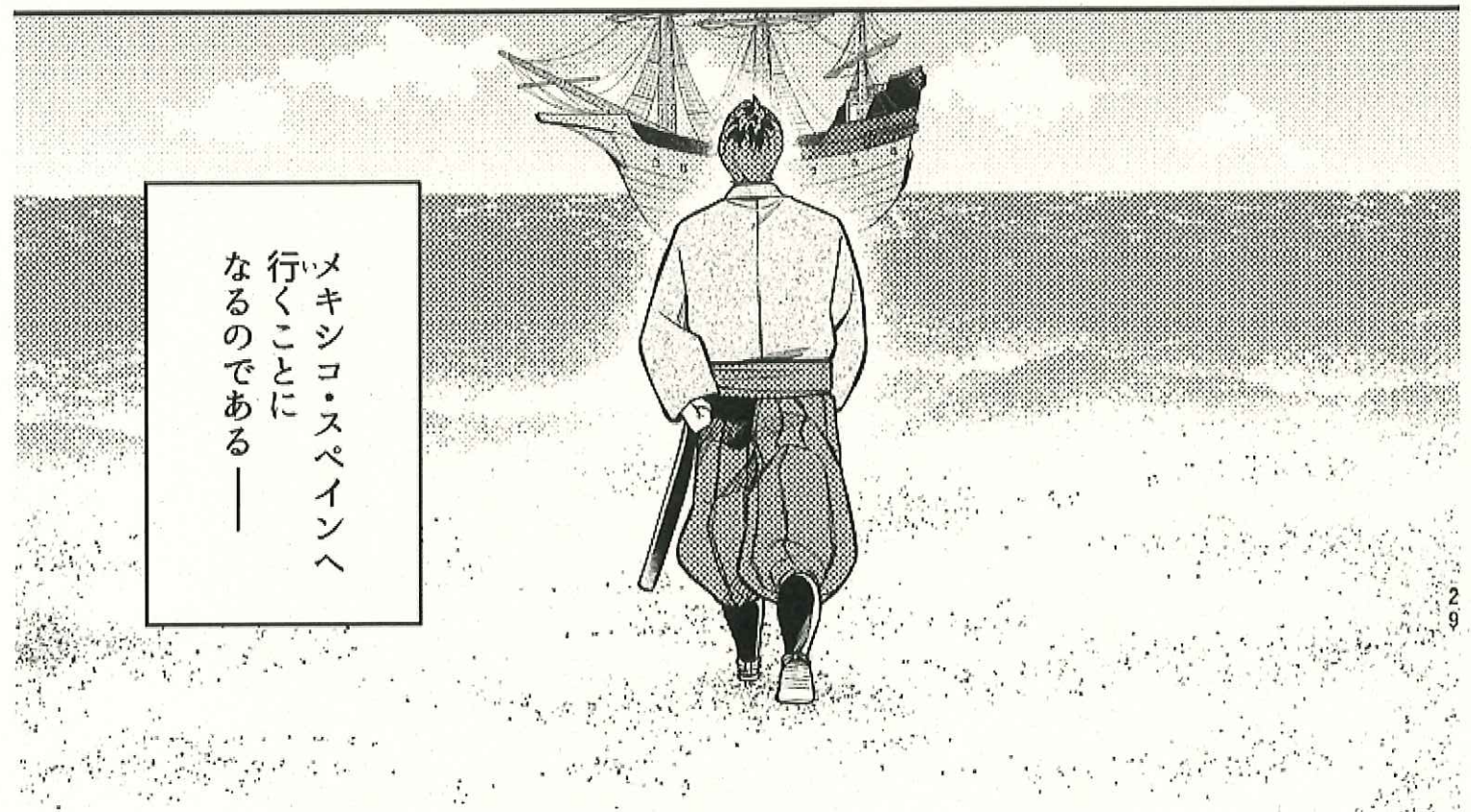


きつと
成功させてみせる！

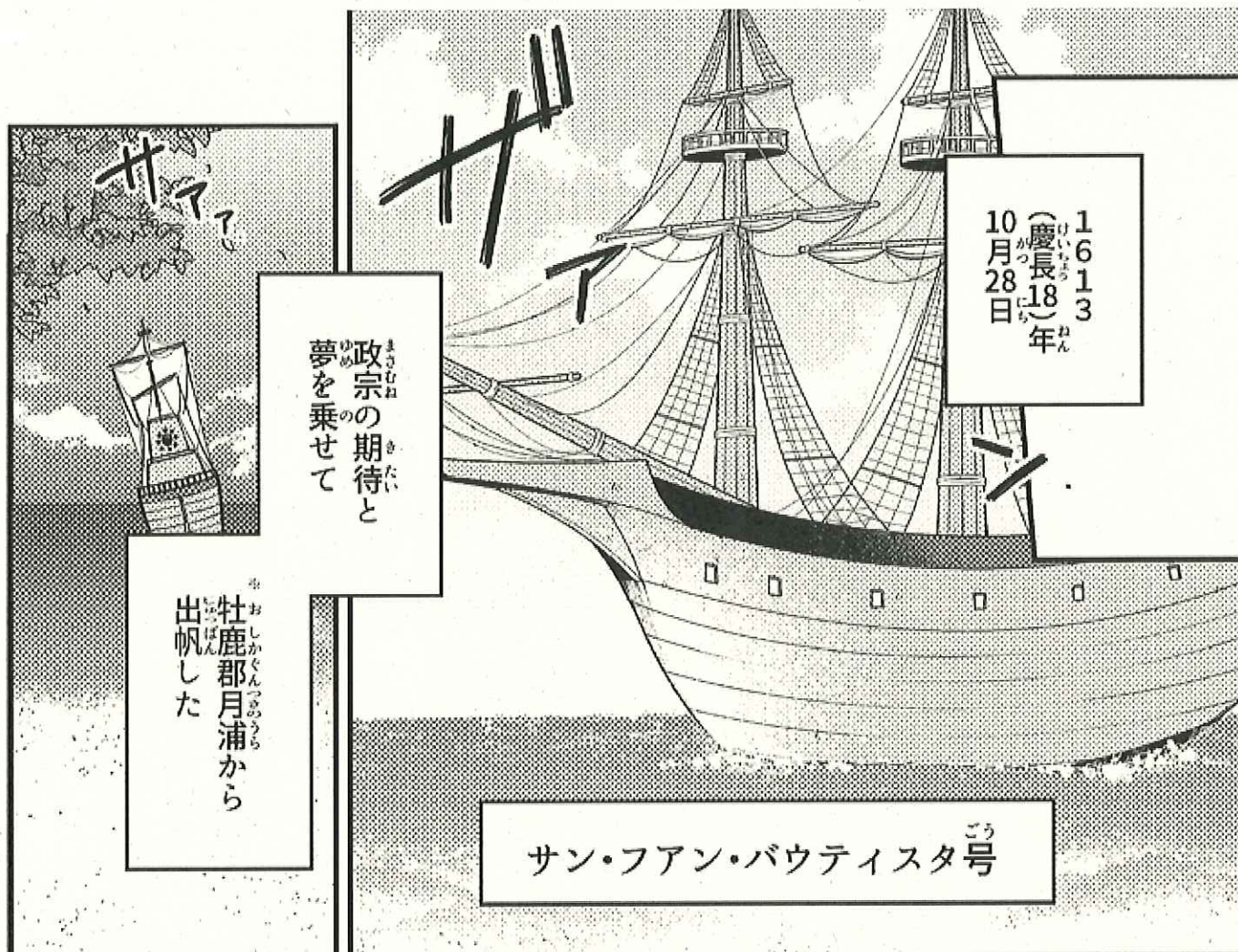
こうして常長は
つねなが



政宗の
つが
使いとして



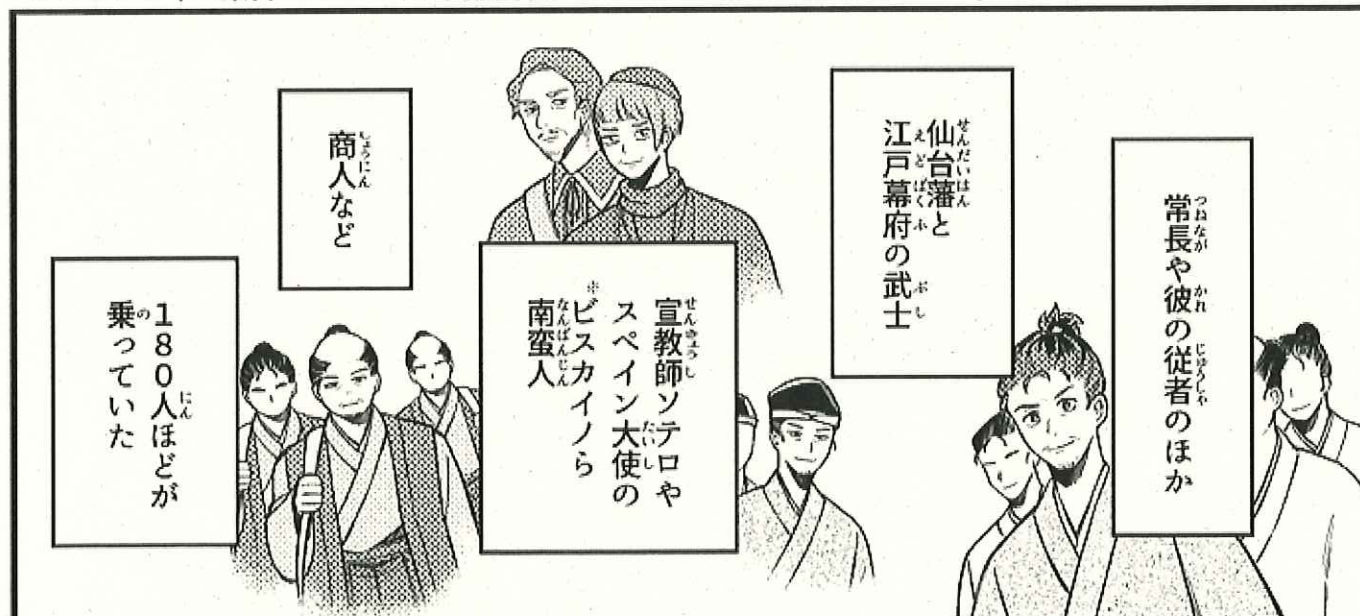
メキシコ・スペインへ
行くことに
なるのである――



※現在の石巻市



※1611年に来日したスペイン大使。探検家・軍人・商人でもあった。







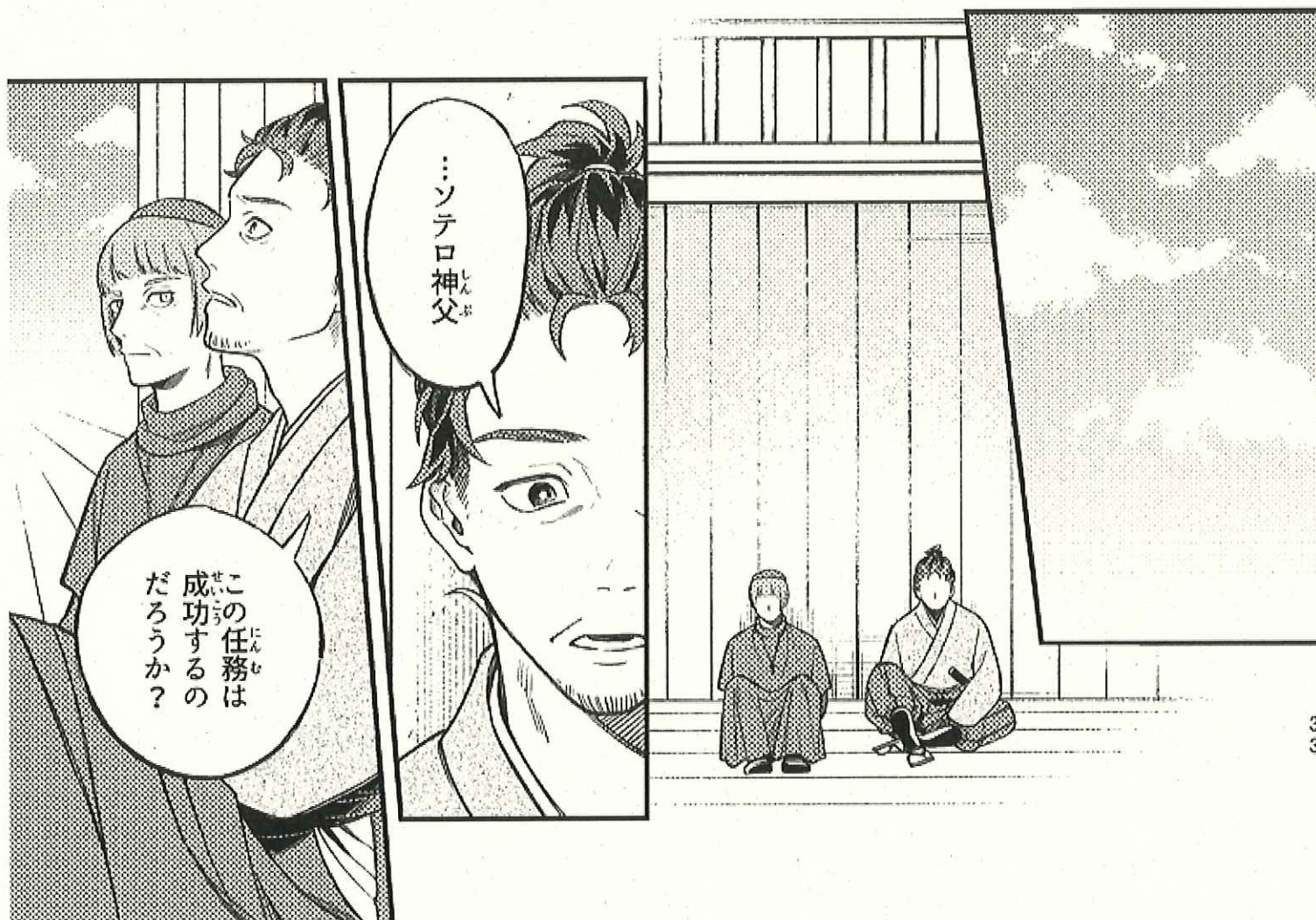
こんなことで
くじけては
いられない



必ずや^{かならず}



成功させるんだ!!^{せいこう}



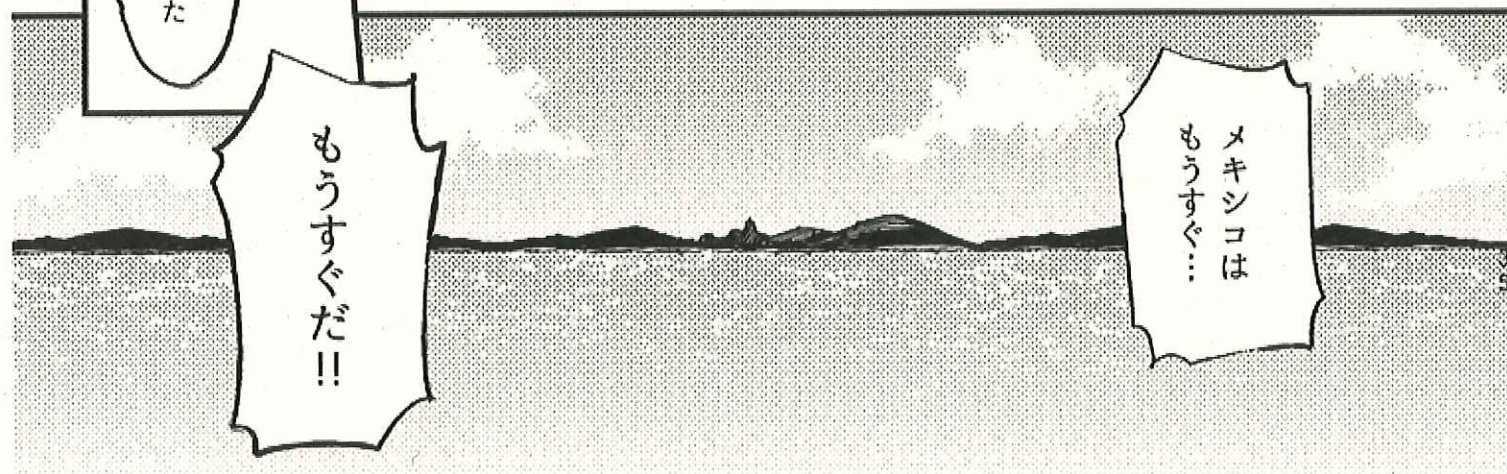
ソテロ神父^{しんが}

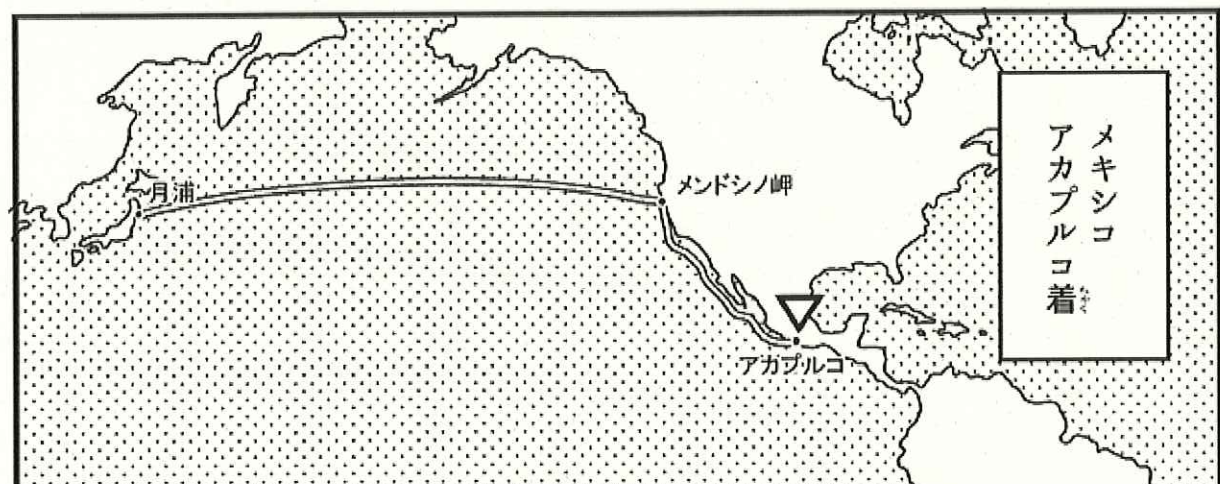
この任務は
成功するの
だろうか?



※キリスト教や、キリスト教徒のこと。

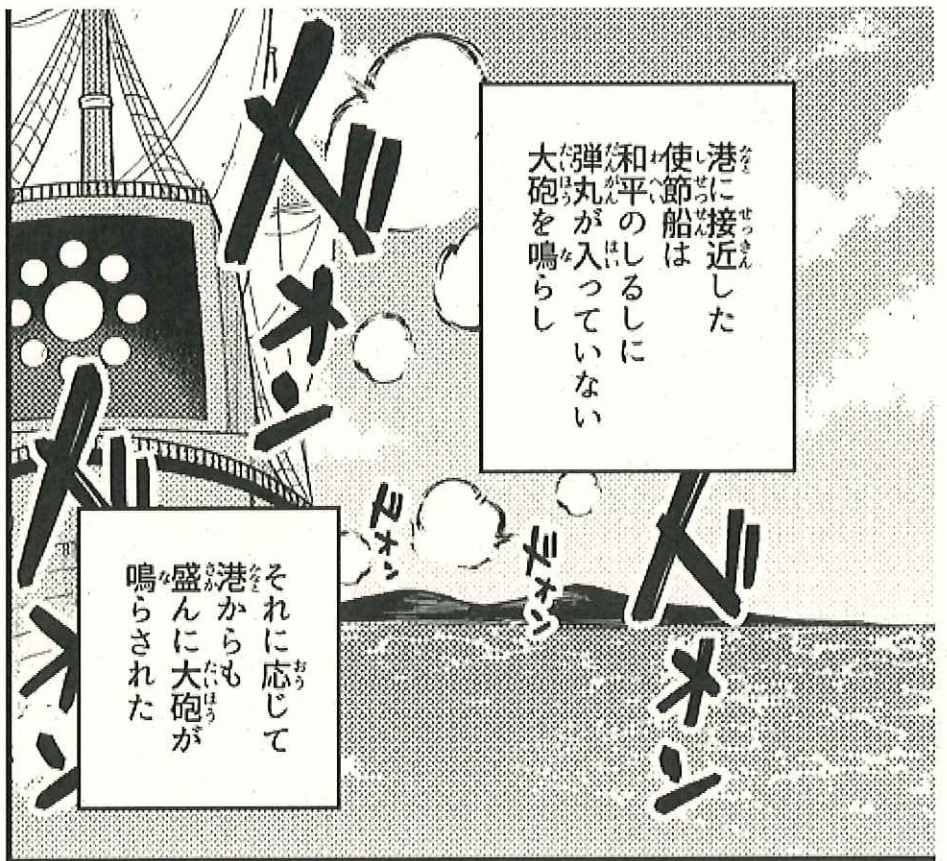






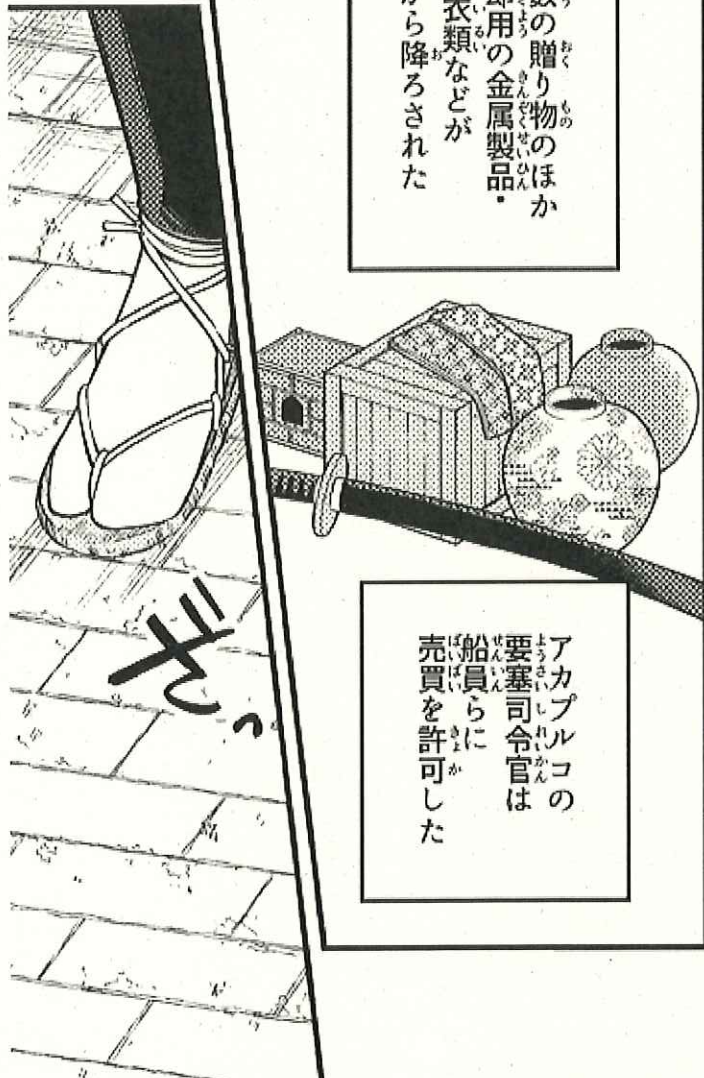


上陸した一行は
歓迎を受け



港に接近した
使節船は
和平のしるしに
弾丸が入っていない
大砲を鳴らし

それに応じて
港からも
盛んに大砲が
鳴らされた



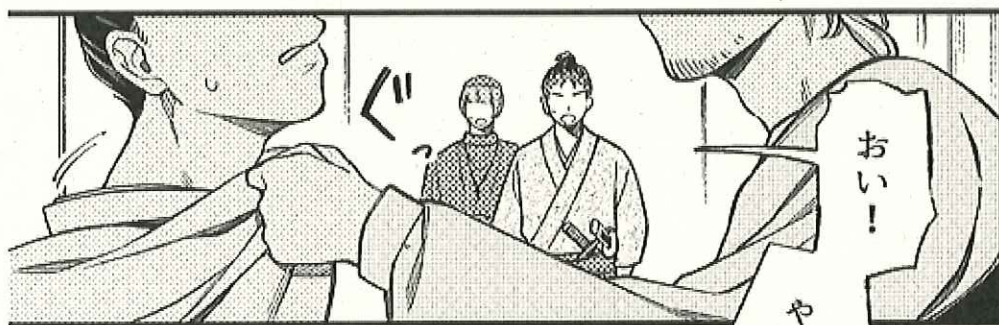
多数の贈り物のほか
売却用の金属製品・
機・衣類などが
船から降ろされた

アカブルコの
要塞司令官は
船員らに
売買を許可した



雄牛祭りや
祝宴などで
もてなされた





3月4日

使節一行のうち
先遣隊20人が

サン・フアン
デ・ウルーバ
プエブラ
メキシコ市
アカプルコ

陸路で
メキシコ市に
入った

同じ頃――

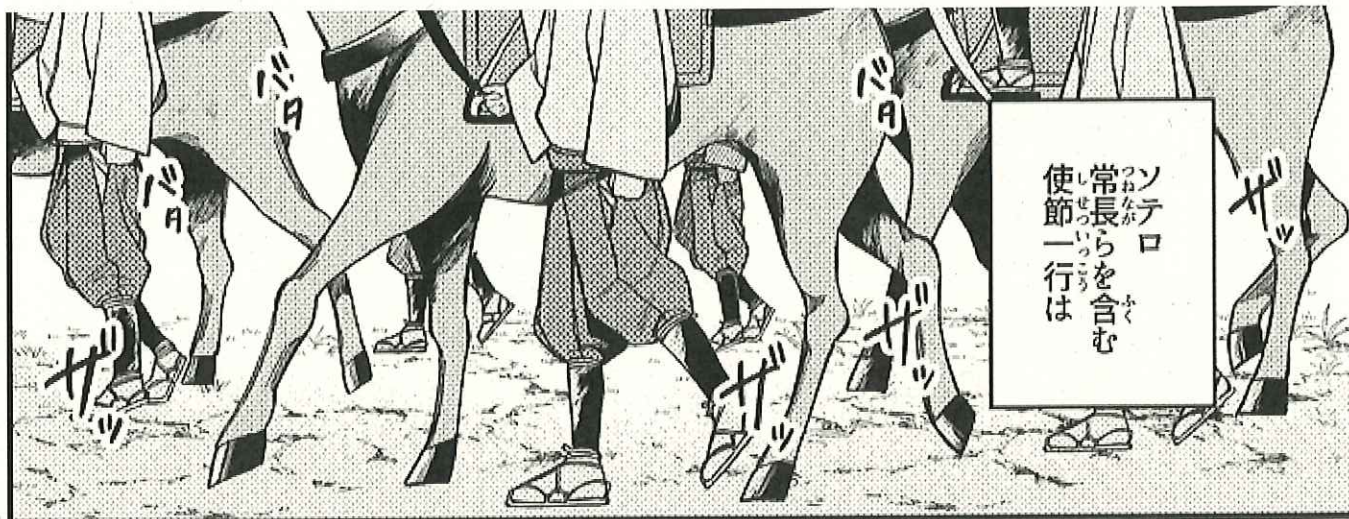
アカプルコで
いさかいだと？

はい

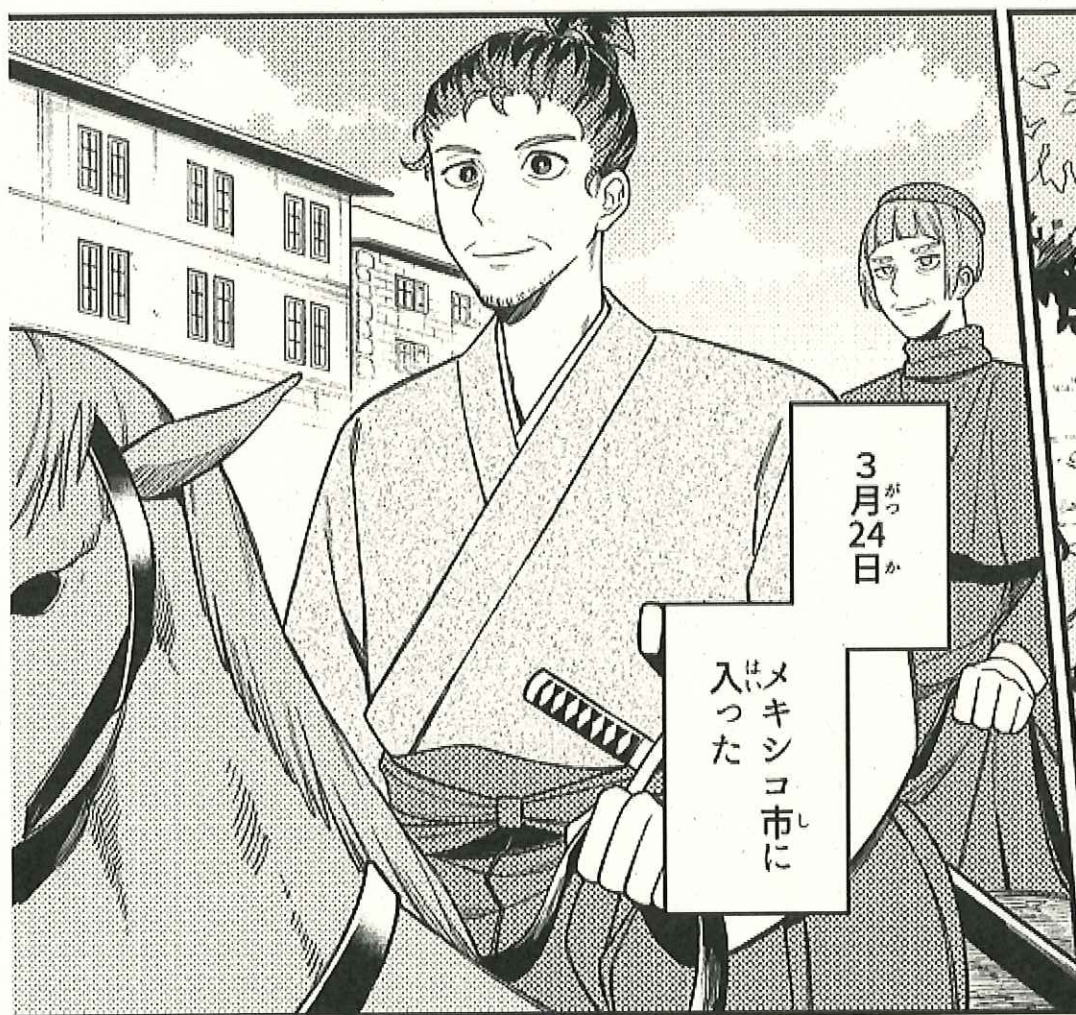
海を渡ってきた
日本人と住民の間で
起ったようです

常長を含む10人程度のみに
武器の携行を許すとの
決定を下した

現地の人々にも
日本人との摩擦を
引き起こすような
言動を禁じ
違反者は処罰すると
命じた



ソテロ
常長らを含む
使節一行は



3月24日

メキシコ市に
入った

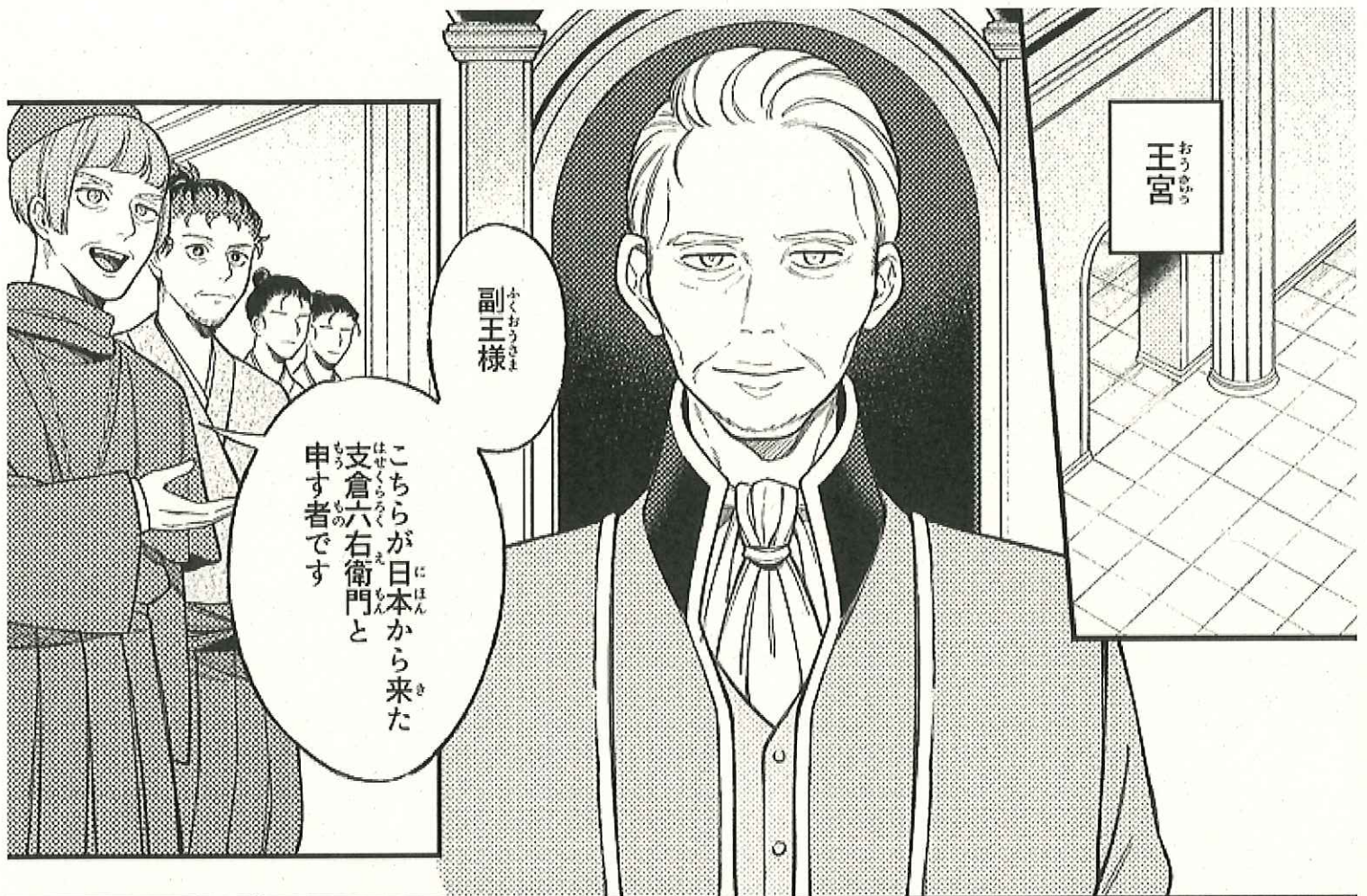


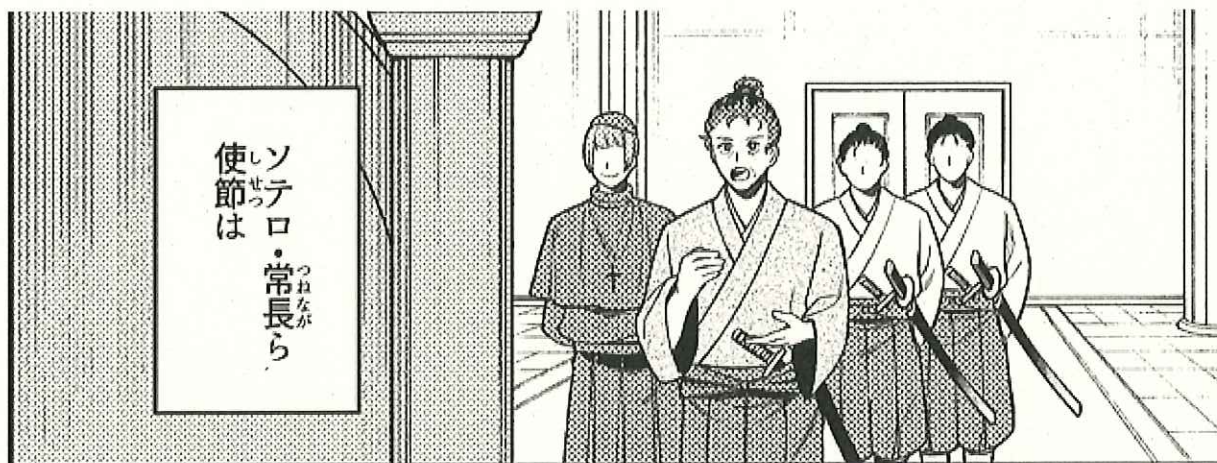
道中の町や村で
歓待を受けながら



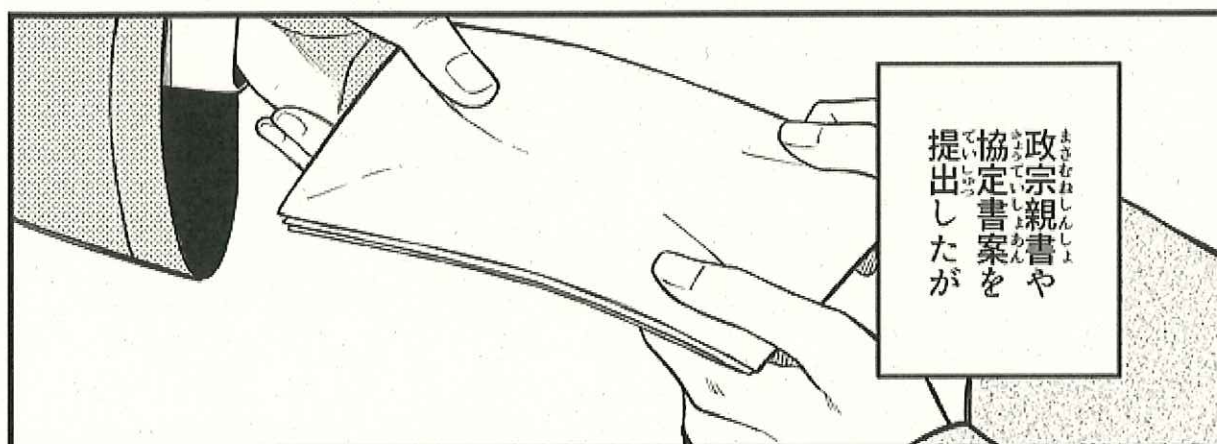
4月

多くの日本人が当地の
サン・フランシスコ教会で
洗礼を受け
その人数は80名近くに
上ったという





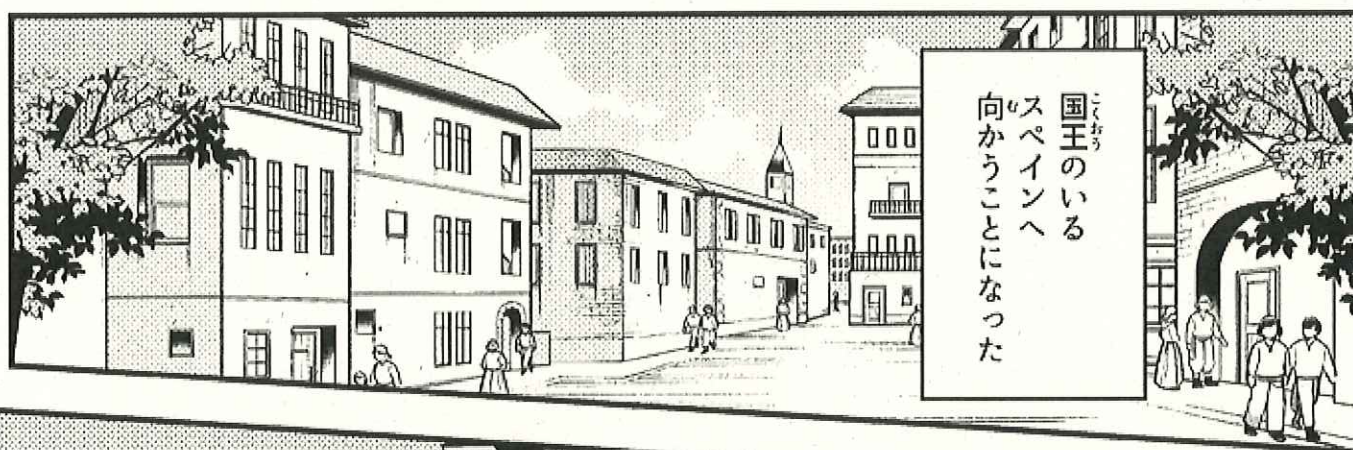
ソテロ・常長ら
使節は



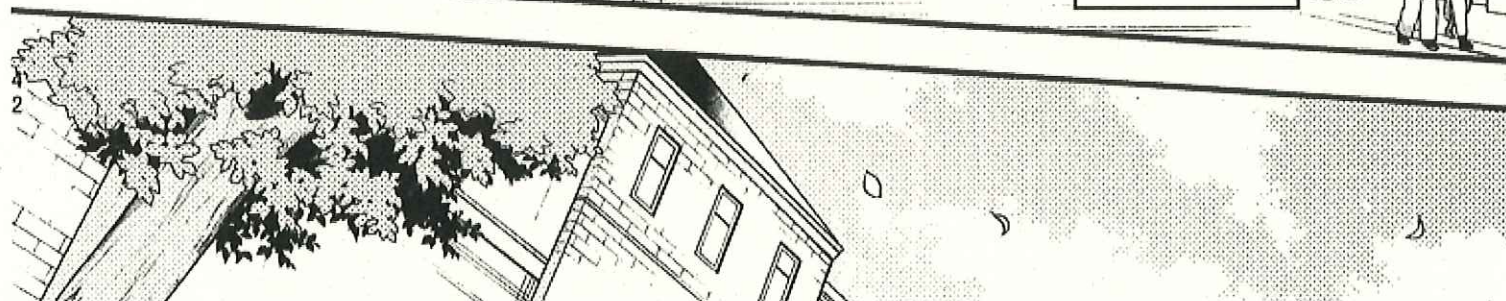
政宗親書や
協定書案を
提出したが



副王とは
具体的な交渉が
進まず



国王のいる
スペインへ
向かうことになった





5月18日
がつ 18 日

プエブラでは
市長を中心
に闘牛を行
うなどして
歓待

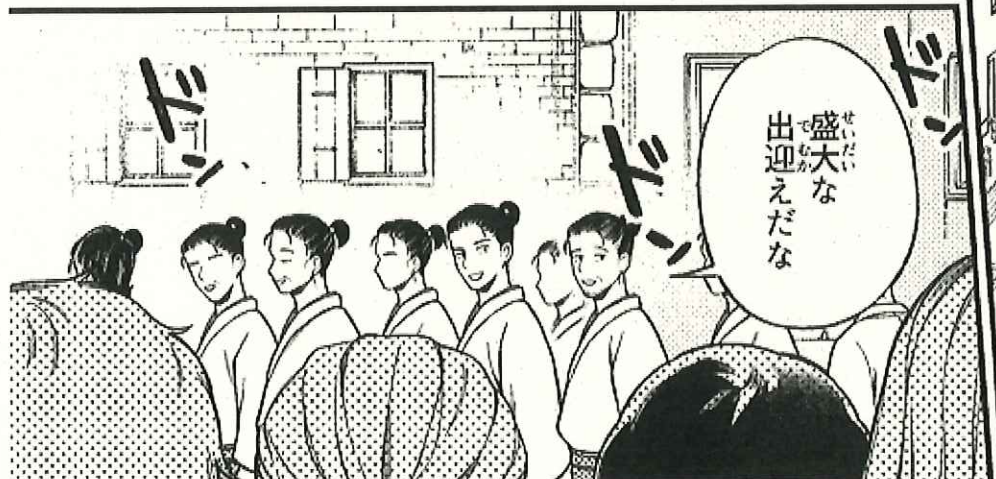
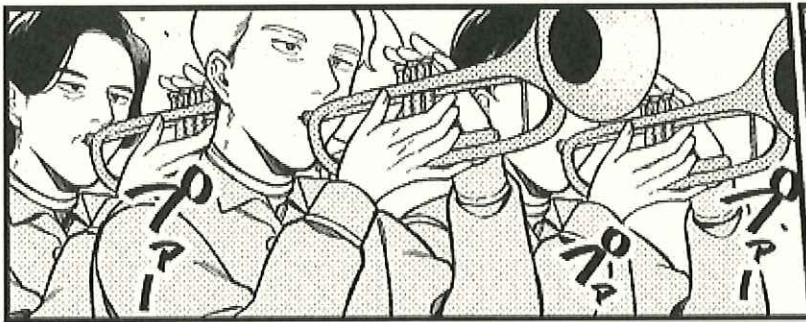


5月8日
がつ 8 日

メキシコ市を出立
しつたつ

スペイン人の
マルティネス・
モントーニョが
通訳として同行

※兵士として日本に住んでいたことがあり、日本語を話せた。



盛大な
出迎えだな



メキシコ湾岸
ベラクルス
わんがん



使節一行にとつて
不利な情報か

日本国内から
スペイン・ローマに向けて
次々と発信されていた

一方——

なに？



……それが
本当なら

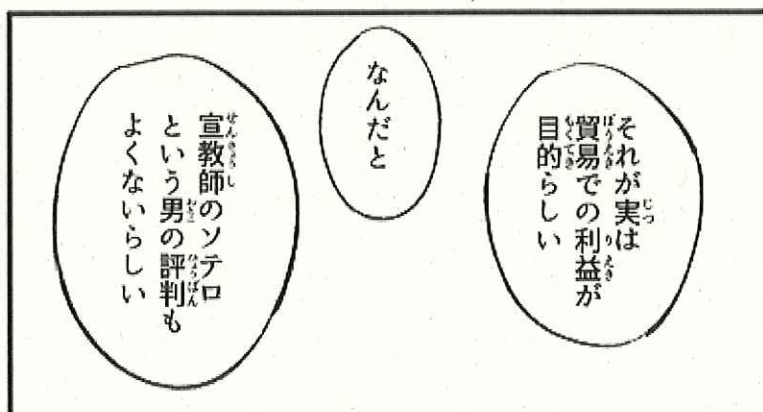
慎重に
考えなくては



日本で
禁教令だと？

キリシタンの
取り締まりが
行われている
ようだよ

？
奥州王は信仰のために
使節を送ったって
話じゃなかったか？



それが実は
貿易での利益が
目的らしい

なんだと

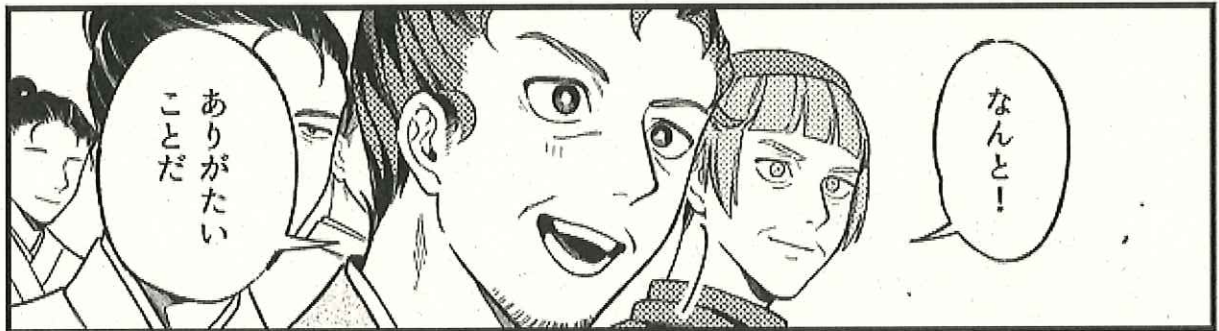
宣教師のソテロ
という男の評判も
よくないらしい



ここから先
スペインには我々が
お送りいたしますよう

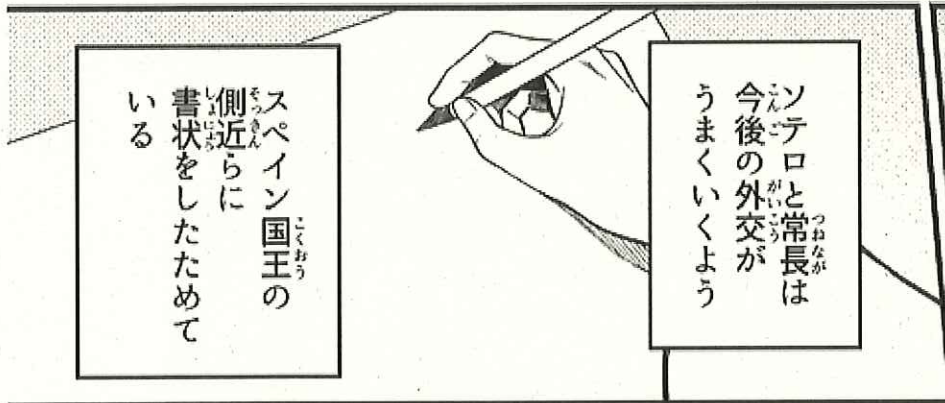


あなたが
日本人の大使
ですか？



なんと！

ありがたい
ことだ



ソテロと常長は
今後の外交が
うまくいくよう

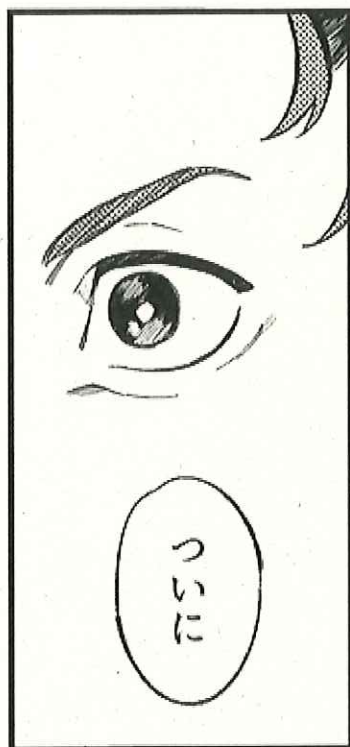
スペイン国王の
側近らに
書状をしたためて
いる



大西洋の
航海中



船の中でも
スペインでの
外交交渉の準備を
進めていったのであった



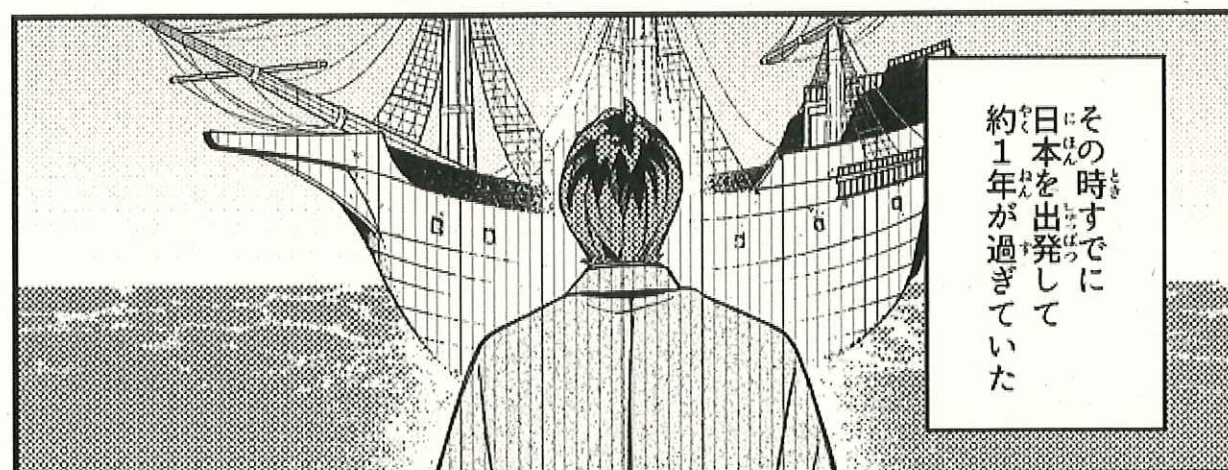
10月

スペインの西南岸
サンルカル・デ・
バラメダに入港

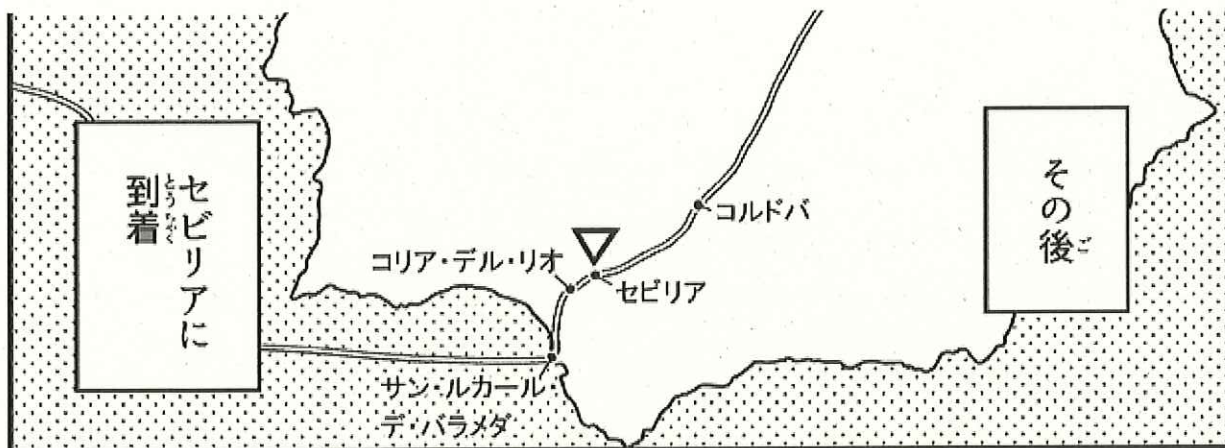


常長らは
大西・横断を
無事に成し遂げた

スペイン
上陸だ!!



その時すでに
日本を出発して
約1年が過ぎていた



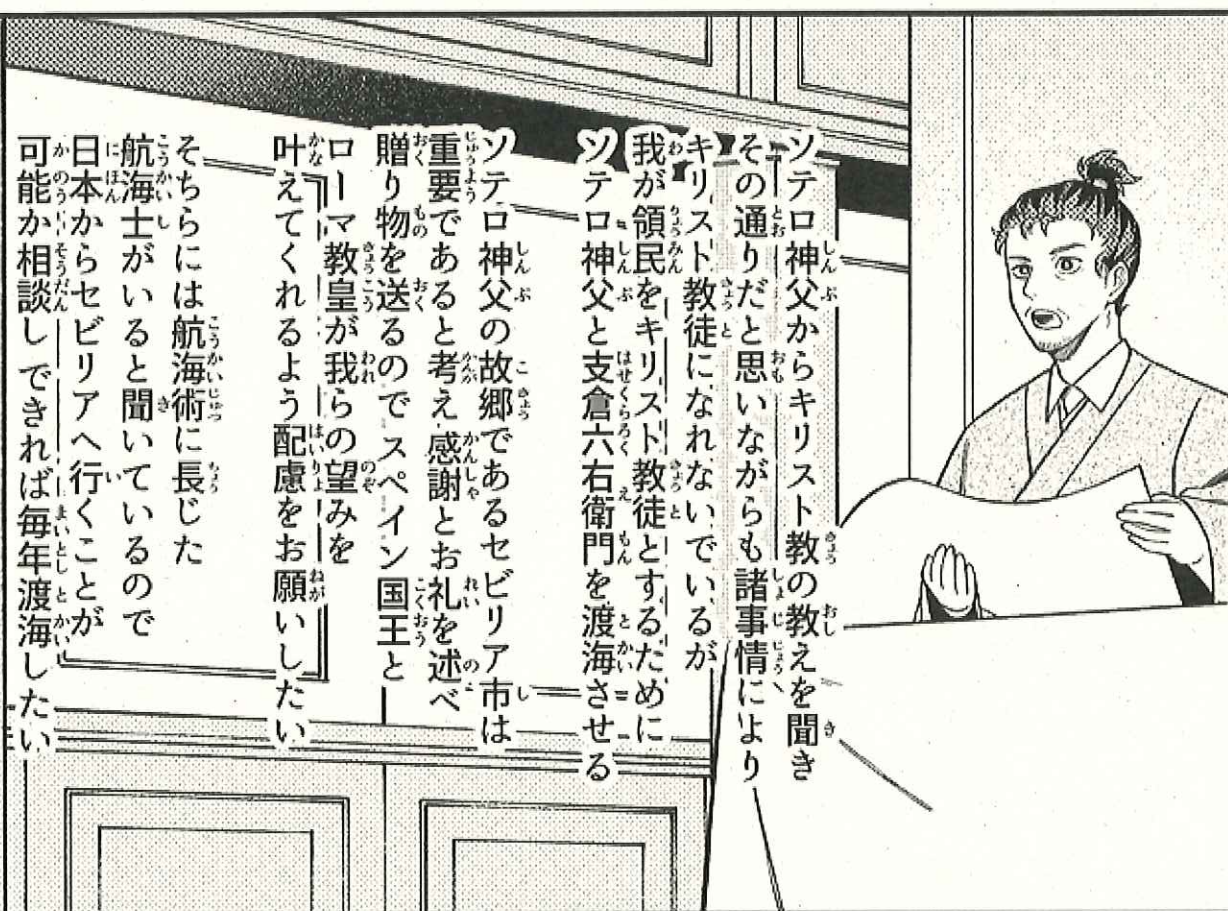


10月27日

セベリア市の
議会が開かれる

議場では

常長が
日本語で
政宗親書を
披露した



ソテロ神父からキリスト教の教えを聞き
その通りだと思いつつも諸事情により

キリスト教徒になれないでいるが

我が領民をキリスト教徒とするために
ソテロ神父と支倉六右衛門を渡海させる

ソテロ神父の故郷であるセベリア市は
重要であると考え感謝とお礼を述べ
贈り物を送るのでスペイン国王と

ローマ教皇が我らの望みを
叶えてくれるよう配慮をお願いしたい

そちらには航海術に長じた
航海士がいると聞いているので
日本からセベリアへ行くことが
可能か相談できれば毎年渡海したい

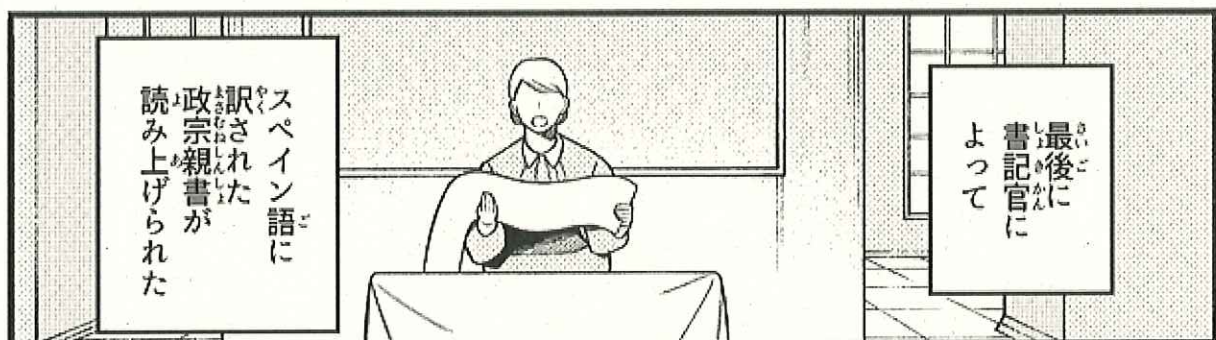


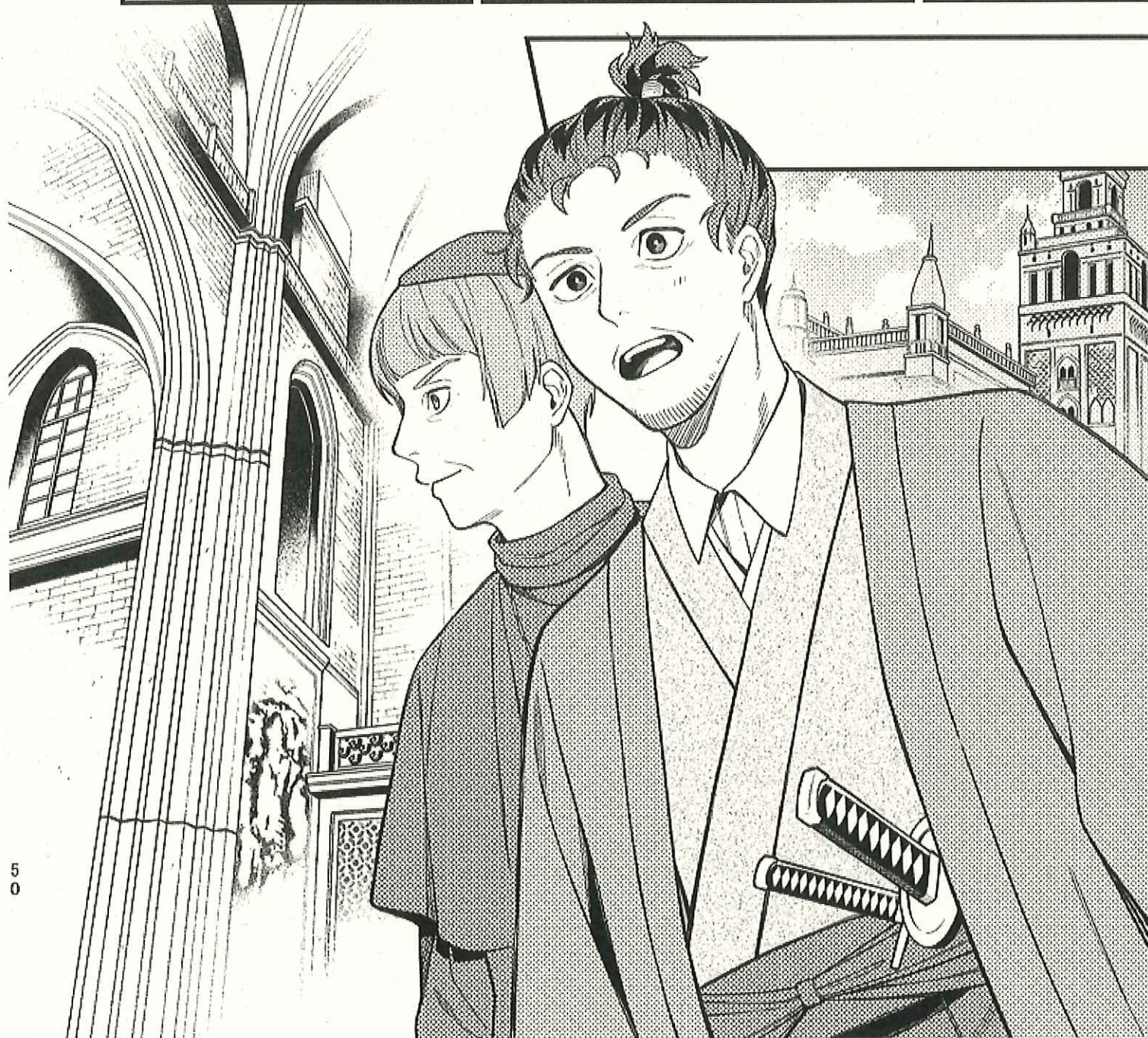
そこで
セベリア市にも
お力添えを
いただきたいの
ですが…

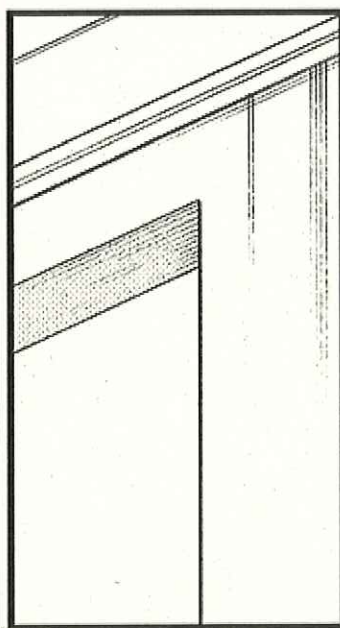
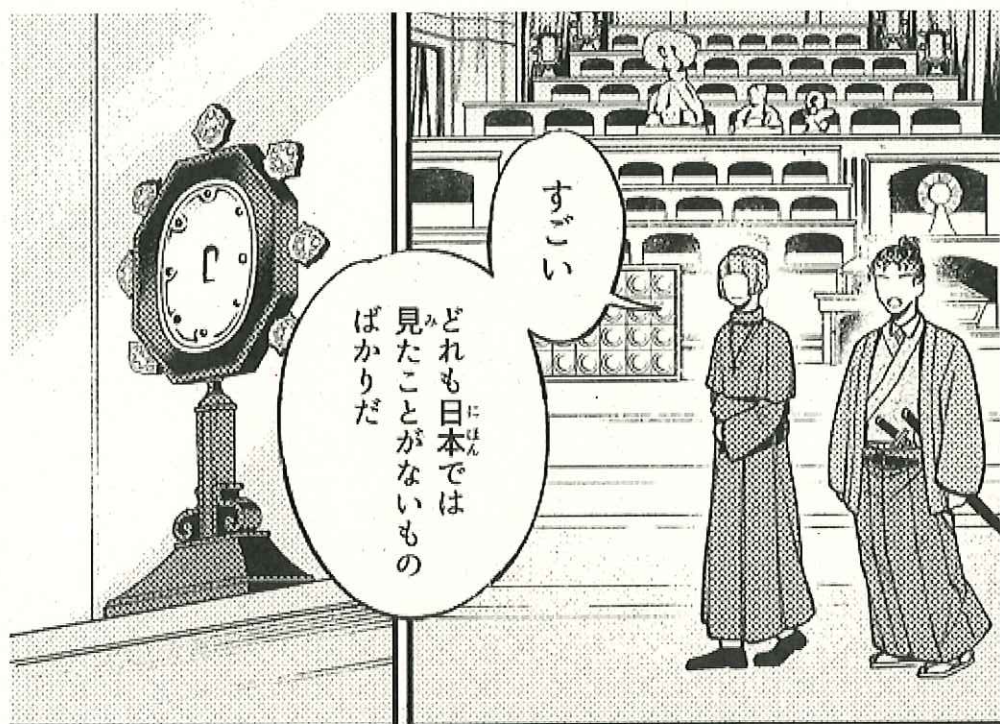


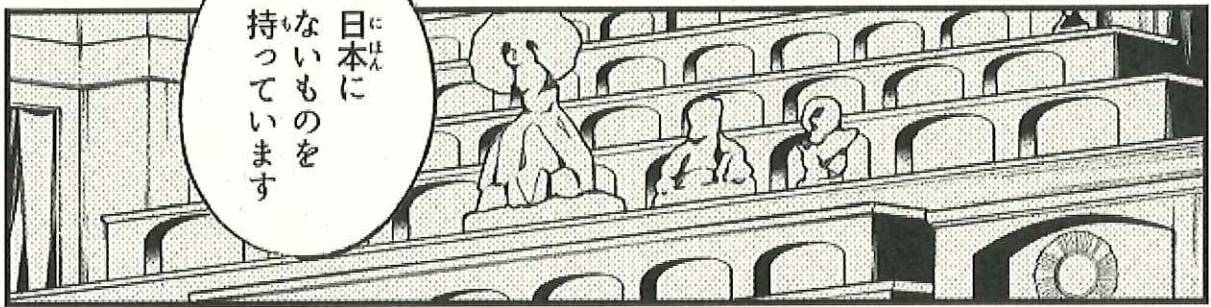
次いでソテロが
この旅の経緯と
日本の情勢

今後の
旅程を説明











いよいよ
スペイン国王のいる
マドリードですぞ

そうだな…

12月

首都
マドリードに入る



貴族・領主・
騎士らが多く訪れ

多くの祝儀と
贈り物が常長らに
贈られた

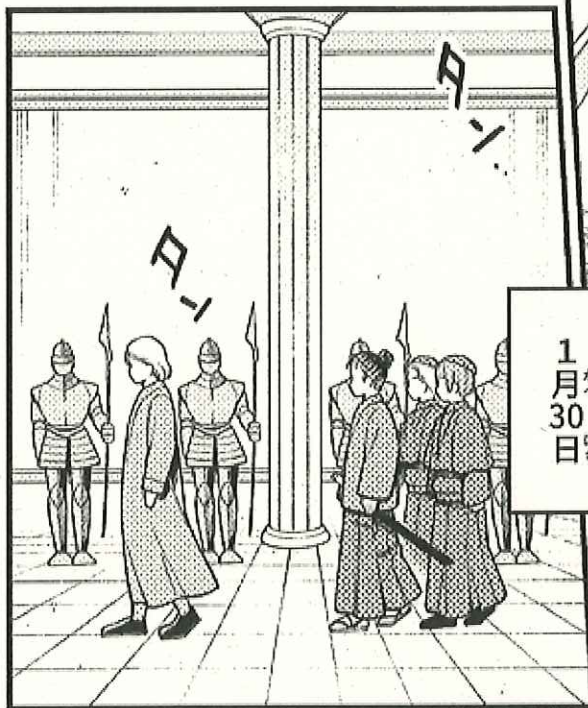
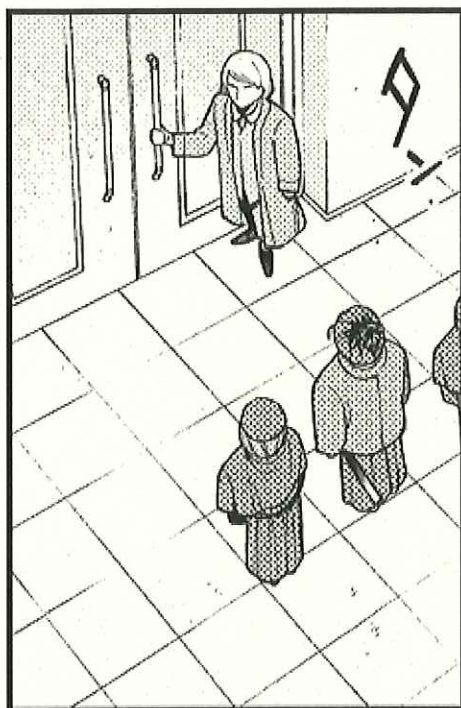


宿舎
サン・フランシスコ
修道院のもとには



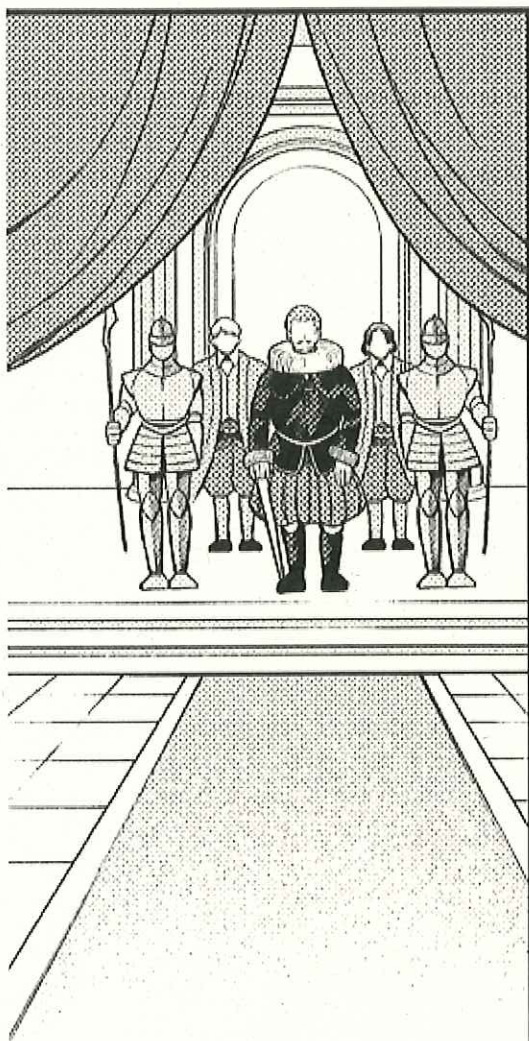
スペイン国王の
執事・司祭長
国王の名代も訪れ

無事の到着を祝し
国王が満足している
旨を伝えた

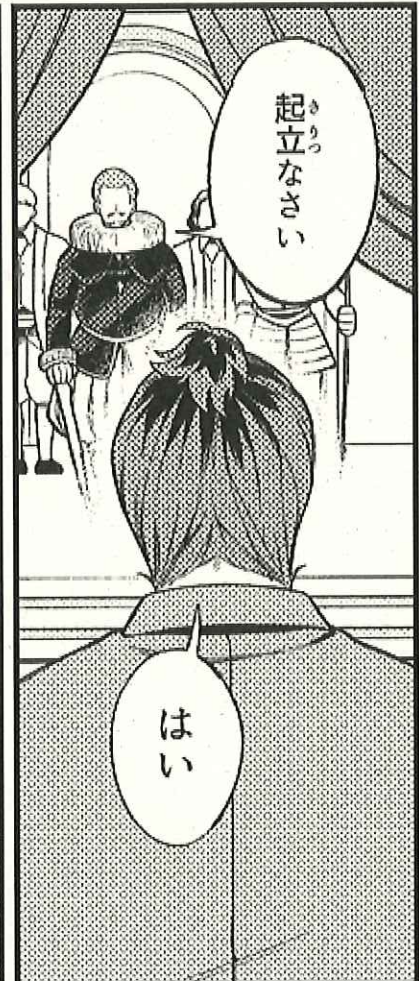
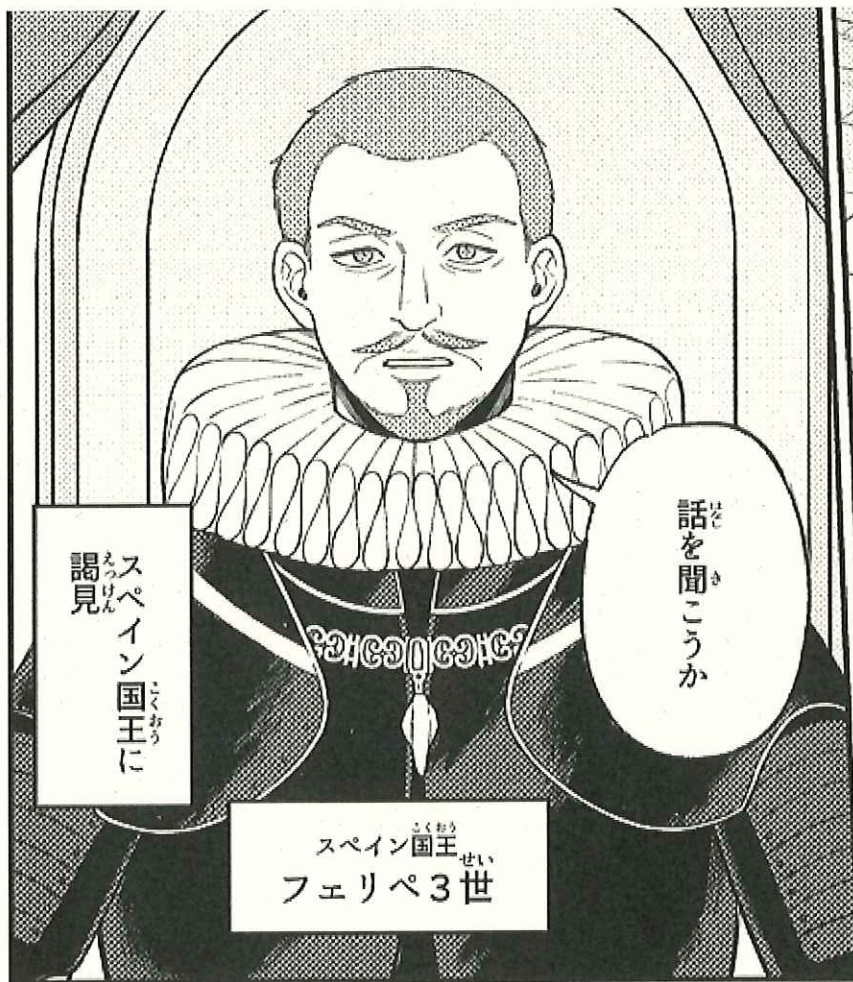


1615
（元禄元年）
げんねん

1月30日
がつにち



つねなが さい
常長 46歳



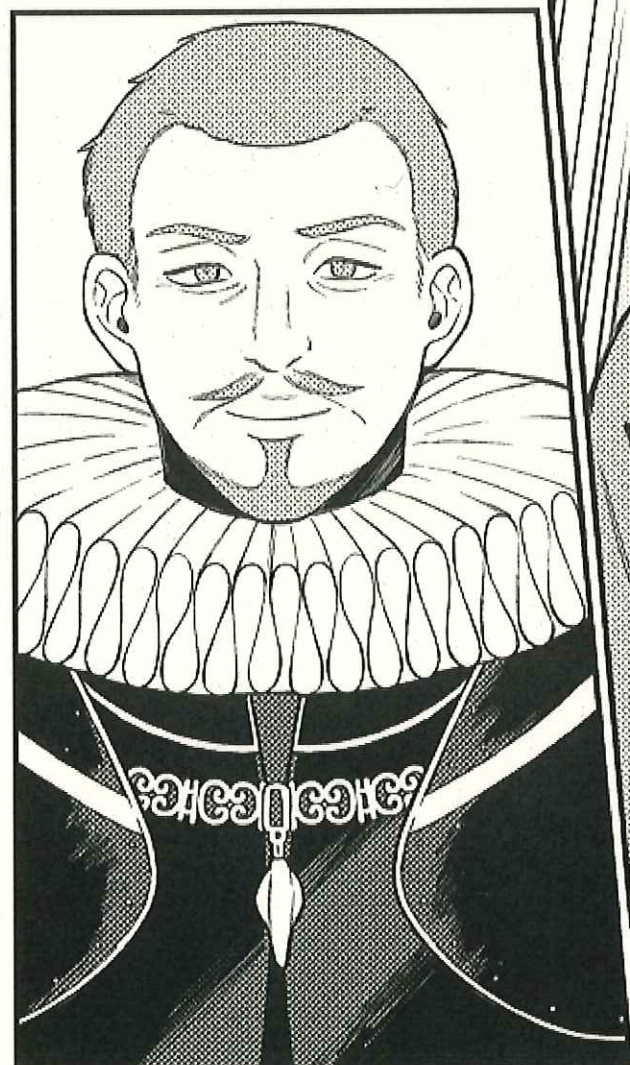
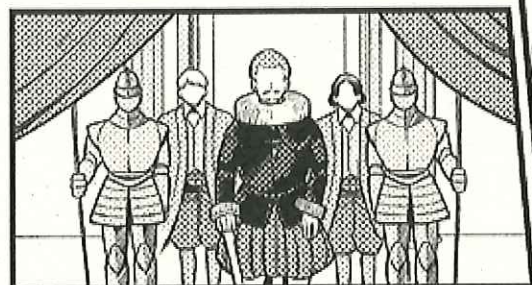




.....

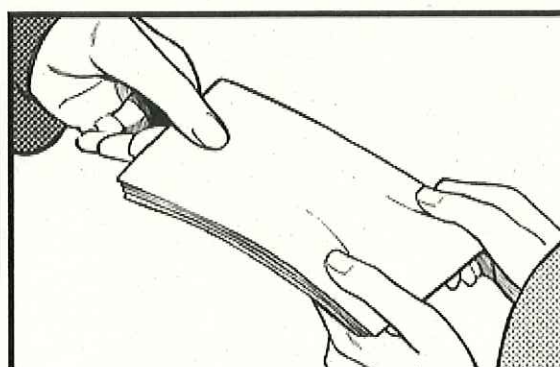
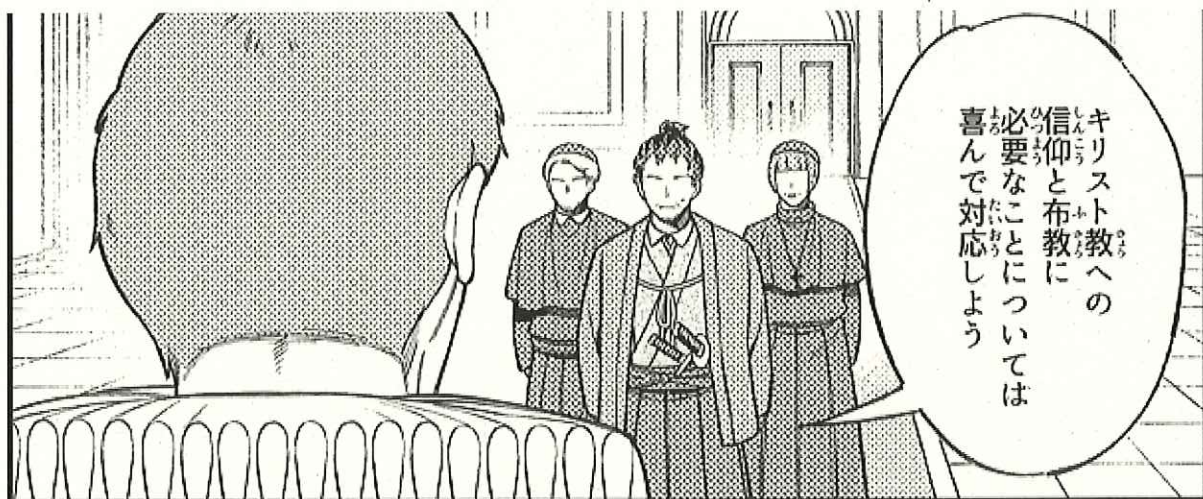


どうだ国王……
こくおう



ぜひ国王様の
こくおうさま
立ち会いのもと

私をキリスト教徒に
わたし
思っただけだと
おも
思っております!!
きょうと







生涯にわたって
王室の繁栄を
お祈りいたします

国王の名を冠した
キリスト教徒
フェリペ・フランシスコ
支倉六右衛門の
誕生である

彼の
スペインでの評判は

彼は誠実で
尊敬できる
人物であり

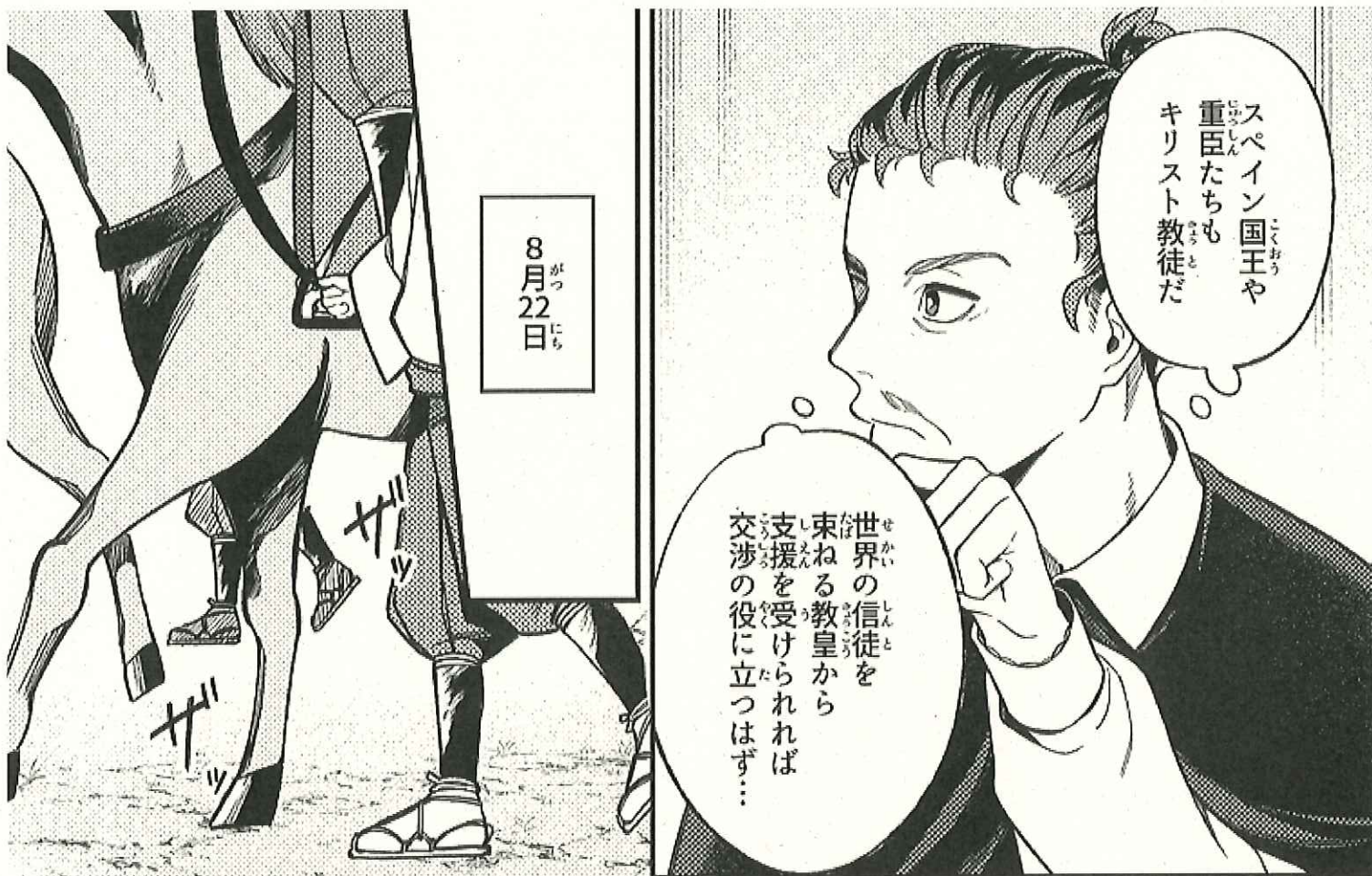
人柄も
称賛を受けるに値し
当地でうまく
ふるまっている

彼は見識もあり
落ち着いていて
話術に優れ
謙虚な人物と
思われた

日本人の大使は
思慮深く
全ての面で
大変よく
気配りされている

など
いいものばかりだ





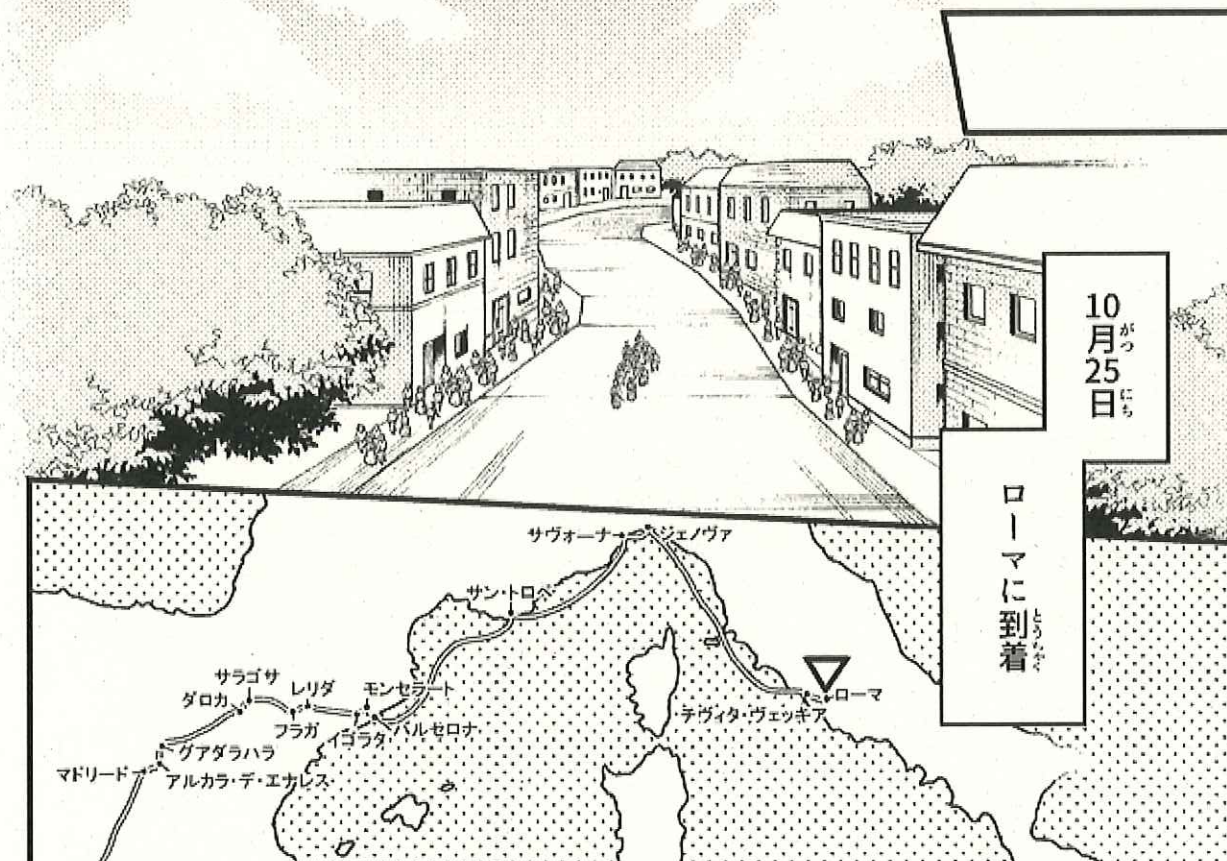


※その他にもヨーロッパでは、寝る時は裸になる、長い剣と短い剣を肌身離さず持っている、それも切れ味がすごい、日本語以外は話せない、教会ではとてもまじめで恐ろしく真剣な態度という生活の様子が記録されている。





※たんで懐の中に入れておく紙

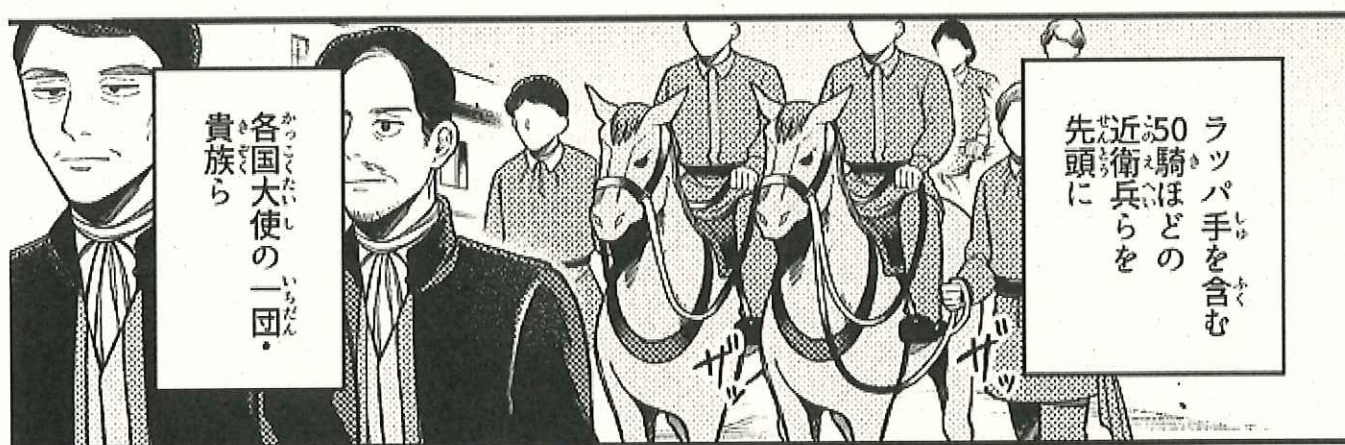




10月29日

ローマ教皇の
希望により

ローマ入市式が
行われた



ラッパ手を含む
50騎ほどの
近衛兵らを
先頭に

各国大使の一団・
貴族ら

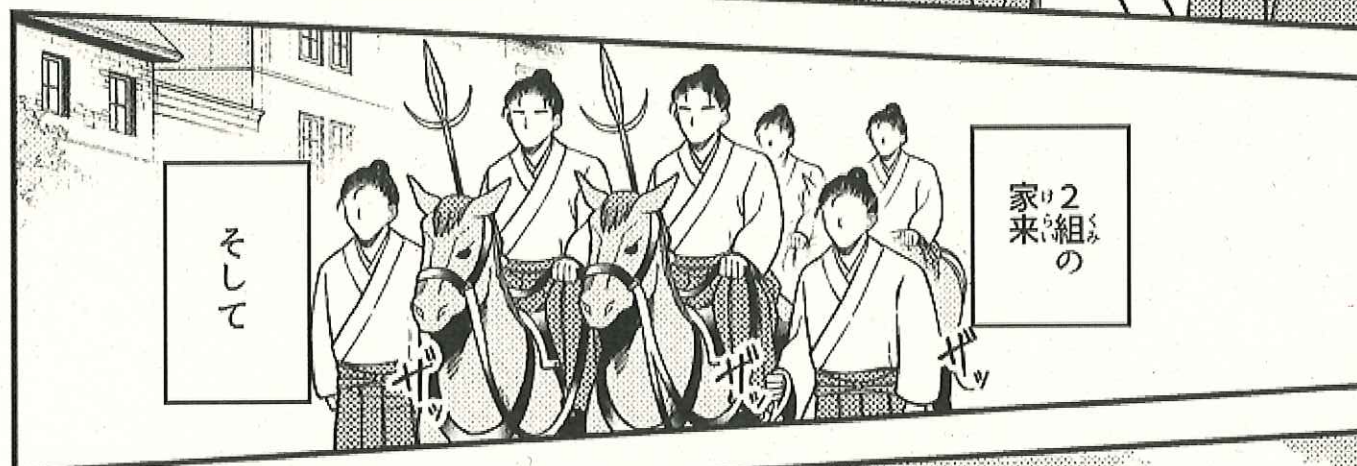


常長の従者・
小姓たちが続く



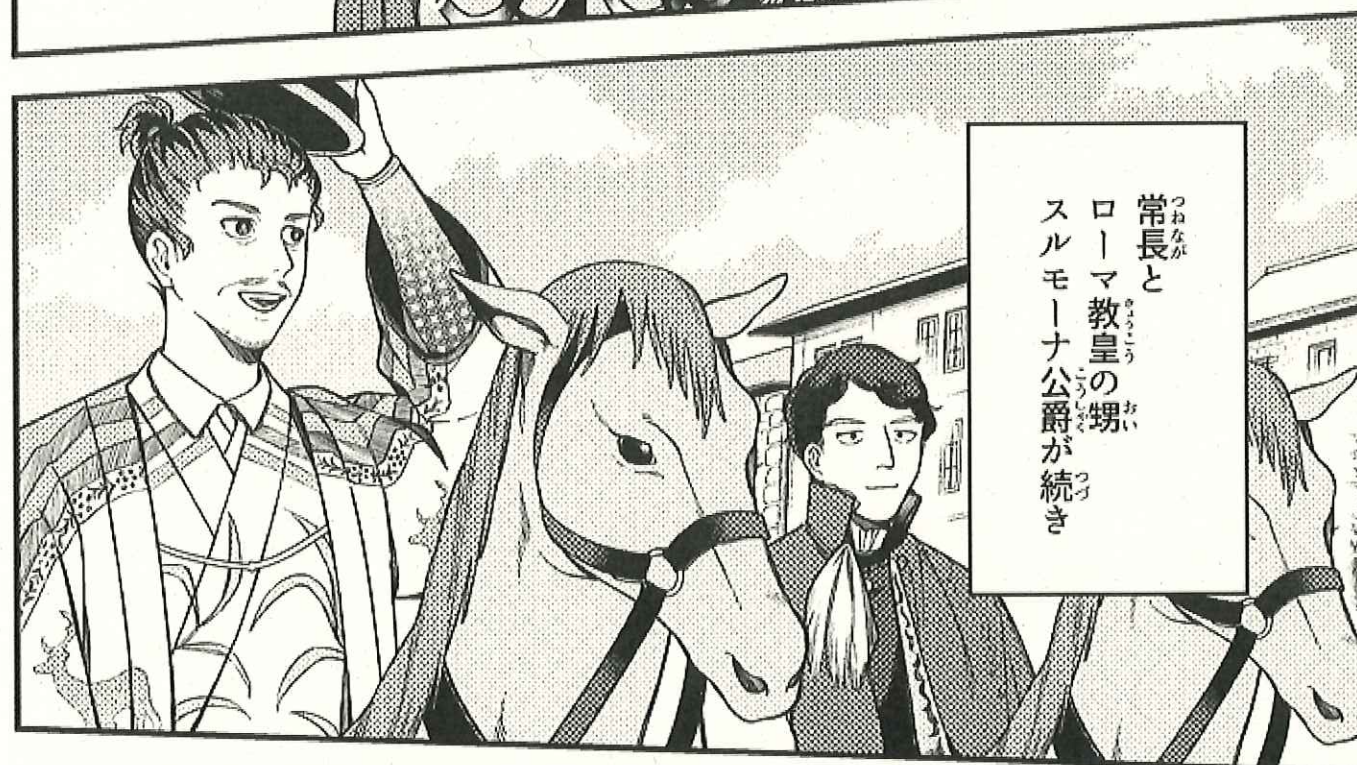
ヴェネツィア
出身の通訳
グリゴリオ・
マティアス

その後ろには
滝野加兵衛ら
4人の武士と

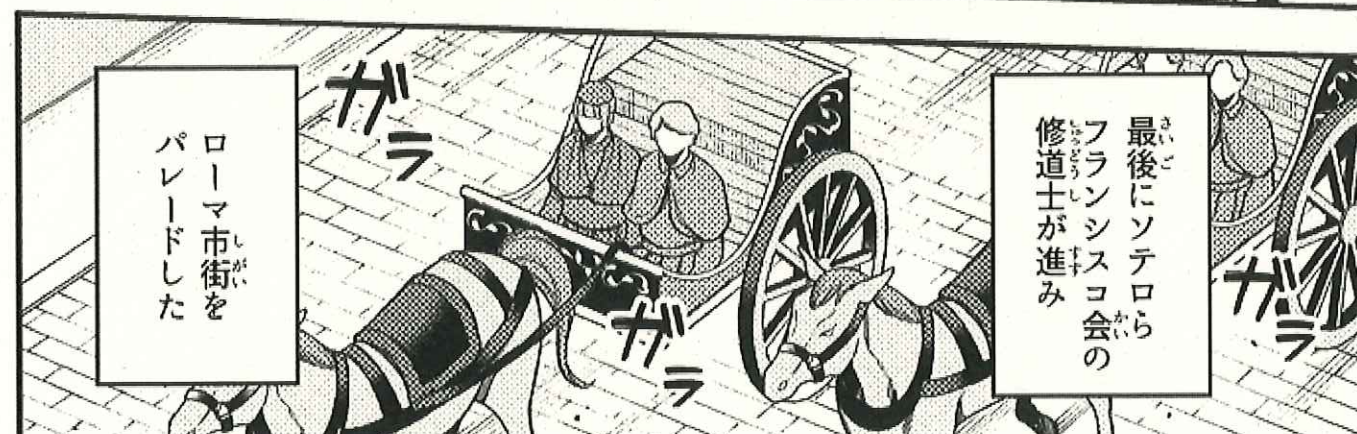


そして

2組の
家来

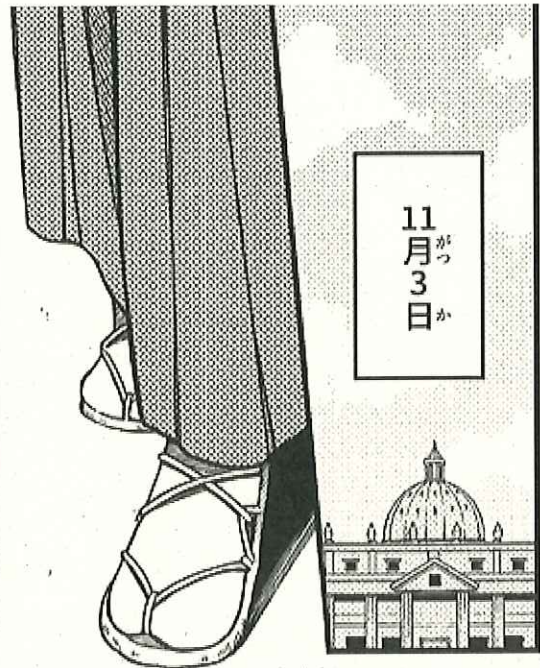


常長と
ローマ教皇の甥、
スルモーナ公爵が続き

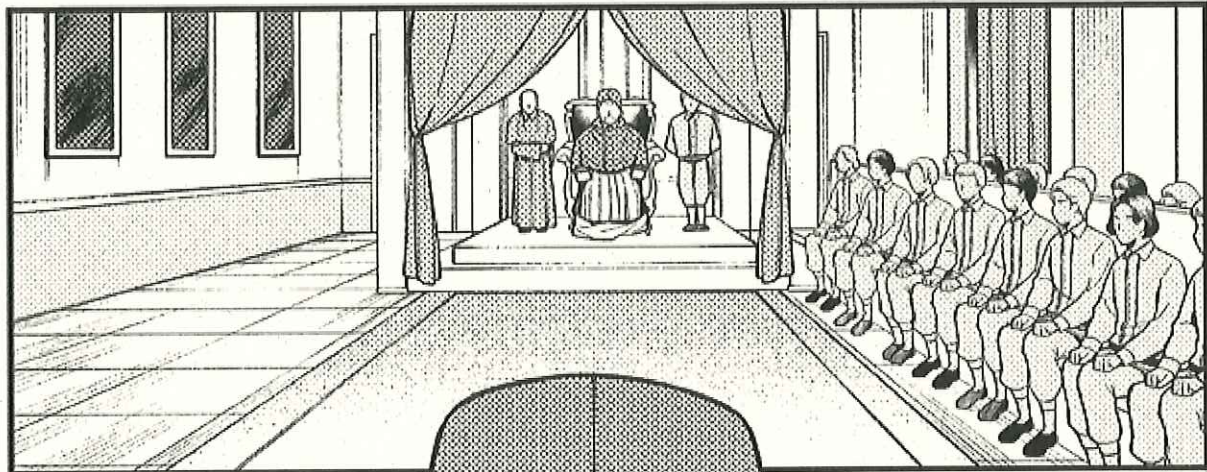


ローマ市街を
パレードした

最後にソテロら
フランシスコ会の
修道士が進み



11月3日

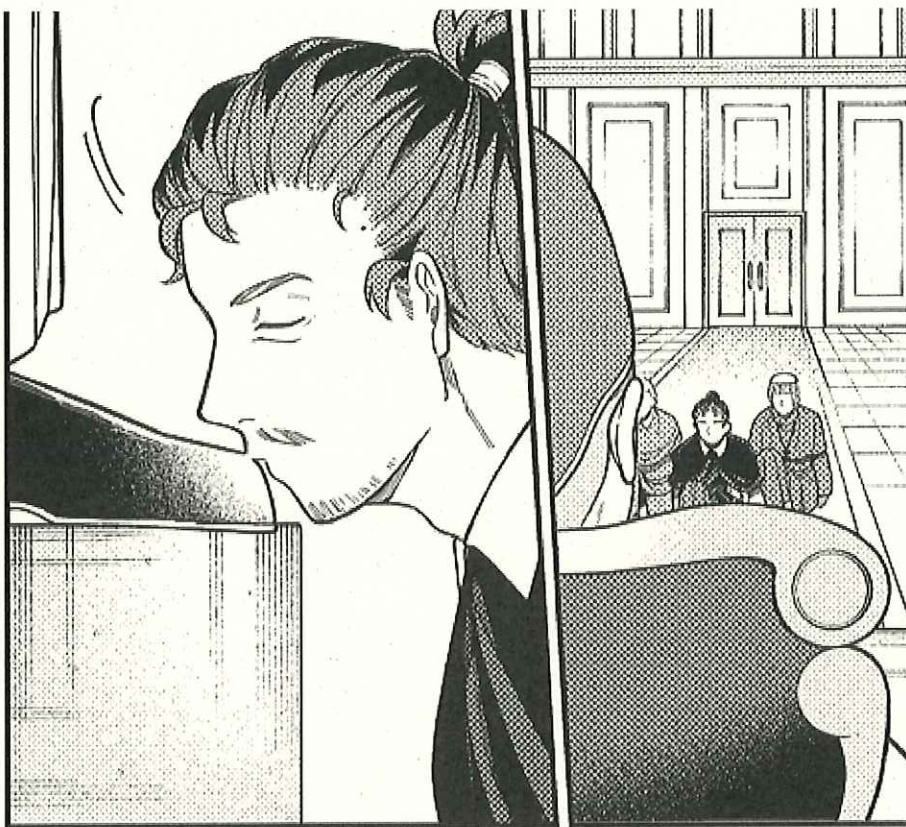


ローマ教皇に
謁見

ローマ教皇
パウルス5世



話は聞いて
います



ソテロの
通訳のもと

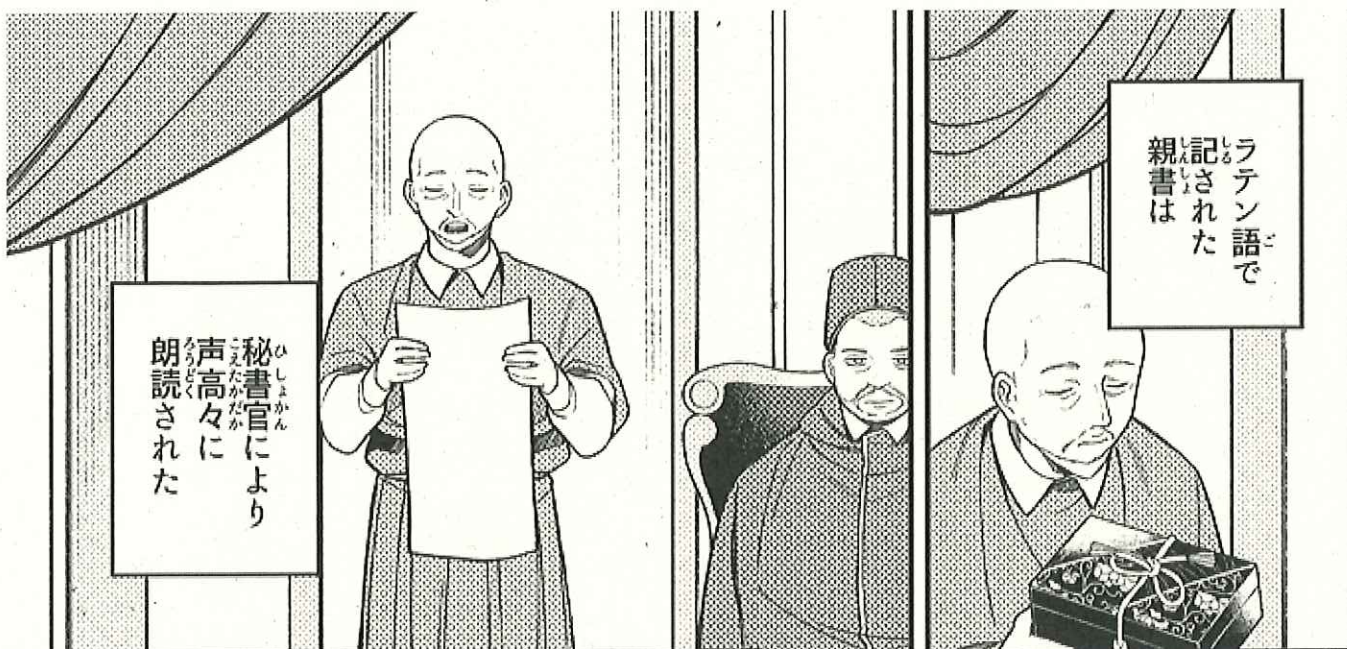
常長が
日本語で
話をしながら



政宗親書と文箱を
教皇に手渡した



スペイン国王のもと
キリスト教徒になった
日本人大使とは
あなたのことですね



政宗親書に
記されている
要望内容については

そのすべてに
スペイン政府との
再交渉が
必要とされたが

ローマ教皇からは
おおむね前向きな
返答を得ることが
できた

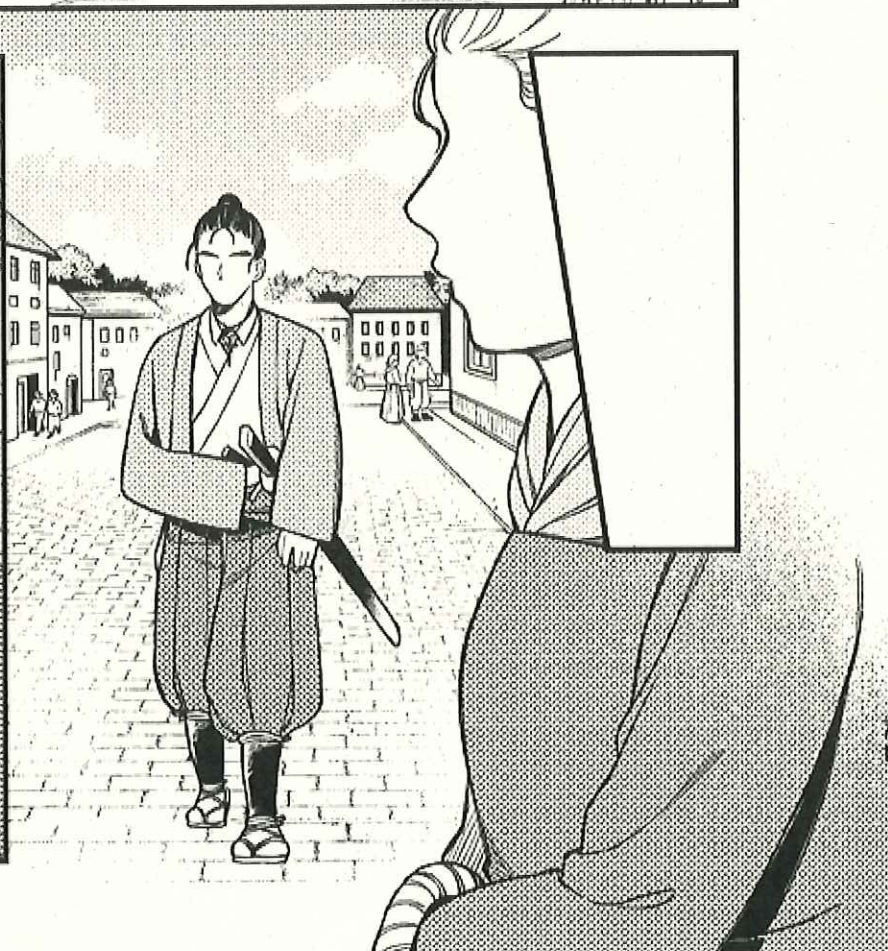
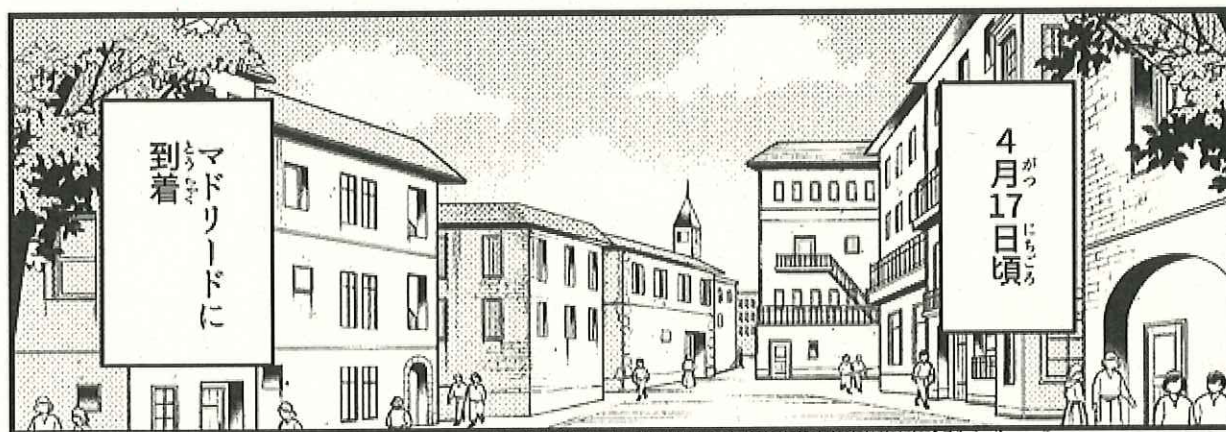
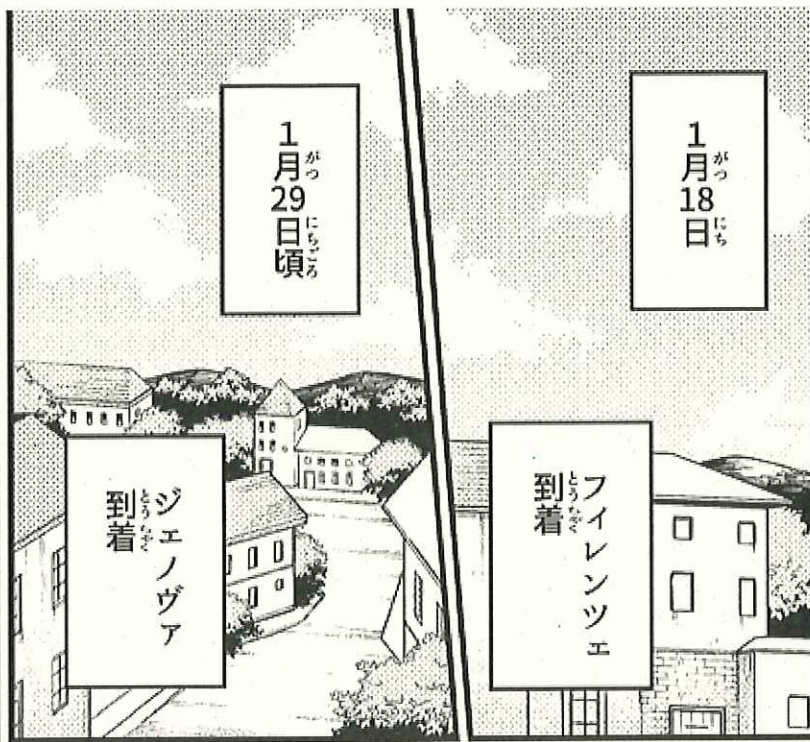
スペインに戻って
国王に再び
掛け合わなければ

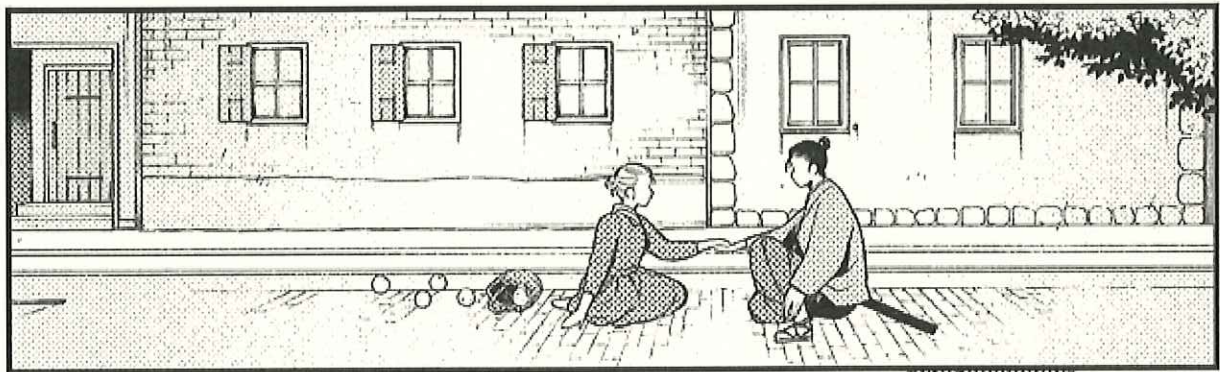
1616
（元和2）年
1月7日

使節一行は
再度スペイン政府と
交渉するため

2ヶ月滞在した
ローマを旅立った

つねなが 常長 47歳





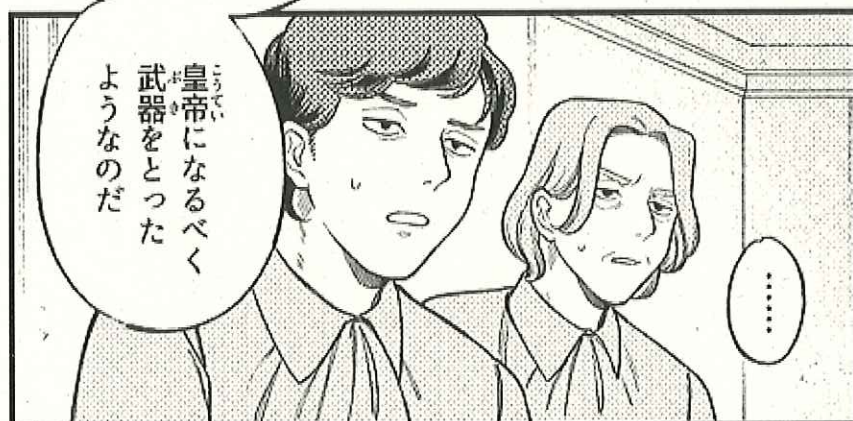


やはり
スペイン国王との
交渉は行すべきだ

実は奥州の王は
現皇帝家康の死を
待たずに



…いや



皇帝になるべく
武器をとった
ようなのだ

……



…常長は
真面目な男だが

ソテロには
気をつけた方が
良さそうだ



なんだか
話が二転三転
しているな

しかも
そんな話は
聞いてないぞ

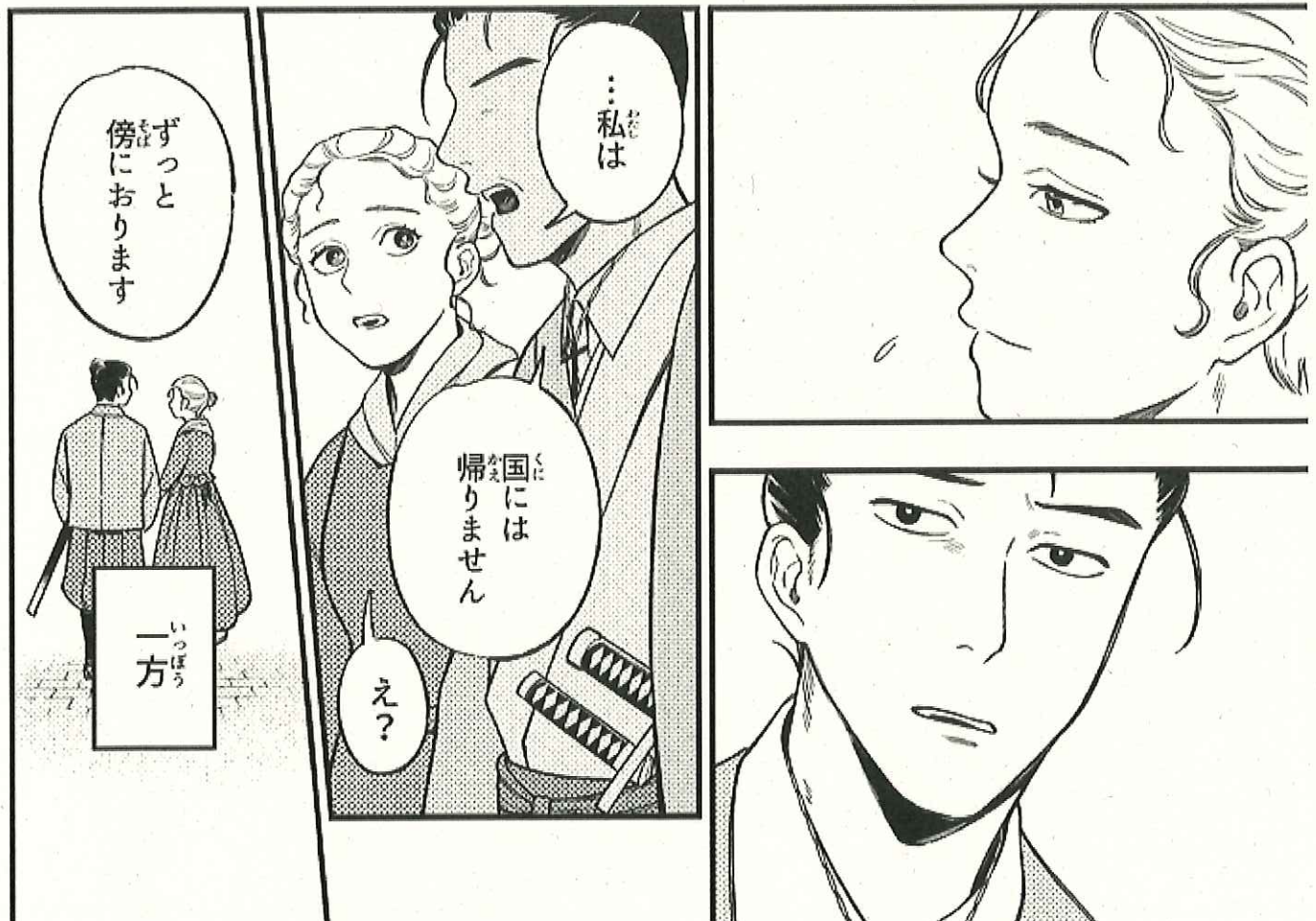
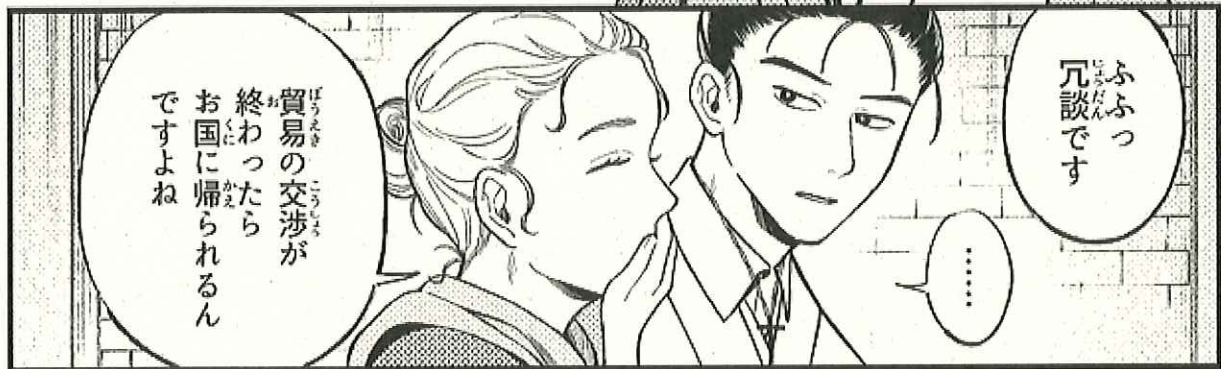
ソテロは
本当のことを
言っているの
だろうか



もし奥州の王が
勝利して皇帝になれば
キリスト教界は
一層拡大するだろう

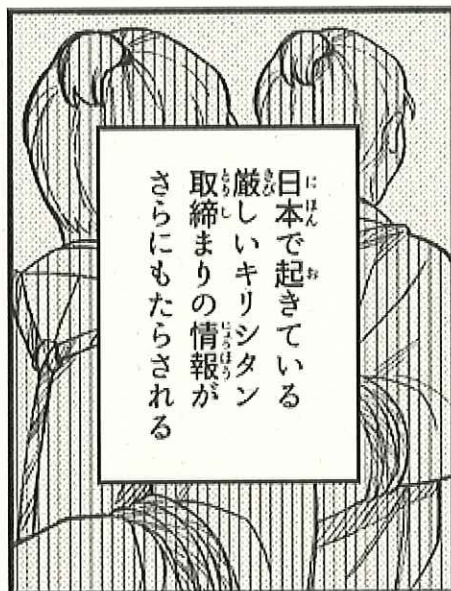
だから
交渉すべきだ

なあ





国王からの
返事を待った
常長らであったが



日本で起きている
厳しいキリシタン
取締まりの情報が
さらにもたらされる



ついには
帰国の命令が
出されてしまう
のであった

貿易に対する
明確な許可は出ず



私たちだけでも
もう少し待つと
しましょう



……
それでは
仕方がない



……このまま
日本に帰れる
わけがない

つねなが
常長らの
乗船拒否の
スペイン政府は
一報を受けた

こくおうへんしよ
はつこう
国王返書を
発行するよう
てんかん
方針を転換する

伊達政宗に對して
使節派遣とキリスト教の保護への感謝
その喜びを示すため
使節のスペイン・ローマへの旅と
帰国までの厚遇を命じた
そして伊達領にいる
キリシタンらへの厚遇を切望する
また日本の皇帝宛の書簡を
別にしたためる

これまで積み重ねてきた外交交渉への返答が全くない...

...

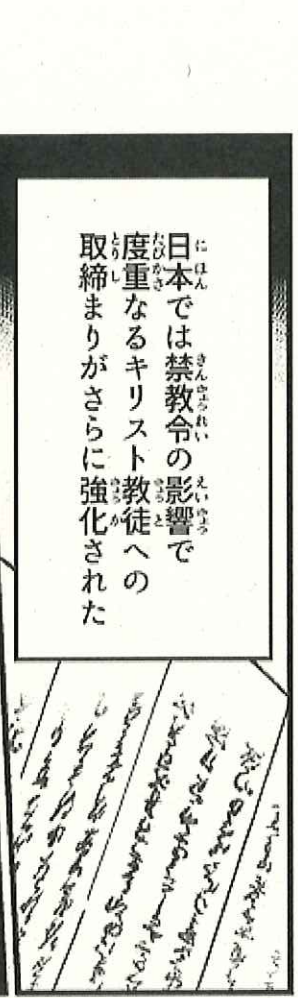
かいとう
つねなが
回答に満足しなかった
常長らは

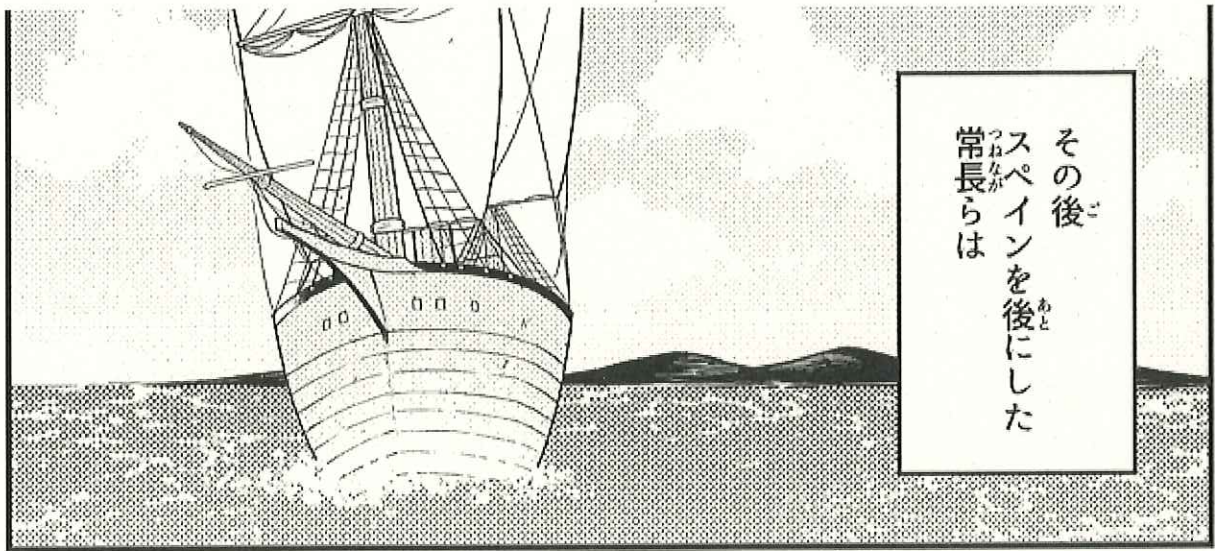
さらに
スペイン
決意する

…まだだ

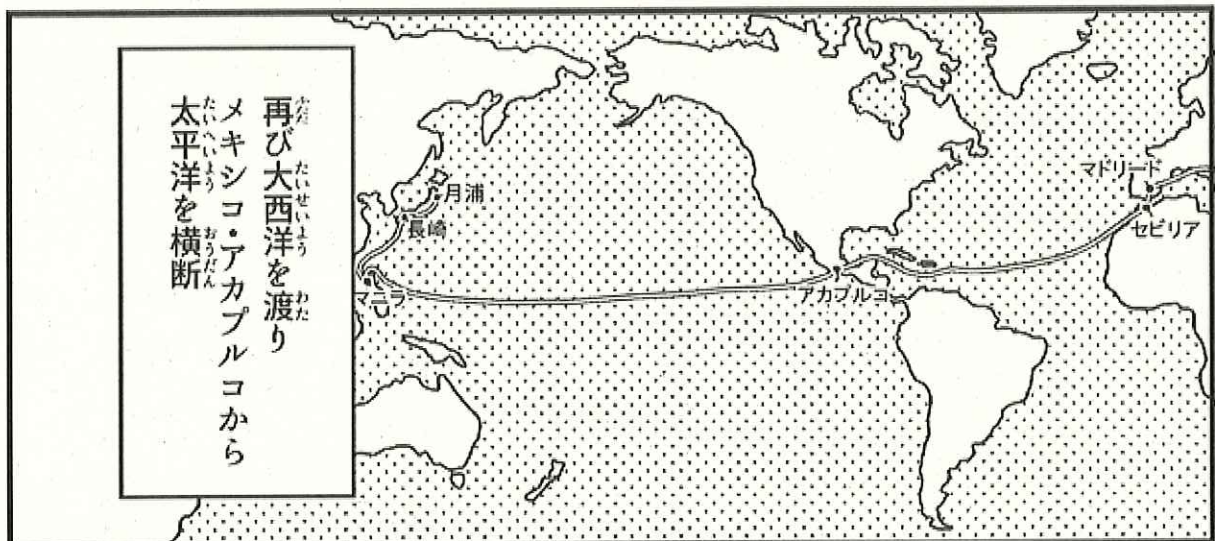
このまま
使命を果たさずには
帰国できない

その頃





その後
スペインを後にした
常長らは



再び大西洋を渡り
メキシコ・アカプルコから
太平洋を横断



フィリピン
滞在中

常長は
息子・勘三郎宛に
手紙を書いている



フィリピン・マニラに
到着

便りが来た喜び一筆申し入れる
当年3月にノビスパンを出発し
海上では何事もなく無事にルソンへ
6月20日に到着したところである
我らも当年中には帰りたいところだが
ここで殿様の買い物などをいたし
また船などをこしらえることになれば
期日までに余裕がなく帰ることができない
来年の6月には必ず帰朝するつもりである

この話を聞けば満足されるであろう
まずこちらは何事もなく
御足輕の3人衆をはじめ
家来召使たちもみな息災である
清八・助・大助の3人は
ノビスパンから走り逃げてしまった――

その後
太平洋を2往復した
サン・フアン・パウティスタ号は

スペイン海軍に
売却された

これで
御屋形様の望む
貿易協定の締結は

ますます
難しくなる



約2年間過ごした
フィリピンから
他の船で
長崎へ入り



常長

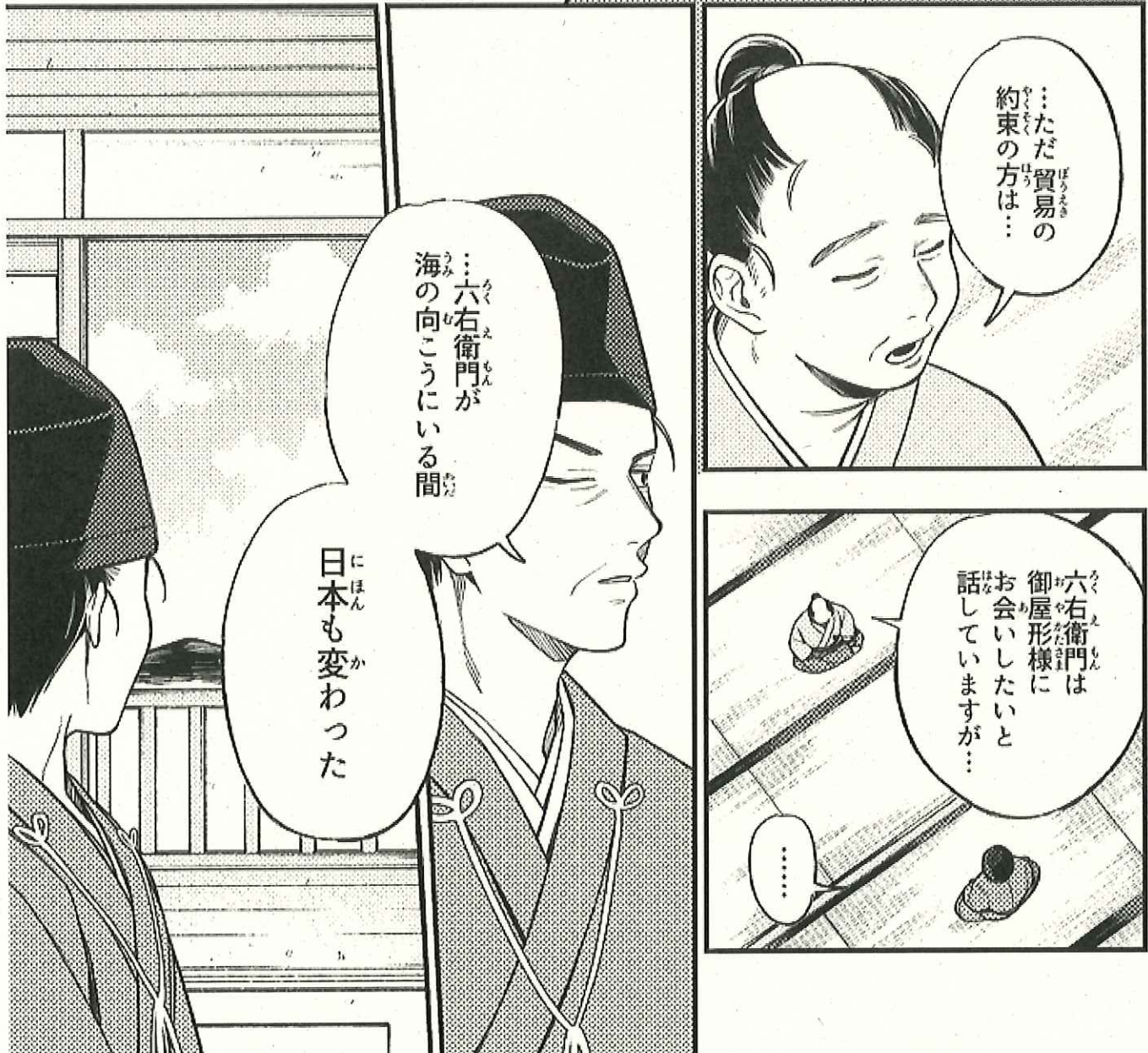
51歳

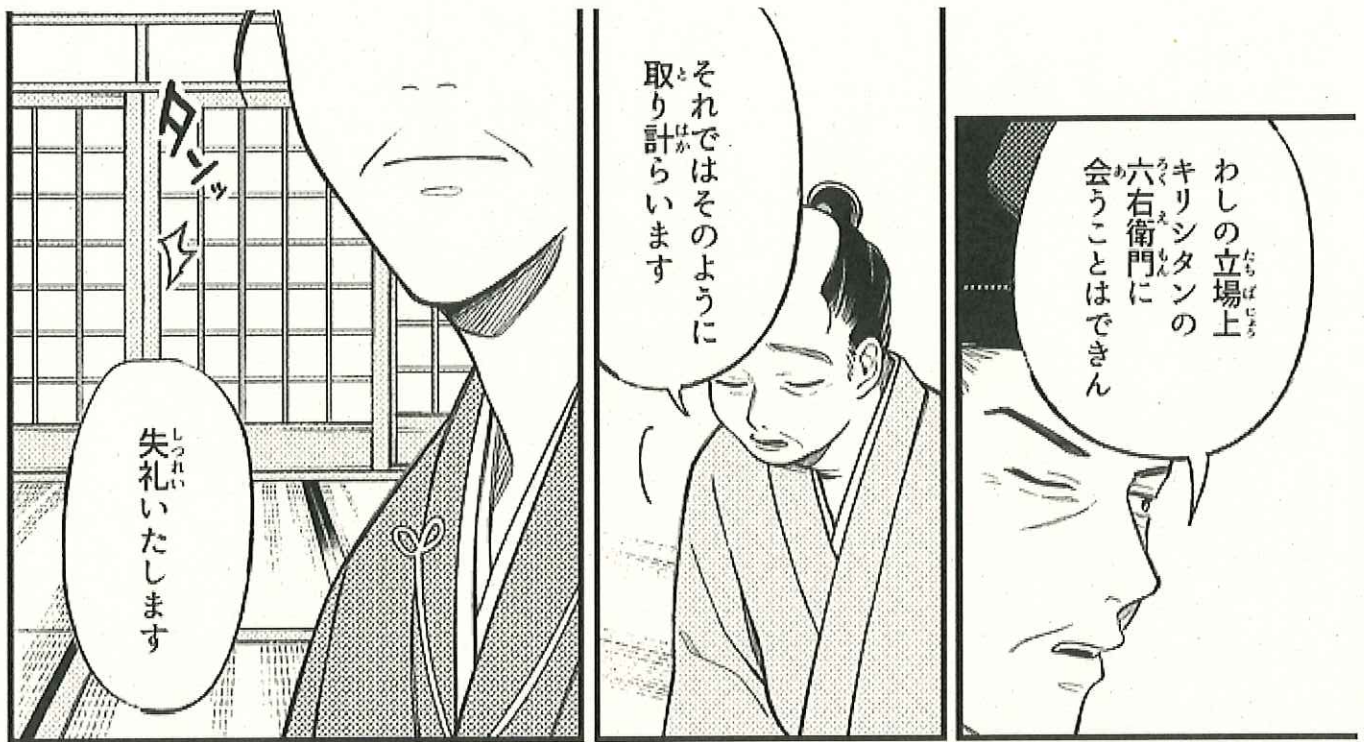
1620
(元和6)年



約7年の
旅を終えて

仙台に帰着











おぬしらを
乗せた船が
大海を数度
渡っている間に

メキシコや
フィリピンで
貿易ができた
ではないか

それもまた
当初の目論見
どおりじゃ

その点では
満足しておるぞ

御屋形様……

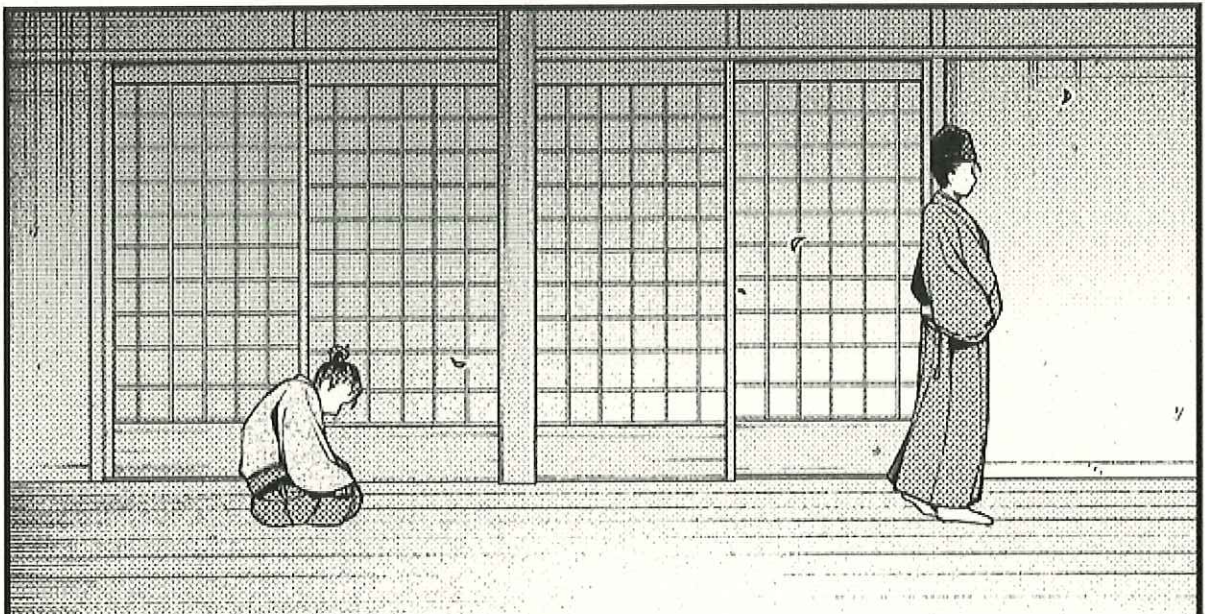
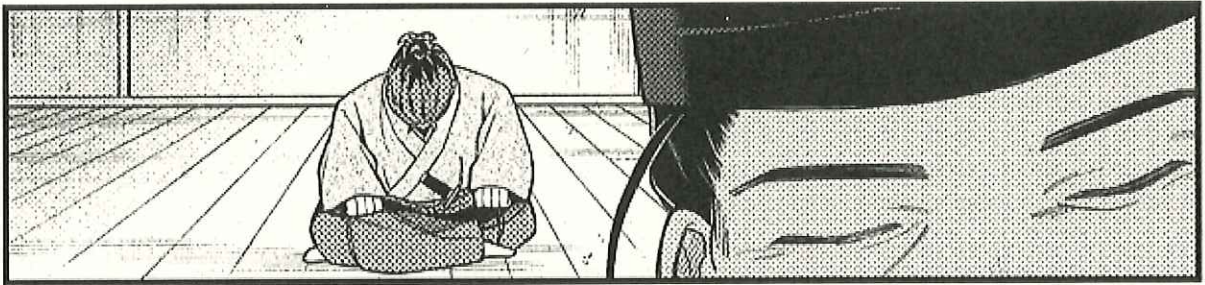


六右衛門

お前は
あの大海を
渡りきり

南蛮という
異国へ行って
親交を結び
戻ってきたのだ

わしは
誇りに思うぞ



1621
(元和7)年

長旅による疲労を
回復しながら

常長は
亡くなるまで生涯に渡り
キリスト教の信仰を
続けたようである

つねなが 常長 52歳

自らの領地で
周囲の者に
キリスト教の教えを
説いていたとも
言われる

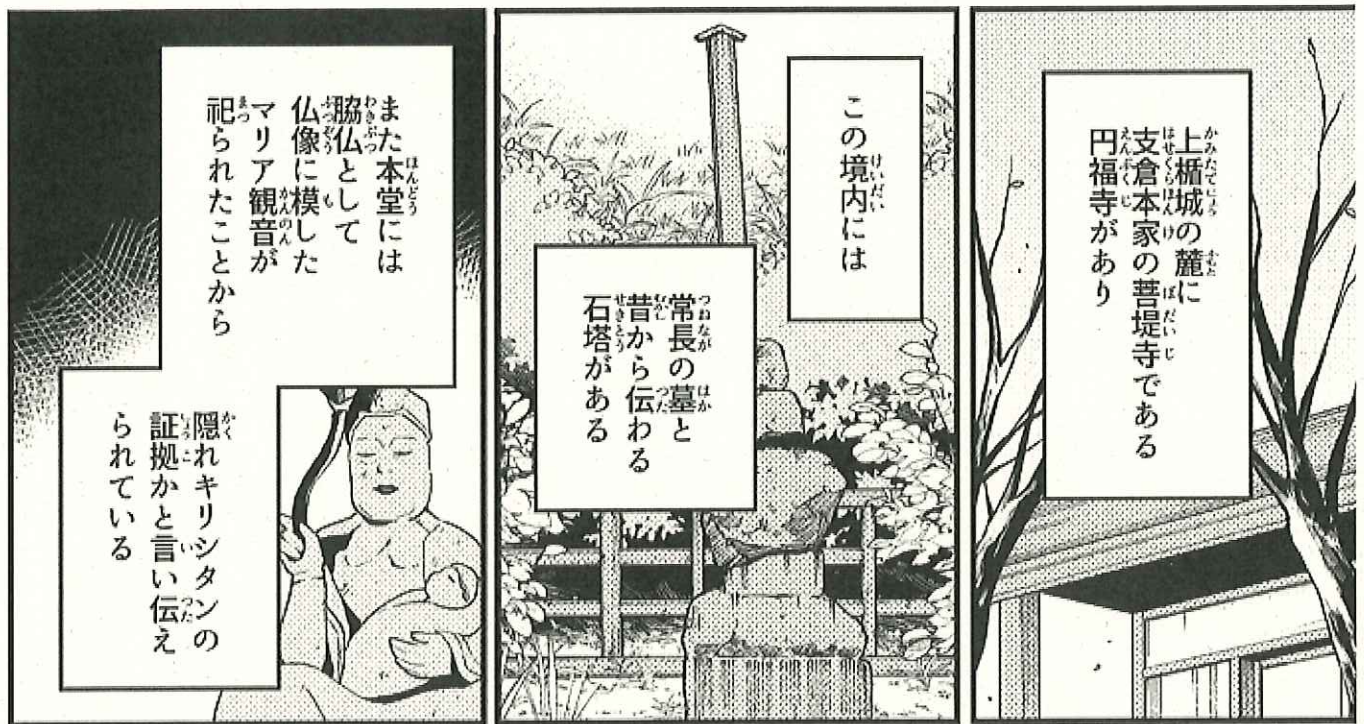
キリシタン禁令の
強化により

そして

持ち帰った品々や
南蛮での様子は

人々の記憶から
消え去っていったのである

帰国後1年ほどで
病死した



上樞城の麓に
支倉本家の菩提寺である
円福寺があり

この境内には

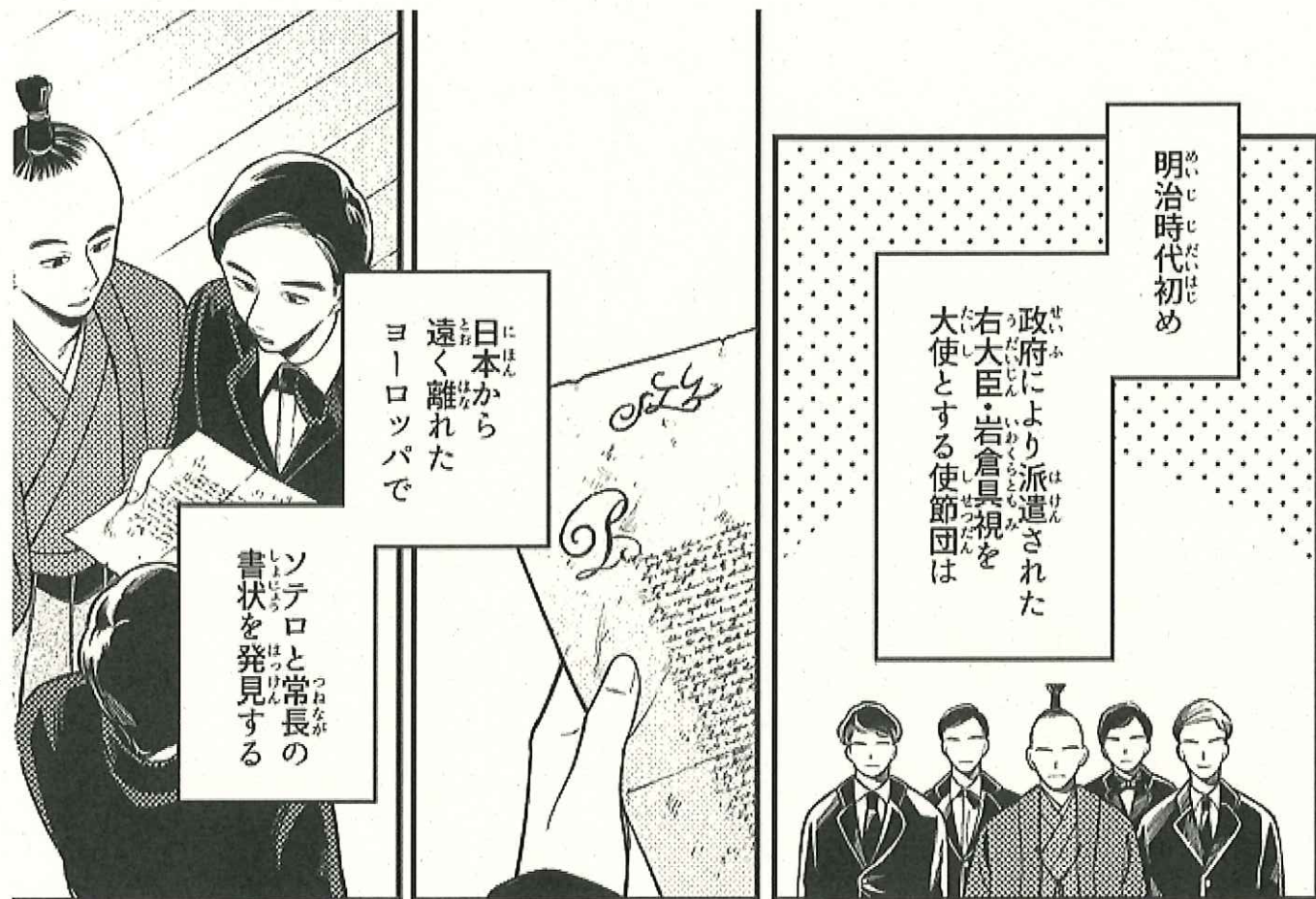
常長の墓と
昔から伝わる
石塔がある

また本堂には
脇仏として
仏像に模した
マリア観音が
祀られたことから

隠れキリシタンの
証拠かと言え
られている

支倉常長と
遣欧使節に
光が当たるのは

約250年後の
明治時代に
なつてからである

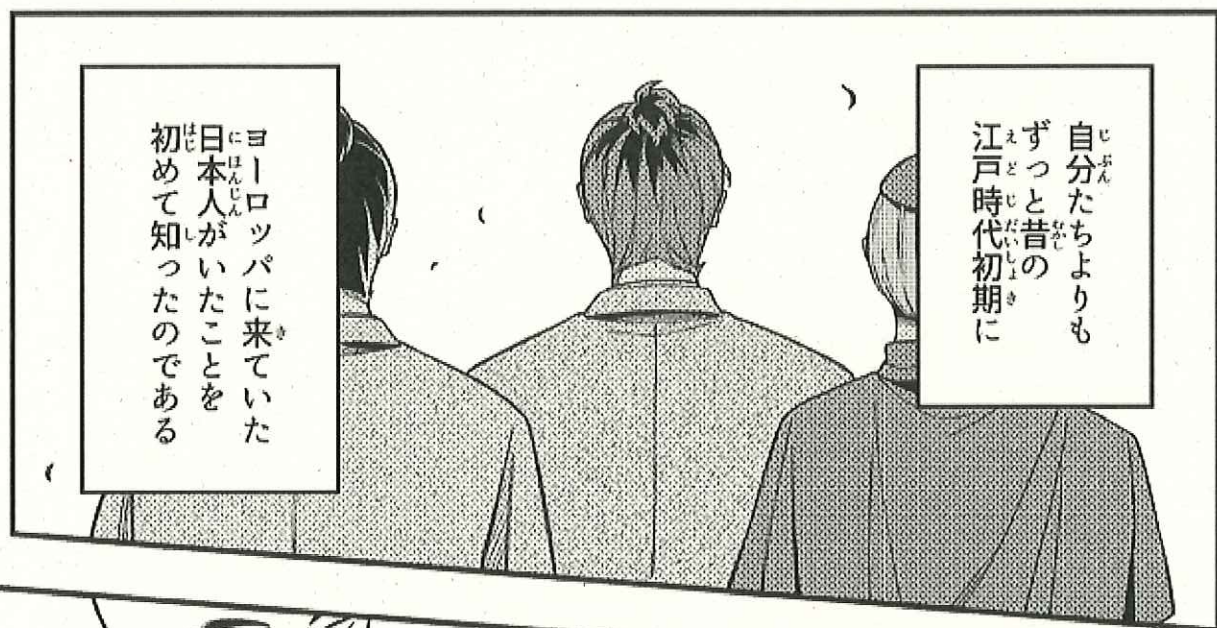


明治時代初め

政府により派遣された
右大臣・岩倉具視を
大使とする使節団は

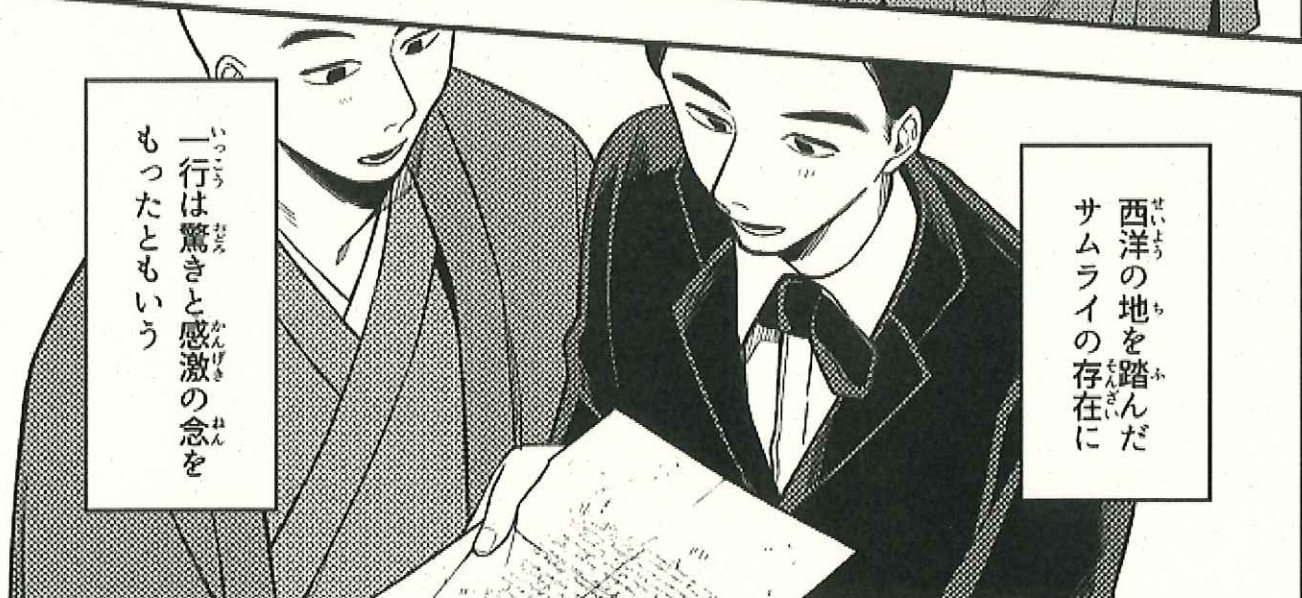
日本から
遠く離れた
ヨーロッパで

ソテロと常長の
書状を発見する



自分たちよりも
ずっと昔の
江戸時代初期に

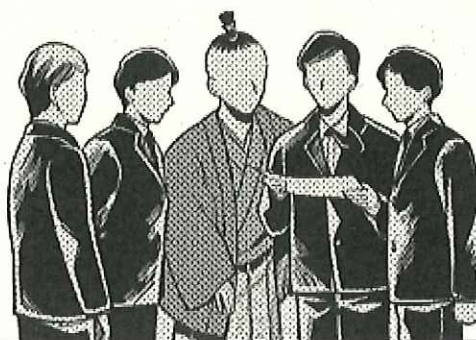
ヨーロッパに来ていた
日本人がいたことを
初めて知ったのである



西洋の地を踏んだ
サムライの存在に

一行は驚きと感激の念を
もったという

日本人の誇りを垣間見たのではないだろうか



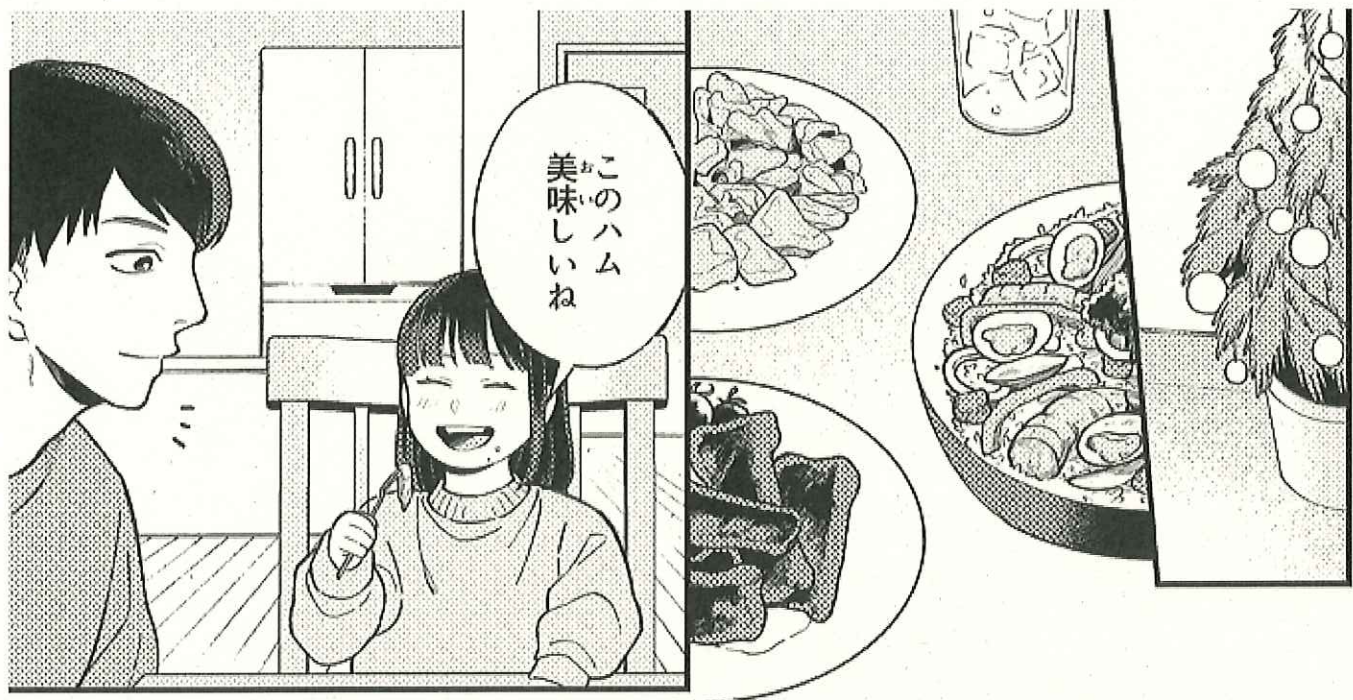
西洋に追いつけ追いこせと言われていた明治時代の彼らは常長の功績にもきつと勇気付けられ

ヨーロッパに使節として渡航し大國スペインと外交交渉を行った史実は

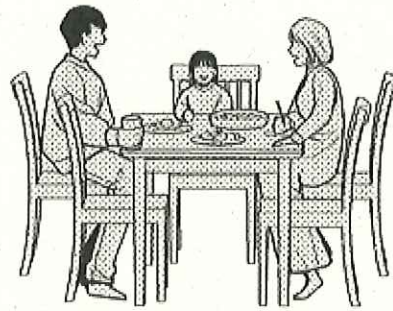
そこで大きな役割を果たし東西文化の懸け橋ともなった男

はせくらつねなが
支倉常長

世界史上の快挙として輝いている



ヨーロッパ社会との
貿易は



今や当たり前
になった

支倉常長という
サムライは

ふたつの海を渡って

東北地方から
ヨーロッパに向けて
行われた

国際交流のさきがけと
なったのである

はせくら つね なが ^{はか}墓 ^{なぞ}の謎？

つねなが はか ばしよ ふくすう
 常長の墓といわれる場所は複数あり、
 みやぎ けん いわて けん しょせつ
 宮城県だけでなく、岩手県にもあって諸説あります。
 しんそう ふめい
 真相のほどはいまだ不明です。
 れき し けんきゅう
 これからの歴史研究によって、
 ほんとう
 本当のことがわかるようになるかもしれません。



おも はか ばしよ 主な墓の場所

おうしやう し みずさわ
奥州市水沢

おおさとらう ひがしなりた
大郷町メモリアルパーク(東成田)

たいわ ちやう ならい
大和町西風

とみや いしづみ ちく
富谷市石積地区

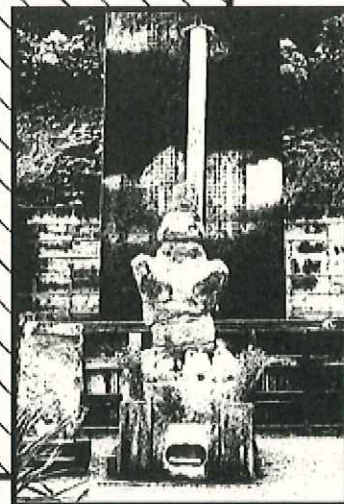
せんたいし こうみやう じ
仙台市光明寺

かわさきまちえんぶくじ
川崎町円福寺

石巻

仙台

かわさきまちえんぶくじ
川崎町円福寺



あとがき。

ここまで読んでいただき
ありがとうございました!!

この漫画を描いていく中で、
私自身勉強になることがたくさんありました!

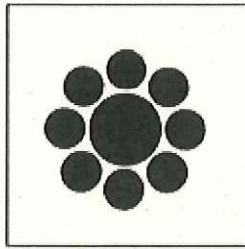
伊達政宗といえば、
眼帯のイメージが強いと思いますが、
最新の研究では眼帯をしていなかったことが
わかってきています。

なので、この漫画に登場する政宗も、
最新の研究に基づき、
眼帯なしで描いております。

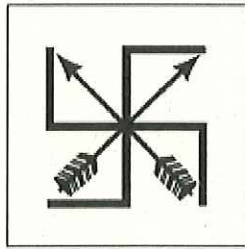
武士の服装や甲冑にも、
いろいろな種類、デザインのものがあることがあって
描いていてとても楽しかったです!



伊達家



支倉家



そして、
本編には登場しなかったのですが、
こちらが、支倉家の家紋に
なります！

この漫画を描くにあたって、最初は不安もありましたが、
たくさんの方のお力添えのおかげで、
ここまで無事に描ききることができました！

この漫画を読んで、支倉常長の歴史を
楽しく覚えてもらえたら嬉しいです！

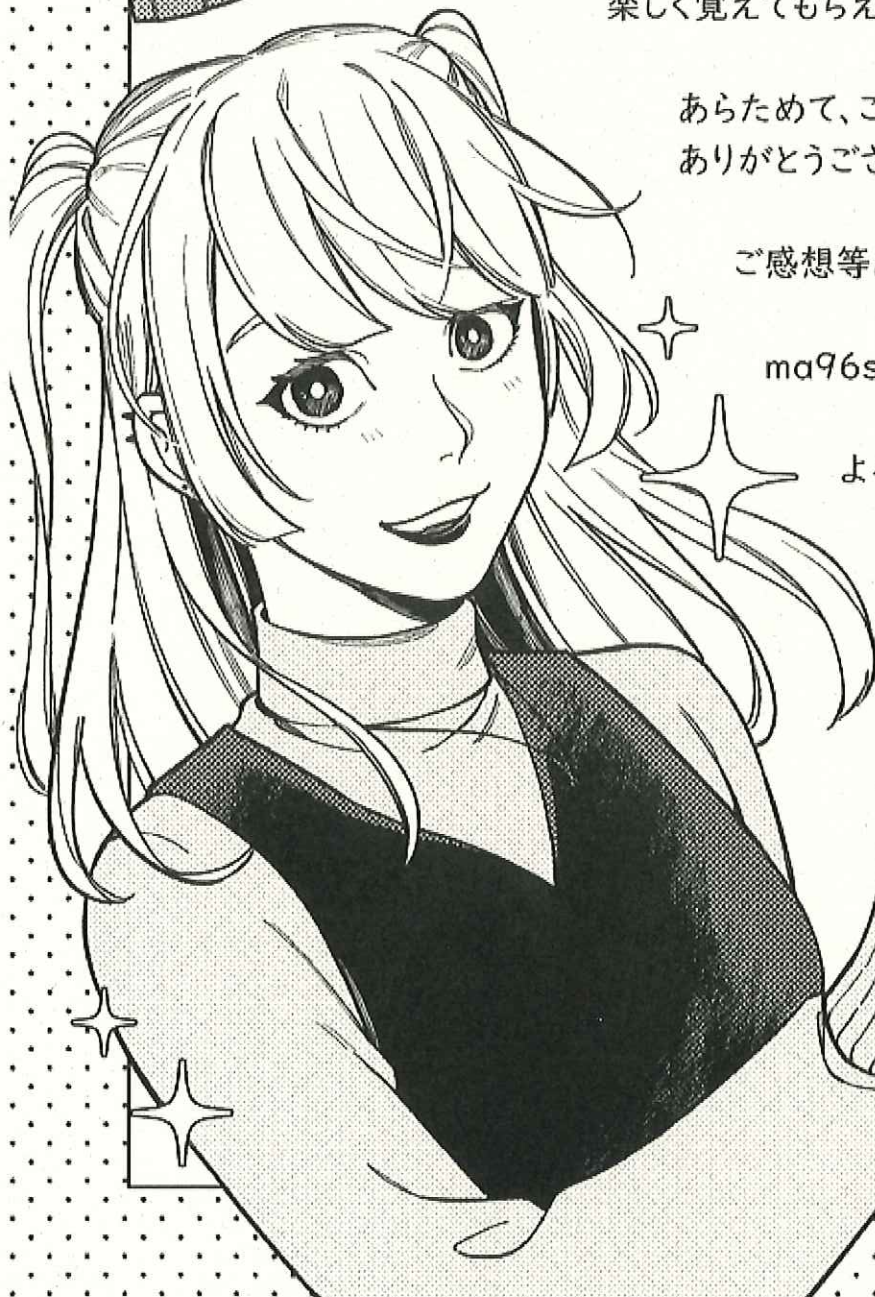
あらためて、ここまで読んでいただき
ありがとうございました！

ご感想等ありましたらこちらまで↓

ma96ss922ox@gmail.com

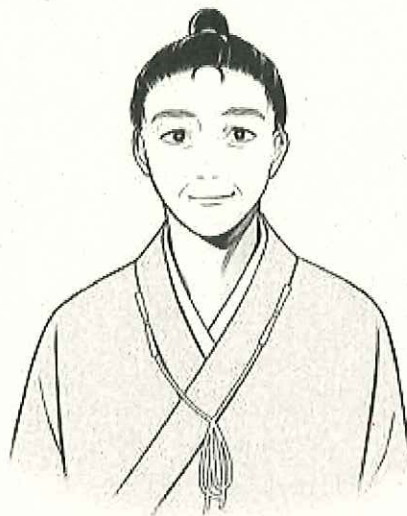
よろしくお願いします！

Haruka.



監修者のつぶやき

佐々木 徹



監修の佐々木さんを江戸時代の人っぽく描いてみました！ by Haruka.

マンガ「支倉常長」を読んでいたいただき、ありがとうございます。

まずは簡単に自己紹介を。私は、昨年4月から人事異動のため仙台市文化財課で仕事をしていますが、それまでは仙台市博物館で支倉常長・伊達政宗関係資料などの管理や展示、調査・研究を担当する学芸員でした。

そんな経歴と、二〇二一年に出版された慶長遣欧使節の著書が目にとまったようで、川崎町から「支倉常長のマンガを作るから監修して！」というオファーをいただきました。このマンガのなかで、常長が「はたして私にそんな大役が務まるだろうか」と心の中でつぶやいていますが、私もまったく同じ心境でした。そんななかでも、ご担当だった川崎町生涯学習課の栗野繁さんには最後まで支えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

歴史を絵にするという行為は、決して楽な作業ではありません。マンガとして様々な場面・情景を視覚的に表現するためには、かなり多くの情報を必要とするのですが、それらをすべて満たす史料、（たとえば古文書や古い絵画、工芸品、建物など）が全部そろって残されているわけではないからです。そうなってくると、当時の一般的な状況とか、参考にできそうな事例などを引っ張ってくるしかありません。

常長の人生もまた、すべてが事細かにわかっているわけではありません。生没年、政宗の初上洛や朝じょうらく

鮮出兵への随^つ行、使番^{つかいばん}への任命、父の切腹^{せつぷく}と自身への追放命令、海外での旅の様子といった部分には確実な史料がありますが、彼の前半生には史料がほとんどなかったりもします。そこでこのマンガでは、政宗のそれ（元服^{げんぷく}十一歳、結婚十三歳、初陣^{ういじん}十五歳）を参考にしました。この時期の年齢設定は意外と重要で、それによって顔や体つきの描き方、前後の出来事との配列関係などが変わってくるため、設定次第では話の印象や流れがガラツと変わってきてしまうんです。

マンガとして読める、楽しめることも大事な要素ですので、史実と読み物のバランスにも少々頭を使いました。常長の使節任命にあたって、常長と政宗とソテロが顔を合わせる場面。実はこれ、実際にあったかがかなり微妙なのですが、前半のハイライトでもあり、江戸にある仙台藩の屋敷でなら可能性がゼロでないかも……ということで採用。キリシタン武士の滝野^{かへえ}加兵衛がスペインに残留するのは史実ですが、現地の女性と恋に落ちたかは不明です。でも、あったかもしれません。仙台帰着後の常長と政宗が密会するシーンも実際のところは不明ですが、政宗がこの使節事業のうち貿易について成功した部分もあつたと評価する点は、実際にあつたろうと考えています（詳しくは私の著書をご覧ください！）。

いろいろと考え出すと切りがないのですが、「ワクワクドキドキするような、面白く学べるマンガにしたい！」という情熱^{ながつね}のなせるわざだと思つて、もろもろお許しただけだと思います。最後に、実は常長、当時の史料では「長経^{ながつね}」と称していました。しかし、常長と名乗っていた可能性も現時点ではゼロでないため、本書では一般的に通用している「常長」を用いることにしました。この点もご了承くださいねばと思います。



町長自画像

発刊によせて

川崎町長 小山修作

約四百年前、戦場を駆けめぐり、遂には伊達政宗公の命を受け
世界に飛び出していった男。百八十人の仲間を束ねた男。
それが、我が川崎町で育った支倉常長です。

彼の責任と重圧と孤独は、いかばかりであったでしょうか。
常長の勇気、努力、忍耐を私達は忘れてはなりません。

時あたかも、世界中がコロナに苦しめられ、ウクライナでの
戦いが、毎日、報道される中、私達は常長のことを思い出しましょう。
世界を駆けめぐり、世界の人々を信じ、
世界の人々と交渉した常長の偉大さを思い出しましょう。

このマンガをきっかけに、支倉常長の夢を知ってほしいと思います。
そして、みなさんも夢に向かって努力してください。

柴田郡支倉氏、支倉六右衛門常長、慶長遣欧使節関連年表

西暦	和暦	事 項
1189年	文治5年	常陸国(茨城県)の武士・伊藤壱岐守常久、伊達朝宗(伊達氏の初祖)の子・宗村らに従軍。石那坂(福島市)の戦いで戦功をあげ、柴田郡支倉、信夫郡山口(福島市)、伊達郡梁川(福島県伊達市)に知行地を賜わって柴田郡支倉に居住し、支倉氏の初祖になったとされる。
1192年	建久3年	伊藤常久の息子である久成、伊達義広(宗村の子)に命じられ、居住地の地名である支倉を名字とし、支倉氏を称したとされる。
1547年	天文16年	伊達植宗、支倉新右兵衛忠常の戦功を賞して知行地や碓石川の築(魚を捕るための仕掛け)を与え、さらなる忠節を求める。 この頃に活動していた支倉紀伊守常正、伊達晴宗から知行地120貫文を許されたとされる(柴田郡支倉の上楯城の築城も常正の頃か)。
1570年	元亀元年	支倉六右衛門常長、支倉飛騨守常成(支倉常正の子である紀伊守時正の弟)の子として生まれる。
1577年	天正5年	この頃、常長が男子のいない伯父時正の養子になったとされる。
1591年	天正19年	常長、伊達政宗の初上洛にお供をする家臣の1人となる。
1592年	文禄元年	政宗、豊臣秀吉の命で朝鮮出兵に向かうため岩出山城を出陣し、のち京都から九州へ出陣。常長、御手明衆20名の1人として政宗に従軍。
1596年	慶長元年	この頃、支倉時正に男子が誕生したため、常長が時正の知行地60貫文を分与され、独立したとされる。
1600年	慶長5年	常長、この頃までに政宗の使番となる。関ヶ原の戦いが起こる。
1601年	慶長6年	政宗、仙台城と城下町の建設を開始する(千代城を仙台城へ改名)。
1612年	慶長17年	政宗、常長の実父常成に切腹、常長にも追放などの処分を命じる。
1613年	慶長18年	10月28日、常長が政宗の命を受け遣欧使節として牡鹿郡月浦を出帆。
1614年	慶長19年	1月29日、メキシコのアカプルコに到着する。
		10月5日頃、スペイン上陸。21日頃、コリアからセビリアに到着。
		12月5日頃、マドリッド到着。サン・フランシスコ修道院に宿泊。
1615年	元和元年	1月30日、常長がスペイン王宮でフェリペ3世に謁見する。
		2月17日、常長がフェリペ3世ら列席のもとで洗礼を受ける。
		10月25日、ローマに到着。29日、ローマ入市式挙行。
		11月3日、常長がサン・ピエトロ宮殿でパウルス5世に謁見する。
		11月20日、ローマ市議会が常長らへの市民権の授与、および常長を貴族に列することを決議する。
1616年	元和2年	4月17日頃、スペイン政府と再交渉するためマドリッドに到着。
1618年	元和4年	4月2日、アカプルコを出帆。8月10日、フィリピンに到着。
1620年	元和6年	8月頃、フィリピンを出帆した常長が長崎に到着する。
		9月20日、常長が遣欧使節の役目を終え仙台に到着する。その数日後、政宗が領内に向けてキリスト教禁止の札を立てる。
1621年	元和7年	支倉常長が病没する(52歳)。

●偉人マンガ製作・活用検討委員会委員

- 大宮 金治（文化財保護委員会委員長）
大宮 里見（文化財保護委員会副委員長）
真壁 治平（文化財保護委員）
佐藤 貞二（文化財保護委員）
渡邊 榮次（常長顕彰会会長）
山岸 良太（富岡中学校教諭）
金子 航太（川崎小学校教諭）
佐藤 淳（富岡小学校教諭）
栗野 繁（生涯学習課社会教育指導員、文化財保護委員）
村上 透（生涯学習課課長補佐）

●マンガ 「Haruka.」

●監 修 佐々木 徹（仙台市教育委員会文化財課主任 学芸員）

●シナリオ 栗野 繁

●協 力 学校法人北杜学園仙台デザイン専門学校

●参考文献 慶長遣欧使節 伊達政宗が夢見た国際外交
（吉川弘文館）佐々木 徹 著
仙台市史特別編 8 慶長遣欧使節 など

マンガ ふるさとの偉人「支倉常長」

本書は公益財団法人 日本財団、公益財団法人 ブルー・シー・アンド・
グリーンランド財団からの助成金を受けて作製しております。

発行日 2023年3月15日

発行人 川崎町

印刷所 株式会社 津田印刷

本書の収録内容の無断転載、複写、引用は
著作権上の例外を除き禁じられています。

